

令和5年度  
消防防災年報

福 井 県  
＜令和6年刊行＞



# 目 次

## 〔消 防 編〕

### 第1章 消防の概要

第1表 福井県常備消防体制	1
第2表 消防の概況表	2

### 第2章 火災の実態

1 概況	4
2 出火件数および損害額の状況	4
3 出火原因	4
4 火災による死者の状況	5
第1表 1日当たりの損害状況	5
第2表 令和5年火災発生状況と前年比較表	6
第1図 過去10年間の出火件数と損害額の推移	7
第2図 過去10年間の死傷者数等の推移	7
第3図 火災発生件数の内訳	8
第4図 うち建物火災用途別内訳	8
第5図 損害額の内訳	8
第3表 令和5年月別火災発生状況表	9
第4表 市町別火災発生状況表	10
第5表 市町別月別火災発生件数、損害額および出火率	11
第6表 全火災の出火原因別損害状況表	12
第6図 全火災の出火原因別状況	12
第7表 死者の死因別発生状況表	13
第8表 死者の経過別および年齢別発生状況表	13

### 第3章 救急業務の実態

1 救急体制	14
2 救急医療体制	14
3 救急活動状況	14
第1表 救急体制状況表	15
第2表 医療機関状況表	15
第3表 救急活動状況表	15
第4表 高速自動車道における救急活動状況表	15
第1図 過去10年間の救急活動の推移	16
第2図 出場件数の事故種別内訳	16
第3図 搬送人員の事故種別内訳	16

### 第4章 予防行政の概況

1 防火対象物定期点検報告制度	17
第1表 防火対象物定期点検報告制度実施状況表	17
2 消防設備士試験および講習の状況	18
第2表 消防設備士試験実施状況表	18
第3表 消防設備士法定講習実施状況表	18

### 第5章 危険物規制

1 概況	19
第1図 危険物施設構成比	19
第2図 過去10年間の危険物施設の推移	19
第1表 施設別危険物施設数	20
第2表 指定数量別および類別危険物施設数	21

第3表	危険物施設に対する立入検査状況	22
第4表の1	容量別屋外タンク貯蔵所数	23
第4表の2	品名別屋外タンク貯蔵所数	23
第5表	危険物取扱者試験実施状況	24
第6表	危険物取扱者保安講習実施状況	24
2	危険物施設の火災および漏えい事故等	25
第7表	過去5年間の危険物施設における災害事故発生件数	25

## 第6章 消防の概要

1	消防の組織	26
2	消防施設	26
3	民間防火組織	26
4	表彰	27
5	消防の現況	27
第1表	消防職団員数の推移	27
第2表	消防機関の現況	27
第3表	消防の概況	28
第4表	階級別消防職員数	29
第5表	階級別非常勤消防団員数	30
第6表	年齢別消防吏員および消防団員数	31
第7表	在職年数別消防吏員および消防団員数	32
第8表	消防ポンプ自動車等現有数（消防本部および署）	33
第9表	消防ポンプ自動車等現有数（消防団）	34
第10表	化学消火薬剤備蓄状況	35
第11表	消防水利の状況	36
第12表	消防機関の出動状況	37
第13表	消防吏員および団員の公務による死傷者数	37
第14表	火災通報施設等の現況	38
第15表	無線通信施設等の現況	39
第16表	幼年消防クラブの現況	40
第17表	少年消防クラブの現況	41
第18表	女性防火クラブの現況および活動状況	42
第19表	消防表彰受賞状況	43

## 第7章 消防教育訓練

1	消防学校の概要	44
2	教育訓練	44
第1表	令和5年度消防本部別受講者数	45
第2表	令和5年度消防学校教育訓練実施状況	46
第3表	令和5年度消防大学校派遣者数	46

## 〔防災編〕

### 第1章 災害の発生状況

1	令和5年中の災害発生状況	47
第1表	令和5年中の災害発生状況	47
2	過去5年間の災害発生状況	48

### 第2章 令和5年の天候概況

1	天候の特徴	57
2	月別気象概況	58

### 第3章 防災訓練の実施状況

I 総合防災訓練	6 2
II 原子力防災訓練	6 8
III 過去5年間の総合防災訓練等の実施状況	7 4
IV 市町別自主防災組織の結成状況	7 5

### 第4章 防災行政無線利用状況

1 無線局の現況	7 6
2 利用状況	7 8
3 多重局通信回数集計表	8 0
4 端末局無線通信回数調	8 1
5 非常通信訓練実施状況	8 2

### 第5章 防災ヘリコプターの運航体制

1 運航基地	8 4
2 組織図	8 4
3 運航時間	8 4
4 活動業務	8 4
第1表 福井県防災ヘリコプター運航実績表（年度別）	8 5

## [保安編]

### 第1章 高压ガス保安

概況	8 6
第1表 市町別高压ガス関係事業所数	8 7
第2表 令和5年度高压ガス保安法申請等状況	8 8
第3表 令和5年度液化石油ガス法申請等状況	8 8
第4表 令和5年度高压ガス製造保安責任者試験実施状況	8 9
第5表 令和5年度高压ガス販売主任者試験実施状況	9 0
第6表 令和5年度液化石油ガス設備士試験実施状況	9 0
第7表 令和5年度高压ガス関係免状交付状況	9 0
第8表 令和5年度液化石油ガス関係免状交付状況	9 1
第9表 令和5年度高压ガス事故発生状況	9 1
第10表 令和5年度液化石油ガス事故発生状況	9 2

### 第2章 火薬類保安

概況	9 3
第1表 火薬類関係事業所数	9 3
第2表 銃砲関係事業所数	9 4
第3表 火薬類（爆薬）の消費量の推移	9 4
第4表 火薬類取扱および丙種火薬類製造保安責任者試験実施状況	9 4
第5表 令和5年度火薬類保安講習関係講習会実施状況	9 4
第6表 令和5年度火薬類許可申請等の状況	9 5
第7表 令和5年度事故発生状況	9 6



# 消 防 編

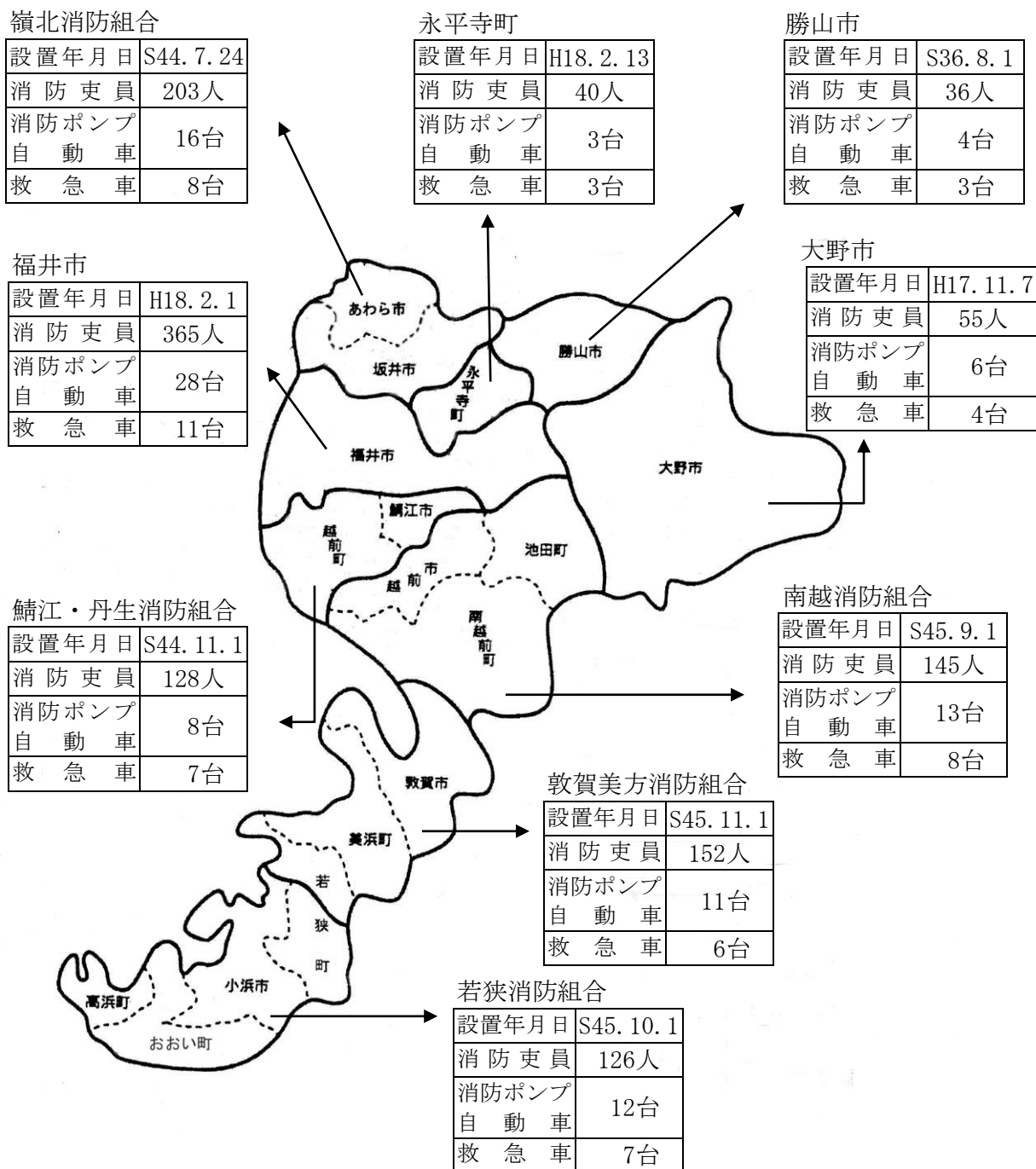
---





# 第1章 消防の概要

## 第1表 福井県常備消防体制(令和6年4月1日現在)



※台数については、消防団分を含まない

第2表 消防の概況表

面積（国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」令和6年4月1日現在）		4,190.54	km <sup>2</sup>
令和2年国勢調査(確定値) 人口		766,863	人
推計人口(令和6年4月1日現在)		740,232	人
推計世帯数(令和6年4月1日現在)		296,585	世帯
65歳以上高齢者数(福井県の推計人口 令和5年10月1日現在)		232,132	人
高齢化率（ " ）		31.6	%
地域別人口	福井坂井地区（令和2年国勢調査 確定値）		397,298 人
	奥越地区		53,436 人
	丹南地区		181,456 人
	嶺南地区		134,673 人
令和5年火災状況	火災件数		174 件
	うち	建物火災件数	98 件
		林野火災件数	4 件
	建物焼損面積(床)		17,335 m <sup>2</sup>
	林野焼損面積		14 a
	損害額		1,266,774 千円
	うち	建物火災	1,199,973 千円
		死者(自殺者数内数)	
	負傷者		31 人
出火率(人口1万人に対する出火件数) ※人口:令和5年3月31日現在		2.33	件
令和5年救急状況	救急出場件数		34,379 件
	うち	急病	22,204 件
		交通事故	2,035 件
		一般負傷	5,710 件
搬送人員		31,911 人	
消防本部・署所	消防本部	単独設置市	3
		単独設置町	1
		消防一部事務組合	5
	消防署数		19
	出張所数		26
	消防職員	消防吏員	1,250 人
		その他の職員	26 人
合計		1,276 人	
消防団	消防団数		18
	分団数		236
	消防団員	非常勤団員数	5,826 人
		常勤団員数	—
		合計	5,826 人

消 防 車 両 等	区 分		消防本部・署所	消 防 団	
	普通消防ポンプ自動車		52 台	125 台	
水槽付消防ポンプ自動車		22 台	4 ー		
はしご付消防ポンプ自動車		9 台	ー		
屈折はしご付消防ポンプ自動車		3 台	ー		
大型高所放水車		1 台	ー		
泡原液搬送車		2 台	ー		
化学消防自動車		14 台	ー		
指揮車		20 台	ー		
小型動力ポンプ付積載車		4 台	203 台		
小型動力ポンプ(車両に積載していないもの)		23 台	62 台		
広報車		26 台	ー		
資機材搬送車		28 台	ー		
屈折放水塔車		1 台	ー		
救急自動車		57 台	ー		
救助工作車		14 台	ー		
その他の車両		28 台	ー		
消 防 水 利	消火栓	公 設		18,978 個	
		私 設		98 個	
	防火水槽	100m <sup>3</sup> 以上		117 基	
		60m <sup>3</sup> 以上 100m <sup>3</sup> 未満		112 基	
		40m <sup>3</sup> 以上 60m <sup>3</sup> 未満		4,975 基	
		20m <sup>3</sup> 以上 40m <sup>3</sup> 未満		464 基	
	井戸	公 設		79 個	
		私 設		ー	
そ の 他				535 個	
通 信 施 設 等	消防用無線		基地局および固定局		66 局
			移動局		1,129 局
	防災行政無線	市町	同報無線	同報親局	24 局
				同報受信設備	47,760 局
		移動無線	基地局	5 局	
			移動局	454 局	
		県	固定系	地上系	28 局
				衛星系	68 局
	移動系	基地局等	18 局		
		移動局等	221 局		
	テレビ監視装置				2 基
	火災報知専用電話				133 回線
消防電話				224 回線	

## 第2章 火災の実態

### 1 概況

令和5年度中の火災発生件数は174件、死者15人、負傷者31人、損害額12億6,677万円、焼損棟数176棟、り災世帯数86世帯、り災人員198人となっており、一日当たりの損害状況は第1表のとおりで、概ね毎日347万円が灰じんに帰していることになる。

火災発生件数、損害額および死傷者数の過去10年間の推移は、第1図、第2図のとおりであり、火災発生件数においては、平成26年中が最も多く、令和3年中が最も少ない。

### 2 出火件数および損害額の状況

#### (1) 出火件数

総出火件数は174件で、これを火災種別ごとにみると、第3図のように建物火災が98件で全体の56.3%を占め、車両火災22件(12.6%)、林野火災4件(2.3%)、船舶火災0件(0%)、その他火災50件(28.7%)となっている。

また、建物火災だけでみると、第4図のように一般住宅が13件(35.1%)で最も多く、次いで工場7件(18.9%)、共同住宅5件(13.5%)、飲食店と事務所それぞれ3件(8.1%)、特定複合用途、倉庫それぞれ2件(5.1%)、その他2件(5.4%)となっている。

第3表の月別火災発生状況表を見ると、出火件数の多い月は8月の30件と3月の27件で、少ない月が1月の6件となっている。

第4表では、市町別の火災発生状況を示している。

#### (2) 損害額

損害額は12億6,677万円で、これを火災種別ごとにみると、第5図のように建物火災が11億9,997万円で全体の94.7%を占め、次いでその他5,415万円(4.3%)となっている。火災1件当たりの損害額は約728万円となる。

第3表の月別火災発生状況表をみると、5月の損害額が約3億1,110万円で最も多く、7月が約6,211万円で最も少ない。

### 3 出火原因

全火災の出火原因別状況を表したのが第6図であり、出火原因別損害状況を表したのが第6表である。

第6図をみると、出火原因ではたき火が最も多く15件で8.6%を占め、次いで、たばこ14件(8%)、電灯電話等の配線と電気機器、ストーブのそれぞれ10件(5.7%)、放火の疑い7件(4%)などとなっている。

#### 4 火災による死者の状況

死者の死因別発生状況を表したのが第7表であり、死者の経過別、年齢別発生状況を表したのが第8表である。

第7表をみると、死因では、一酸化炭素中毒・窒息が5人、火傷が9人となっている。

また、令和5年中の死者に占める65歳以上の高齢者は11人で全体の約7割となった。

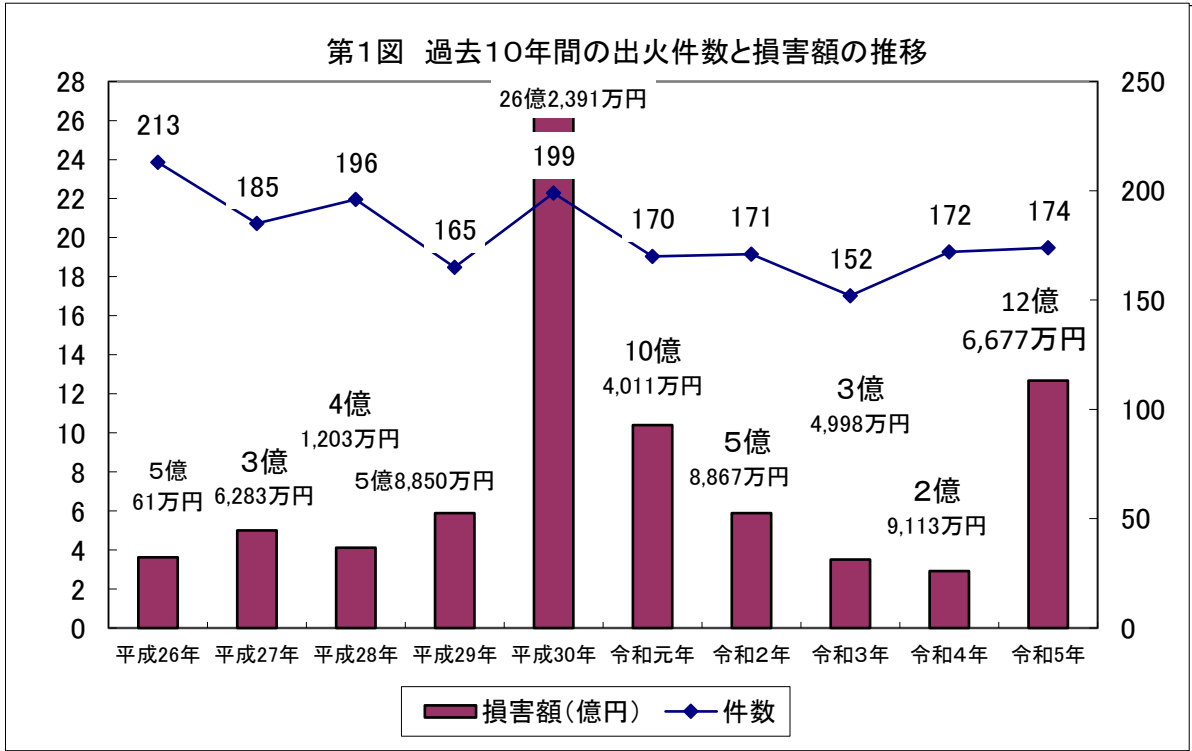
第1表 1日当たりの損害状況

区 分	単 位	令和5年 (A)	令和4年 (B)	対前年増加数 (A)－(B)
出火件数	件	0.48	0.47	0.01
損害額	万円	347	80	267
焼損棟数	棟	0.48	0.38	0.10
り災世帯数	世帯	0.24	0.21	0.03
り災人員	人	0.54	0.46	0.08

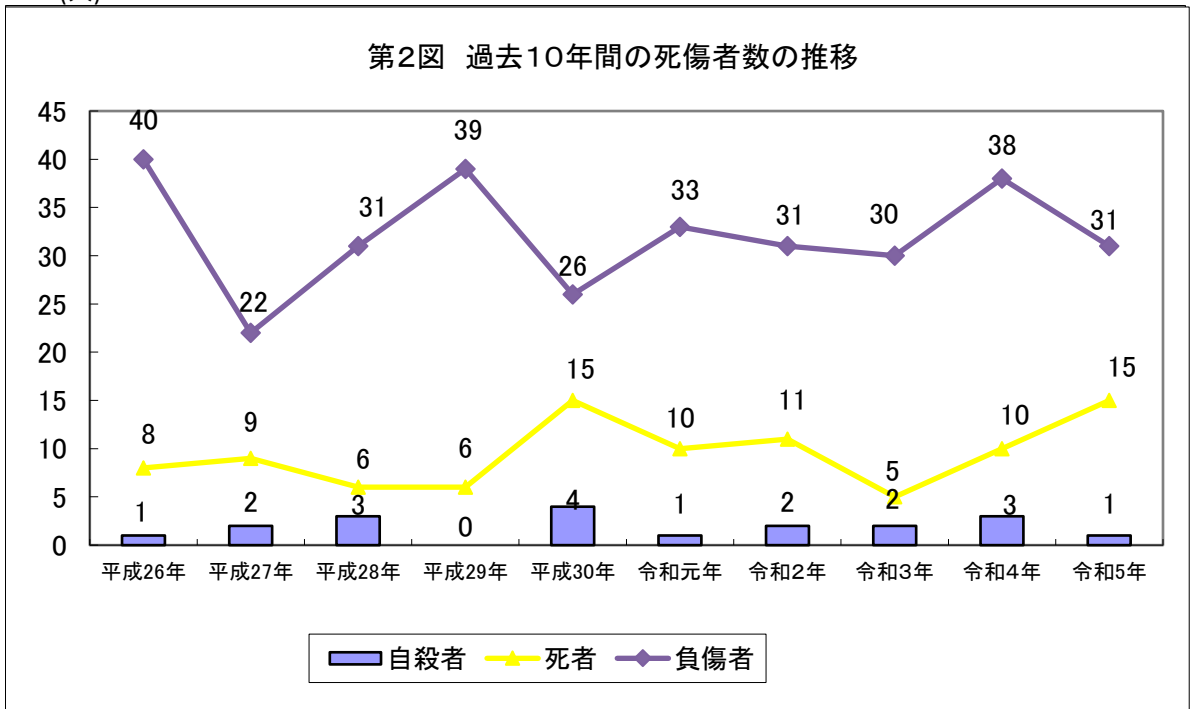
第2表 令和5年火災発生状況と前年比較表

区 分	令和5年(A)	令和4年(B)	対前年増加数 (A) - (B) = (C)
総 出 火 件 数	174	172	2
建 物	98	95	3
林 野	4	6	△ 2
車 両	22	21	1
船 舶	0	2	△ 2
そ の 他	50	48	2
焼 損 棟 数 ( 棟 )	176	137	39
全 焼	51	32	19
半 焼	16	7	9
部 分 焼	58	37	21
ぼ や	51	61	△ 10
り 災 世 帯 数 ( 世 帯 )	86	75	11
全 損	26	17	9
半 損	16	6	10
小 損	44	52	△ 8
り 災 人 員 ( 人 )	198	167	31
建 物 焼 損 面 積 ( m <sup>2</sup> )	17,335	4,670	12,665
林 野 焼 損 面 積 ( a )	14	81	△ 67
損 害 額 合 計 ( 千 円 )	1,266,774	291,134	975,640
建 物	1,199,973	275,478	924,495
林 野	69	537	△ 468
車 両	10,863	7,272	3,591
船 舶	0	51	△ 51
そ の 他	54,147	7,796	46,351
爆 発	1,722	0	1,722
死 者 ( 人 )	15	10	5
( ) は 放 火 自 殺 者 内 数	(1)	(3)	(△ 2)
建 物	14	8	6
林 野	0	0	0
車 両	0	0	0
船 舶	0	0	0
そ の 他	1	2	△ 1
			0
負 傷 者 ( 人 )	31	38	△ 7
建 物	24	30	△ 6
林 野	1	1	0
車 両	4	2	2
船 舶	0	1	△ 1
そ の 他	2	4	△ 2
出 火 率 (人口1万人に対する出火件数)	2.33	2.25	

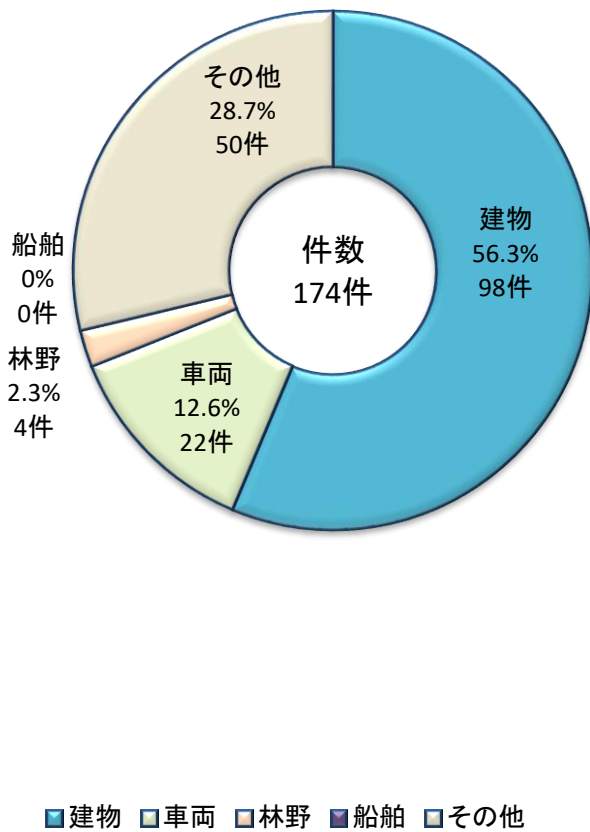
損害額(億円)



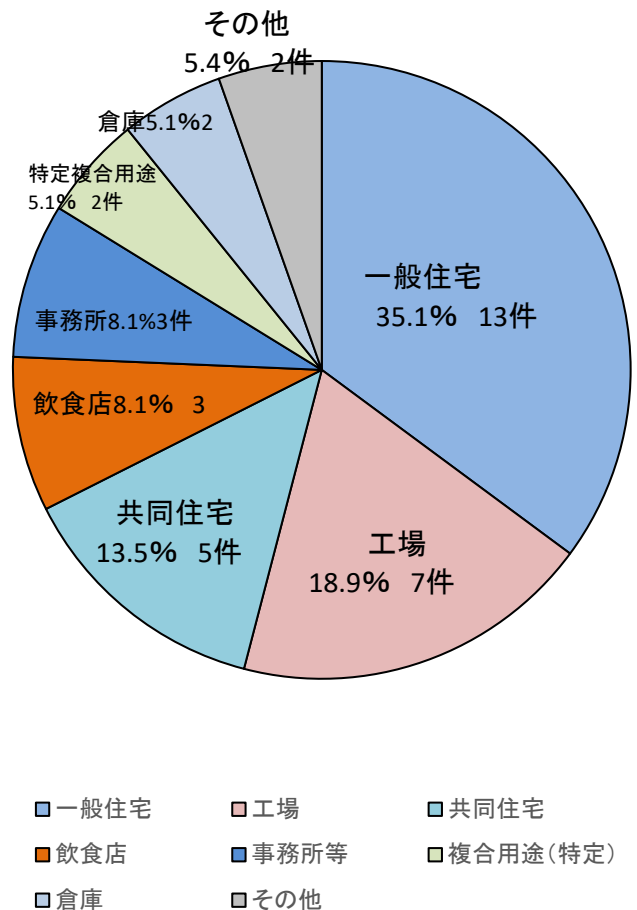
(人)



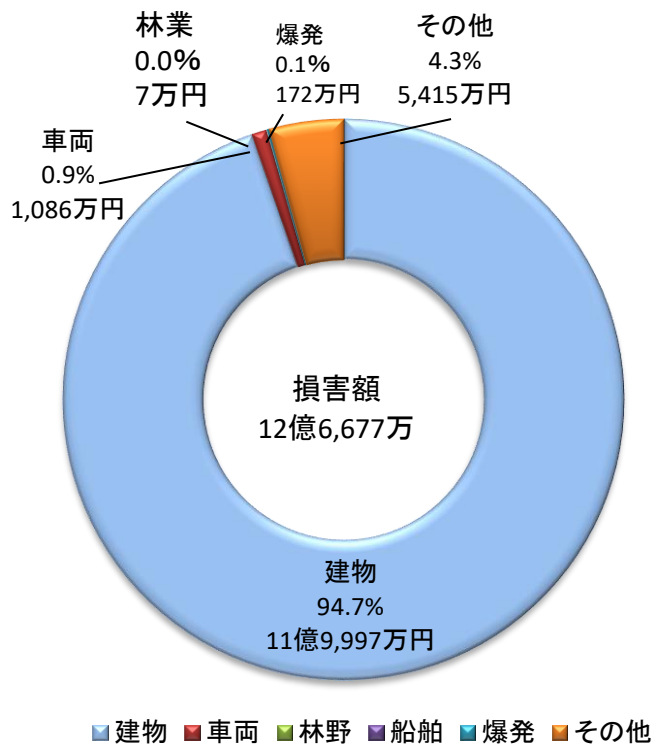
第3図 火災発生件数の内訳



第4図 建物火災用途別内訳



第5図 損害額の内訳





第3表 令和5年月別火災発生状況表

月	出火件数(件)						焼損棟数(棟)				焼損面積			り災世帯数(世帯)			り災人員数(人)	死(人) 内は放火自殺者(人)	負傷者(人)	損害額(千円)								
	合計	建物	林野	車両	船舶	その他	合計	全焼	半焼	部分焼	建物	林野(a)	合計	全	半	小				合計	建物	林野	車両	船舶	その他	爆発		
1	6	6	0	0	0	0	12	3	2	5	2	483	0	9	3	1	5	16	1	(0)	1	58,291	0	0	0	0		
2	12	10	0	0	0	2	22	7	1	8	6	1068	0	15	6	1	8	32	3	(0)	3	81,747	0	227	0	127		
3	27	7	3	5	0	12	17	5	1	8	3	1817	12	6	2	1	3	20	0	(0)	4	197,076	193832	29	3028	0	187	0
4	11	7	0	2	0	2	15	3	3	2	7	692	0	4	0	2	2	11	3	(0)	3	40,678	39730	0	559	0	389	0
5	16	7	1	3	0	5	12	4	0	1	7	6800	2	1	0	0	1	1	1	(0)	3	311,103	288327	40	184	0	22552	0
6	13	8	0	2	0	3	15	6	0	5	4	1044	0	9	3	2	4	22	1	(0)	3	40,520	35319	0	2040	0	3161	0
7	10	4	0	3	0	3	5	0	1	1	3	82	0	2	0	1	1	5	0	(0)	1	6,211	6013	0	135	0	63	0
8	30	14	0	4	0	12	26	6	2	12	6	684	0	11	2	1	8	24	2	(0)	6	47,059	38116	0	2874	0	6069	0
9	7	5	0	0	0	2	8	1	1	4	2	181	0	8	1	4	3	19	1	(0)	3	16,194	16172	0	22	0	0	0
10	11	9	0	0	0	2	13	2	1	4	6	603	0	8	2	1	5	14	2	(1)	2	37,808	35929	0	0	0	157	1722
11	14	7	0	2	0	5	9	2	2	4	1	2139	0	2	1	1	0	3	0	(0)	0	298,680	291262	0	1674	0	5744	0
12	17	14	0	1	0	2	22	12	2	4	4	1742	0	11	6	1	4	31	1	(0)	2	131,407	115589	0	120	0	15698	0
計	174	98	4	22	0	50	176	51	16	58	51	17,335	14	86	26	16	44	198	15	1	31	1,266,774	1,199,973	69	10,863	0	54,147	1722

第4表 市町別火災発生状況表

期間:令和5年1月1日～令和5年12月31日

区分	出火件数(件)						焼損棟数(棟)				り災世帯数(世帯)			り災人員(人)		死傷者数(人)		焼損面積					損害額(千円)							
	計	建物	林野	車両	船舶	航空機	その他	計	全焼	半焼	部分焼	ぼや	計	全損	半損	小損	人員	死者	負傷者	建物床	建物表	林野(a)	合計	建物	林野	車両	船舶	その他	爆発	
																														焼
福井市	45	19	2	10	0	0	14	26	9	2	6	9	15	4	2	9	29	0	5	954	38	3	76,611	73,570	69	1299	0	1673	0	
敦賀市	16	9	0	2	0	0	5	20	6	0	9	5	10	1	4	5	26	1	7	7083	55	0	376,558	329,697	0	2442	0	44419	0	
小浜市	8	4	0	2	0	0	2	8	2	0	2	4	3	1	0	2	5	1	2	199	16	0	6,277	6056	0	202	0	19	0	
大野市	4	3	0	1	0	0	0	7	3	1	2	1	1	1	0	2	2	1	457	21	0	11,596	9466	0	2020	0	110	0		
勝山市	6	2	0	1	0	0	3	3	1	0	2	0	1	1	0	4	1	0	419	10	0	13,073	11791	0	1282	0	0	0		
鯖江市	7	6	0	0	0	0	1	9	1	2	4	2	4	1	0	3	8	3	1	319	5	0	12,345	10546	0	77	0	0	1722	
あわら市	7	2	1	1	0	0	3	7	1	1	2	3	2	0	0	2	4	0	5	474	49	1	25,846	25098	0	378	0	370	0	
越前市	26	19	0	0	0	0	7	32	8	3	6	15	17	6	3	8	41	4	2	1582	104	0	100,105	99833	0	2	0	270	0	
坂井市	24	14	0	4	0	0	6	33	11	3	12	7	19	7	3	9	37	2	7	3671	159	0	520,569	511969	0	1327	0	7273	0	
市計	143	78	3	21	0	0	41	145	42	12	45	46	72	22	12	38	156	14	30	15,158	457	4	1,142,980	1,078,026	69	9,029	0	54,134	1,722	
永平寺町	3	3	0	0	0	0	0	5	1	1	2	1	4	1	1	2	8	0	0	347	38	0	29,061	29061	0	0	0	0	0	
池田町	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	
南越前町	5	5	0	0	0	0	0	6	0	1	2	3	2	0	1	1	5	0	1	32	5	0	3,078	3078	0	0	0	0	0	
越前町	8	4	0	0	0	0	4	7	4	0	3	0	3	2	0	1	5	1	0	726	14	0	11,528	11512	0	14	0	2	0	
美浜町	2	1	0	0	0	0	1	1	0	0	1	0	1	0	0	1	5	0	0	22	0	0	480	480	0	0	0	0	0	
高浜町	4	1	0	1	0	0	2	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	97	3	0	94	0	0	0	
おおい町	2	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	6	0	0	0	0	0	
若狭町	6	5	0	0	0	0	1	10	4	2	4	0	4	1	2	1	19	0	0	1,051	44	0	79,544	77,807	0	1,726	0	11	0	
(内訳)																														
旧三方町 敦賀県若狭郡	2	2	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0	1	0	1	0	5	0	0	97	0	0	13,577	13,577	0	0	0	0	0	
旧上中町 若狭郡若狭町	4	3	0	0	0	0	1	8	3	1	4	0	3	1	1	1	14	0	0	954	44	0	65,967	64,230	0	1,726	0	11	0	
町計	31	20	1	1	0	0	9	31	9	4	13	5	14	4	4	6	42	1	1	2,178	102	10	123,794	121,947	0	1,834	0	13	0	
県計	174	98	4	22	0	0	50	176	51	16	58	51	86	26	16	44	198	15	31	17,336	559	14	1,266,774	1,199,973	69	10,863	0	54,147	1,722	

若狭町は、旧三方町と旧若狭町では消防の管轄が異なるため、内訳を記載

第5表 市町別月別火災発生件数、損害額および出火率

期間：令和5年1月1日～令和5年12月31日

区分	総計		1月		2月		3月		4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		出火率 (人口 1万人に 対する 出火件数)
	件 数	損害額 (千円)	件 数	損害額 (千円)	件 数	損害額 (千円)	件 数	損害額 (千円)	件 数	損害額 (千円)	件 数	損害額 (千円)	件 数	損害額 (千円)	件 数	損害額 (千円)	件 数	損害額 (千円)	件 数	損害額 (千円)	件 数	損害額 (千円)	件 数	損害額 (千円)	件 数	損害額 (千円)	
福井市	45	76,611	1	6	11118	6	627	2	606	6	381	4	25951	3	5709	7	2259	2	7	3	34	1	14216	4	15702	1.75	
敦賀市	16	376,558	0	1	10884	3	4755	0	0	1	310536	1	0	0	0	5	5457	1	9143	1	1	2	5649	1	30133	2.57	
小浜市	8	6,277	0	1	31	1	0	0	0	0	0	0	0	1	60	0	0	1	4563	0	0	1	0	3	1623	2.84	
大野市	4	11,596	0	0	0	0	0	0	0	1	2130	1	18	0	0	1	6826	0	0	1	6826	0	0	1	2622	1.35	
勝山市	6	13,073	0	0	0	3	75	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1282	2	11716	2.83	
鯖江市	7	12,345	0	1	9932	0	0	0	0	0	0	0	0	1	53	3	638	1	0	1	1722	0	0	0	0	1.03	
あわら市	7	25,846	0	0	0	1	24932	0	0	1	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	378	1	536	2.64	
越前市	26	100,105	3	5476	19528	3	63	2	1525	4	48	3	6360	3	381	4	32411	0	0	1	152	0	0	2	34161	3.31	
坂井市	24	520,569	2	52814	26859	2	125785	2	11	2	38	1	5881	2	8	3	5113	0	0	1	9	5	269137	3	34914	2.77	
市計	143	1,142,980	6	58,291	78,352	19	131,305	7	27,074	13	311,003	11	40,322	10	6,211	25	45,896	5	13,713	8	8,744	11	290,662	17	131,407	2.17	
永平寺町	3	29,061	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	29,061	0	0	0	1.61	
池田町	1	2,481	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,481	0	0	0	0	0	0	4.46	
南越前町	5	597	0	0	0	0	0	1	27	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	1	570	0	0	5.30	
越前町	8	11,528	0	1	3,395	3	2	1	0	0	0	0	0	0	0	1	683	0	0	0	0	2	7,448	0	0	4.14	
美浜町	2	480	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	480	0	0	0	0	0	0	0	0	2.27	
高浜町	4	97	0	0	0	1	0	0	0	1	94	0	0	0	1	0	0	0	0	1	3	0	0	0	0	4.05	
おおい町	2	6	0	0	0	1	0	0	0	1	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2.64	
若狭町	6	79,544	0	0	0	2	65,769	2	13,577	0	0	1	198	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
(内訳)																											
旧三方町 新三方町	2	13,577	0	0	0	0	2	13,577	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4.52
旧上中町 若狭町	4	65,967	0	0	0	2	65,769	0	0	0	1	198	0	0	0	1	198	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
町計	31	123,794	0	1	3,395	8	65,771	4	13,604	3	100	2	198	0	0	5	1,163	2	2,481	3	29,064	3	8,018	0	0	3.48	
県計	174	1,266,774	6	58,291	81,747	27	197,076	11	40,678	16	311,103	13	40,520	10	6,211	30	47,059	7	16,194	11	37,808	14	298,680	17	131,407	2.33	

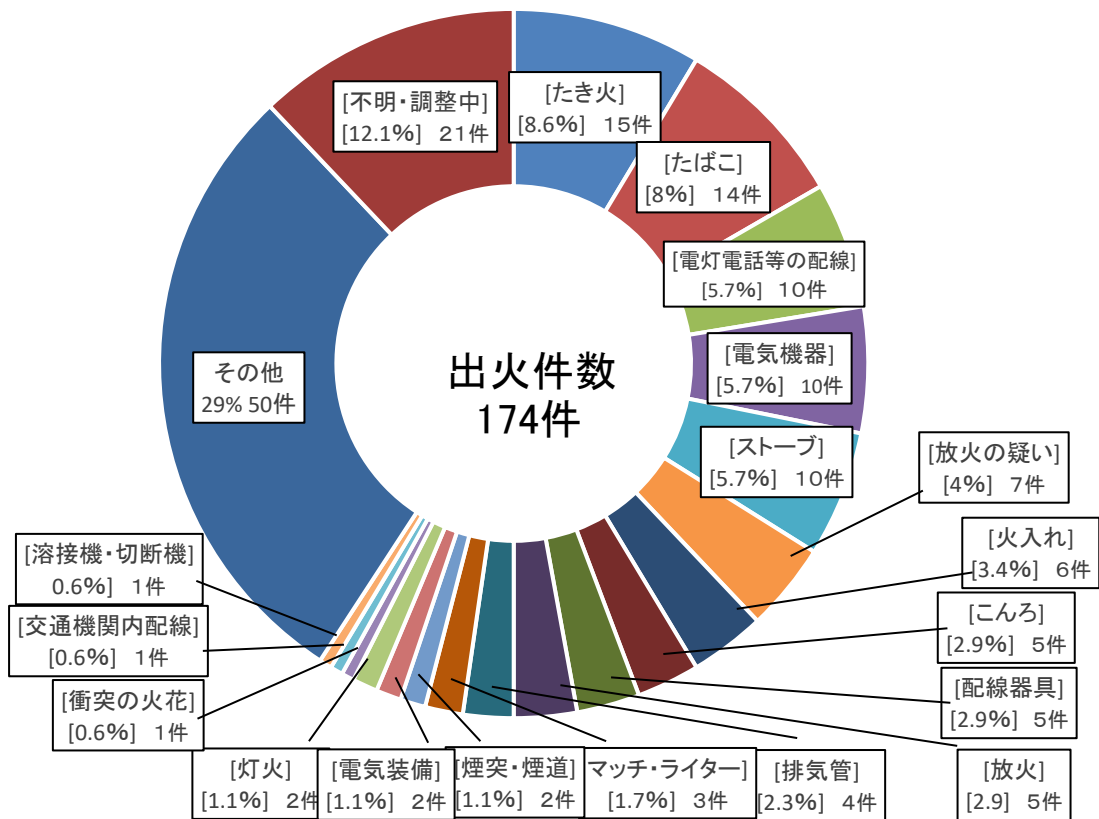
若狭町は、旧三方町と旧若狭町では消防の管轄が異なるため、内訳を記載した。  
出火率(人口1万人に対する出火件数)は、令和5年3月31日現在の住民基本台帳人口により算定

第6表 全火災の出火原因別損害状況表

期間:令和5年1月1日～令和5年12月31日

出火原因	出火件数(件)	焼損床面積(㎡)	焼損棟数(棟)	り災世帯数(世帯)	損害額(千円)
たき火	15	442	10	2	26,277
たばこ	14	730	19	11	71,338
電灯電話等の配線	10	131	3	5	1,934
ストーブ	10	1,706	24	13	194,382
電気機器	10	695	9	6	31,961
放火の疑い	7	45	4	3	531
火入れ	6	0	0	0	202
こんろ	5	86	5	5	9,646
配線器具	5	0	3	1	1,070
放火	5	50	3	2	5,968
排気管	4	0	0	0	244
マッチ・ライター	3	0	1	1	49
煙突・煙道	2	212	3	2	13,056
灯火	2	217	3	3	4,898
電気装置	2	0	2	0	59
交通機関内配線	1	0	0	0	94
溶接機・切断機	1	0	1	0	70

第6図 全火災の出火原因別状況



第7表 死者の死因別発生状況表

火災種別 \ 死因	一酸化炭素 中毒・窒息	火傷	打撲・骨折 等	自殺	その他	不明	合計(人)
建 物 火 災	5	9	0	0	0	0	14
林 野 火 災	0	0	0	0	0	0	0
車 両 火 災	0	0	0	0	0	0	0
そ の 他 火 災	0	0	0	1	0	0	1
合 計 ( 人 )	5	9	0	1	0	0	15

第8表 死者の経過別および年齢別発生状況表

経過別 \ 年齢別(歳)	0 ～ 5	6 ～ 10	11 ～ 20	21 ～ 30	31 ～ 40	41 ～ 50	51 ～ 60	61 ～ 64	65 ～ 70	71 ～ 80	81～	不明	合計 (人)
熟睡等により発見遅れる										2			2
逃げる暇がなかった (その他)				1									1
延焼拡大が早く逃げ 切れなかった									1	1			2
逃げ切れなかった(そ の他)							1	1			1		3
放火自殺									1				1
不明・調査中							1			1	4		6
合計(人)	0	0	0	1	0	0	2	1	2	4	5	0	15

## 第3章 救急業務の実態

### 1 救急体制

災害により生じた事故または屋外もしくは公衆の出入りする場所、あるいは屋内において生じた事故で、迅速に搬送する手段がない場合に傷病者を医療機関等へ搬送する業務が救急業務であるが、令和6年4月1日現在、第1表のとおり、救急自動車57台(全て高規格救急自動車)、救急隊50隊、救急隊員575名(うち救急救命士252名)で救急業務にあたっている。

### 2 救急医療体制

救急隊が搬送する傷病者を受け入れる救急告示医療機関数は、令和6年4月1日現在、第2表のとおり50施設である。

### 3 救急活動状況

救急活動状況を表したのが第3表であり、救急出場件数は34,379件、搬送人員は31,911人となっている。県内1日あたりの出場件数は約94件となり、約15分に1回の割合で救急隊が出場したことになる。

過去10年間の出場件数および搬送人員の推移を表したのが第1図である。令和2年には新型コロナウイルスの感染拡大による外出自粛等の影響で救急需要が大幅に減少したことから、出場件数と搬送人員ともに令和元年との比較で13%減少し、過去10年で最少となった。一方で、令和3年は、活動の制限が緩和されたことに伴って救急需要も増加し、令和2年との比較で、出場件数は10%、搬送人員は9%増加した。令和4年は令和3年との比較で、出場件数は12%、搬送人員は11%増加し、令和5年は令和4年との比較で、出場件数は7%、搬送人員は6%増加したことにより、出場件数と搬送人員が過去10年で最多であった。

出場件数、搬送人員の事故種別内訳を表したのが第2図、第3図であり、出場件数の事故種別内訳では、急病が22,204件で、全体の64.6%を占め、次いで一般負傷5,710件(16.6%)、交通事故2,035件(5.9%)などとなっている。搬送人員では急病が20,553人で全体の64.4%を占め、次いで一般負傷5,373人(16.8%)、交通事故2,055人(6.4%)などとなっている。

第1表 救急体制状況表

令和6年4月1日現在

消防本部名	救急自動車			救急隊員						救急隊
	高規格救急車	通常型	合計	専任		兼任		合計		合計
				救急救命士		救急救命士		救急救命士		
福井市	11	0	11	54	40	27	21	81	61	9
大野市	4	0	4			44	17	44	17	4
勝山市	3	0	3			29	11	29	11	2
永平寺町	3	0	3			33	12	33	12	2
嶺北消防組合	8	0	8			117	42	117	42	8
鯖江・丹生消防組合	7	0	7			96	35	96	35	6
南越消防組合	8	0	8			72	23	72	23	8
敦賀美方消防組合	6	0	6	19	16	17	9	36	25	5
若狭消防組合	7	0	7	8	6	59	20	67	26	6
合計	57	0	57	81	62	494	190	575	252	50

第2表 医療機関状況表

令和6年4月1日現在

告示別	種別	国・公立	公的	私的		合計
				病院	診療所	
救急告示医療機関		8	4	28	10	50
その他の医療機関		17	5	18	410	450
合計		25	9	46	420	500

第3表 救急活動状況表

(令和5年中)

	合計	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自行損傷	急病	その他
救急出場件数	34,379	84	1	61	2,035	391	315	5,710	63	252	22,204	3,263
搬送人員	31,911	28	1	32	2,055	375	310	5,373	54	161	20,553	2,969

第4表 高速自動車道における救急活動状況表

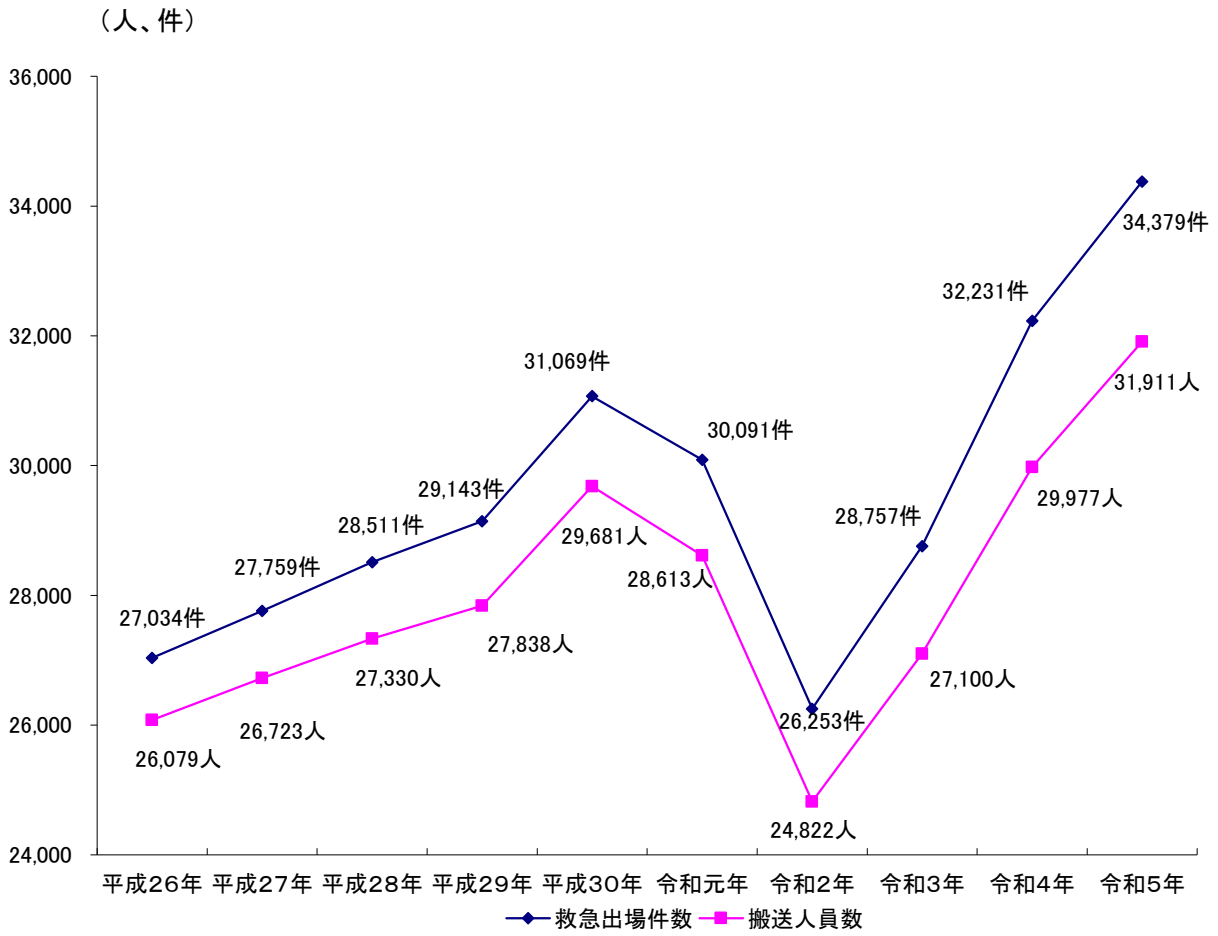
(令和5年中)

高速道路名	北陸自動車道										小計	
担当消防本部名	嶺北消防組合消防本部				福井市消防局		鯖江・丹生消防組合消防本部		南越消防組合消防本部			敦賀美方消防組合消防本部
I C 名	金津	丸岡	福井北	福井	鯖江	武生	今庄	敦賀				
救急出動数	8	6	0	1		10	26	14			23	88
搬送人員	7	6	0	1		13	25	18			17	87

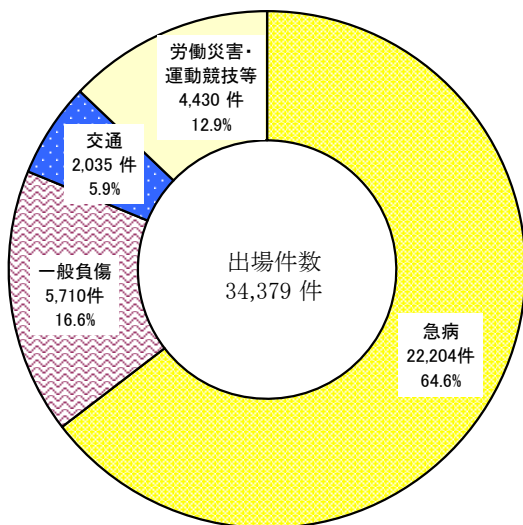
  

高速道路名	舞鶴若狭自動車道										小計	計
担当消防本部名	敦賀美方消防組合消防本部					若狭消防組合消防本部						
I C 名	敦賀南	若狭美浜	若狭三方	三方五湖	三方五湖	若狭上中	小浜	小浜西	大飯高浜			
救急出動数	0	2	1	2	0	0	1	4	0		10	98
搬送人員	0	2	1	2	0	0	3	4	0		12	99

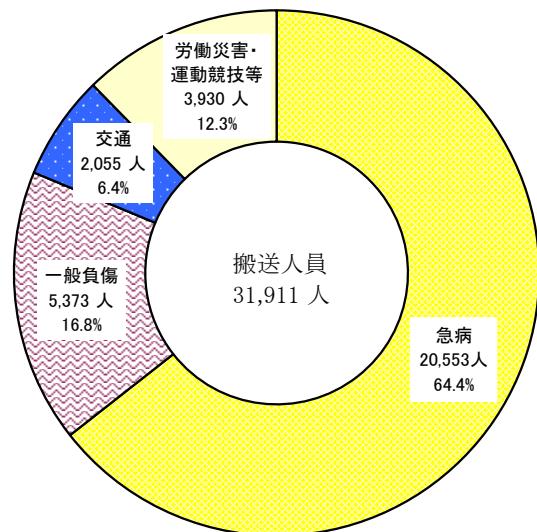
第1図 過去10年間の救急活動の推移



第2図 出場件数の事故種別内訳



第3図 搬送人員の事故種別内訳





## 第4章 予 防 行 政 の 概 況

### 1 防火対象物定期点検報告制度

不特定多数の人が出入りするなど一定の防火対象物について、所有者や賃借人等のうち管理について権原を有する人が、火災予防のために資格者による定期点検を行い、その結果を消防機関へ報告する制度である。

この制度による令和5年4月1日から令和6年3月31日までの状況は第1表のとおりである。

第1表 防火対象物定期点検報告制度実施状況表

防火対象物の区分		点検を要する 防火対象物数		点検報告済 防火対象物数		特例認定済 防火対象物数		
		第1号該当	第2号該当	第1号該当	第2号該当	第1号該当	第2号該当	
1	イ	劇場、映画館、演芸場または観覧場	31		10		8	
	ロ	公会堂または集会場	219		118		53	
2	イ	キャバレー、カフェー、ナイトクラブその他これらに類するもの						
	ロ	遊技場またはダンスホール	50		36		7	
	ハ	性風俗関連特殊営業を営む店舗等						
	ニ	カラオケボックス等	1	1		1		
3	イ	待合、料理店その他これらに類するもの	1	5		2		
	ロ	飲食店	5	29	4	10		
4		百貨店、マーケットその他の物品販売業を営む店舗または展示場	204	11	151	6	3	1
5	イ	旅館、ホテル、宿泊所その他これらに類するもの	40	78	21	15	9	19
6	イ	病院、診療所または助産所	37	9	16	1	9	3
	ロ	老人短期入所施設、養護老人ホーム、精神障害者社会復帰施設等	7	5	3	4	3	
	ハ	老人デイサービスセンター、老人福祉センター、精神障害者社会復帰施設（軽微）等	2	7	1	3	1	
	ニ	幼稚園または特別支援学校	1		1			
9	イ	公衆浴場のうち、蒸気浴場、熱気浴場その他これらに類する公衆浴場	2		1			
16	イ	複合用途防火対象物のうち、その一部が上記に該当する用途に供されているもの	199	27	111	5	22	2
16の2		地下街						
合 計			799	172	473	47	115	25

#### 【備考】

- ・点検報告済防火対象物とは、1年に1回、防火対象物点検資格者による点検報告が必要なもので、点検の結果、点検基準に適合していると認められた防火対象物。「防火基準点検済証」を表示することができる。
- ・特例認定済防火対象物とは、一定の要件を満たしているもので、申請によって点検報告の義務が3年間免除される防火対象物「防火優良認定証」を表示することができる。
- ・第1号該当とは、収容人員が300人以上の防火対象物
- ・第2号該当とは、収容人員が30人以上300人未満の防火対象物で次の要件に該当する防火対象物
  - 特定用途部分が地階または3階以上に存するもの（避難階は除く）
  - 階段が2以上設けられていないもの
- ・調査基準日…令和6年3月31日
- ・調査期間……令和5年4月1日～令和6年3月31日

## 2 消防設備士試験および講習の状況

消防設備士は、甲種・乙種合わせて703人の受験者に対して306人が合格し、合格率は43.5%であった。その状況は第2表のとおりである。

また、免状所有者に対する義務講習は625人が受講した。その状況は第3表のとおりである。

### 第2表 消防設備士試験実施状況表

区 分	令和5年度								免状交付延べ数	
	受験者数(人)		合格人数(人)		合格率(%)		免状交付数			
	甲種	乙種	甲種	乙種	甲種	乙種	甲種	乙種	甲種	乙種
特 類	9		5		55.6%		1		20	
第1類	80	22	21	4	26.3%	18.2%	9	9	1,349	375
第2類	25	12	15	7	60.0%	58.3%	5	1	391	119
第3類	38	11	17	5	44.7%	45.5%	9	1	340	79
第4類	159	73	73	33	45.9%	45.2%	50	32	3,067	1,292
第5類	28	13	9	5	32.1%	38.5%	8	4	359	142
第6類		192		81		42.2%		72		2,568
第7類		41		31		75.6%		28		3,534
計	339	364	140	166	41.3%	45.6%	82	147	5,526	8,109

### 第3表 消防設備士法定講習実施状況表

区 分	受 講 対 象 者 区 分	受講者数(人)	実 施 年 月 日
消 火 設 備	(甲・乙)第1類, 第2類, 第3類 消防設備士	147	令和5年8月29日(火)
避難設備・消火器	(甲・乙)第5類, (乙)第6類 消防設備士	172	令和5年8月30日(水) 令和5年12月19日(火)
警 報 設 備	(甲・乙)第4類, (乙)第7類 消防設備士	306	令和5年12月20日(水) 令和5年12月21日(木)
合 計		625	

## 第5章 危険物規制

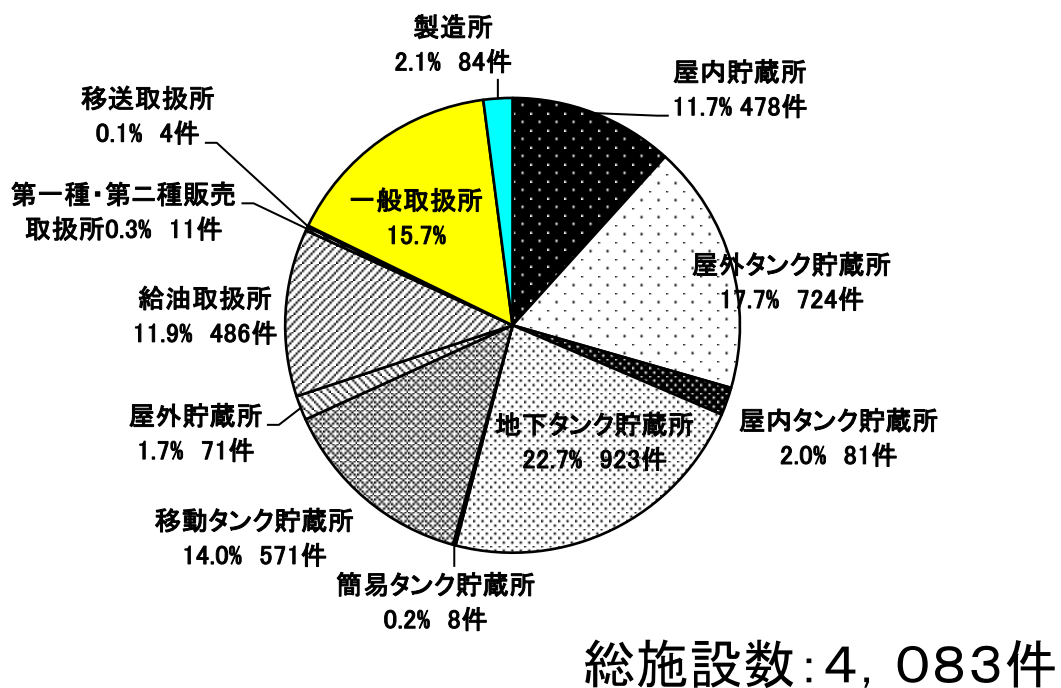
### 1 概況

(1) 危険物規制は、福井市、大野市、勝山市および永平寺町においては当該市町が、またその他の市町においてはそれぞれの加入する消防組合が行なっている。

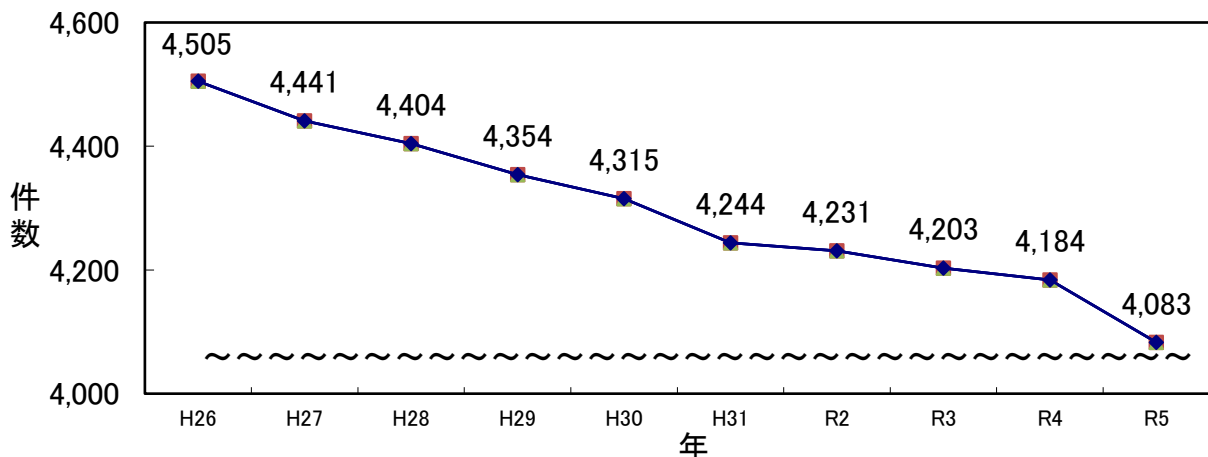
なお、県内の総施設数は第1図のとおりである。(令和6年3月31日現在)

(2) 危険物の総施設数の推移は第2図のとおり減少傾向であり、前年に対し101件減少している。

第1図 危険物施設構成比(完成検査済証交付分)



第2図 過去10年間の危険物施設の推移



第1表 施設別危険物施設数

令和6年3月31日現在

危険物施設の別 消防本部名	製 造 所 (A)	貯 蔵 所										取 扱 所					合 計 (A + B + C)	事 業 所	
		屋 内 貯 蔵 所	屋 外 タ ン ク 貯 蔵 所	準 特 定 屋 外 タ ン ク 貯 蔵 所		屋 内 タ ン ク 貯 蔵 所	地 下 タ ン ク 貯 蔵 所	簡 易 タ ン ク 貯 蔵 所	移 動 タ ン ク 貯 蔵 所	屋 外 貯 蔵 所	小 計 (B)	給 油 取 扱 所	第 一 種 販 売 取 扱 所	第 二 種 販 売 取 扱 所	移 送 取 扱 所	一 般 取 扱 所			小 計 (C)
				特 定 屋 外 タ ン ク 貯 蔵 所	特 定 屋 外 タ ン ク 貯 蔵 所														
福 井 市	26	110	194	5	20	27	248	1	157	18	755	121	8	0	1	138	268	1,049	491
大 野 市	0	8	14	0	0	0	49	0	32	0	103	20	0	0	0	30	50	153	90
勝 山 市	3	9	23	0	0	1	42	0	13	2	90	15	0	0	0	20	35	128	76
永 平 寺 町	0	5	3	0	0	2	19	0	13	0	42	6	0	0	0	11	17	59	35
嶺北消防組合	35	100	191	3	34	11	156	1	102	22	589	82	0	0	2	166	250	874	294
鯖江・丹生消防組合	5	60	49	0	0	4	100	0	44	6	263	42	0	2	0	46	90	358	271
南越消防組合	13	71	104	0	0	12	115	2	71	9	384	63	0	0	0	74	137	534	240
敦賀美方消防組合	1	56	90	7	8	15	118	0	88	11	378	88	0	0	1	94	183	562	221
若狭消防組合	1	55	56	0	0	9	76	4	51	3	252	49	1	0	0	63	113	366	153
合 計	84	478	724	15	62	81	923	8	571	71	2,856	486	9	2	4	642	1,143	4,083	1,871

- 注：1 貯蔵所および取扱所の区分は危険物の規制に関する政令の区分による（以下の表においても同様）。
- 2 本表には、設置を許可した施設のうち、完成検査済証を交付した施設数から廃止届を受理した施設数を除いた数を記載（以下の表においても同様）
- 3 準特定屋外タンク貯蔵所には、屋外タンク貯蔵所のうち、貯蔵し、または取り扱う液体の危険物の最大数量が五百キロリットル以上千キロリットル未満のものを記載（以下の表においても同様）
- 4 特定屋外タンク貯蔵所数は、屋外タンク貯蔵所のうち、貯蔵し、または取り扱う液体の危険物の最大数量が千キロリットル以上のものを記載（以下の表においても同様）
- 5 事業所数は、危険物施設を有する事業所の数を記載

第2表 指定数量別および類別危険物施設数

令和6年3月31日現在

危険物施設の別 数量別・類別	製 造 所 (A)	貯 蔵 所									取 扱 所						合 計 (A + B + C)		
		屋 内 貯 蔵 所	屋 外 タ ン ク 貯 蔵 所	準 特 定 屋 外 タ ン ク 貯 蔵 所	特 定 屋 外 タ ン ク 貯 蔵 所	屋 内 タ ン ク 貯 蔵 所	地 下 タ ン ク 貯 蔵 所	簡 易 タ ン ク 貯 蔵 所	移 動 タ ン ク 貯 蔵 所	屋 外 貯 蔵 所	小 計 (B)	給 油 取 扱 所	第 一 種 販 売 取 扱 所	第 二 種 販 売 取 扱 所	移 送 取 扱 所	一 般 取 扱 所		小 計 (C)	
5倍以下	4	214	113			54	468	8	436	14	1,307	38	3			271	312	1,623	
5倍を超えて10倍以下	11	96	89			22	219		17	27	470	50	4			157	211	692	
10 " 50 "	34	84	246			5	156		25	27	543	127	2	2		128	259	836	
50 " 100 "	17	20	92				37		68	2	219	67				37	104	340	
100 " 150 "	3	33	53				26		24		136	52				15	67	206	
150 " 200 "		12	9	1			7			1	29	51				9	60	89	
200 " 1,000 "	15	16	58	9	3		10		1		85	100				18	118	218	
1,000 " 5,000 "		3	22	5	17						25	1				3	4	29	
5,000 " 10,000 "			3		3						3					2	2	5	
10,000倍を超えるもの			39		19						39				4	2	6	45	
合 計	84	478	724	15	42	81	923	8	571	71	2,856	486	9	2	4	642	1,143	4,083	
単 独	第 1 類		6								6							6	
	第 2 類	1	4								4					4	4	9	
	第 3 類		3								3					5	5	8	
	第 4 類	58	420	820	15	62	81	923	8	571	70	2,893	486	9	2	4	611	1,112	4,063
	第 5 類		13	2							15							15	
	第 6 類			2							2							2	
混 在	25	32								1	33					22	22	80	
合 計	84	478	824	15	62	81	923	8	571	71	2,956	486	9	2	4	642	1,143	4,183	

注：1 数量別の欄は、危険物施設で貯蔵または取り扱う危険物の最大数量（許可数量）を指定数量の倍数によって表したものである。  
 2 類別の欄の単独には、類を同じくする危険物のみを貯蔵または取り扱っている危険物施設の数、混在には、類を異にする危険物を貯蔵または取り扱っている危険物施設の数に記載

第3表 危険物施設に対する立入検査状況

令和5年4月 1日から  
令和6年3月31日まで

危険物施設の別 製造所 (A)		貯蔵所								取扱所					合計 (A+B+C)		
		屋内貯蔵所	屋外タンク貯蔵所	屋内タンク貯蔵所	地下タンク貯蔵所	簡易タンク貯蔵所	移動タンク貯蔵所	屋外貯蔵所	小計 (B)	給油取扱所	第一種販売取扱所	第二種販売取扱所	移送取扱所	一般取扱所		小計 (C)	
消防本部名	検査施設数	26	42	175	12	118		156	18	521	81	1		1	131	214	761
	延回数	26	43	175	14	127		156	18	533	93	1		1	136	231	790
福井市	検査施設数							31		31	10					10	41
	延回数							31		31	10					10	41
大野市	検査施設数																
	延回数																
勝山市	検査施設数	2	6	18	1	30		12	1	68	10				12	22	92
	延回数	2	6	18	1	30		12	1	68	10				12	22	92
永平寺町	検査施設数		5	3	2	19		13		42	6				11	17	59
	延回数		5	3	2	19		13		42	6				11	17	59
嶺北消防組合	検査施設数	8	31	79	3	38		95	11	257	55			2	53	110	375
	延回数	8	31	79	3	40		95	11	259	55			2	53	110	377
鯖江・丹生消防組合	検査施設数	5	38	35	1	79		1	7	161	37		3		32	72	238
	延回数	5	38	35	1	79		1	7	161	37		3		32	72	238
南越消防組合	検査施設数		18	28	1	19		63	3	132	18				7	25	157
	延回数		18	28	1	19		64	3	133	18				7	25	158
敦賀美方消防組合	検査施設数	1	25	45	7	41		82	4	204	68			1	46	115	320
	延回数	1	25	45	7	41		82	4	204	68			1	46	115	320
若狭消防組合	検査施設数	1	29	35	5	37		49	2	157	32				24	56	214
	延回数	1	29	35	6	42		57	2	171	32				24	56	228
合計	検査施設数	43	194	418	32	381		502	46	1,573	317	1	3	4	316	641	2,257
	延回数	43	195	418	35	397		511	46	1,602	329	1	3	4	321	658	2,303

注：1 検査施設数の欄は、立入検査を行った施設数を危険物施設の区分ごとに記載  
2 延回数の欄は、立入検査を行った延回数を危険物施設の区分ごとに記載



第5表 危険物取扱者試験実施状況

区 分 種 別		令和2年度 合格率 (%)	令和3年度 合 格 率 ( % )	令和4年度 合 格 率 ( % )	令和5年度		
					受験者数 ( 人 )	合格者数 ( 人 )	合 格 率 ( % )
甲 種		39.6	36.2	36.6	170	64	37.6
乙 種	第 1 類	68.3	63.2	67.7	106	74	69.8
	第 2 類	66.7	69.2	62.4	102	65	63.7
	第 3 類	70.2	70.3	73.2	128	92	71.9
	第 4 類	38.8	37.3	30.0	2,260	624	27.6
	第 5 類	71.9	70.1	37.9	121	90	74.4
	第 6 類	58.8	59.2	74.1	127	90	70.9
	小 計	46.5	45.5	38.5	2,844	1,035	36.4
丙 種		49.0	57.2	45.6	449	203	45.2
合 計		46.5	46.6	39.4	3,463	1,302	37.6

第6表 危険物取扱者保安講習実施状況

区 分 講習種別		令和2年度 受講者数 (人)	令和3年度 受講者数 (人)	令和4年度 受講者数 (人)	令和5年度	
					受講者数 (人)	講習実施回 数 ( 回 )
給 油 取 扱 所		461	399	377	437	8
石 油 コ ン ビ ナ ー ト		51	45	25	40	1
そ の 他		1,584	1,580	1,165	1,728	10
合 計		2,096	2,024	1,567	2,205	19

- 注：1 「給油取扱所」は、給油取扱所において危険物の取扱作業に従事している危険物取扱者を対象とした講習種別である。
- 2 「石油コンビナート」は、石油コンビナート等災害防止法上の特定事業所における危険物施設において危険物の取扱作業に従事する危険物取扱者を対象とした講習種別である。
- 3 「その他」は、「給油取扱所」および「石油コンビナート」以外の危険物施設において危険物の取扱作業に従事する危険物取扱者を対象とした講習種別である。



## 2 危険物施設の火災および漏えい事故等

- (1) 過去5年間における危険物の災害事故発生件数は、令和3年が9件と最も多い。  
 (2) 過去5年間の危険物施設別の災害事故発生件数は、移動タンク貯蔵所での事故が9件と最も多い。

第7表 過去5年間の危険物施設における災害事故発生件数

年	危険物施設の別の別	製造所 (A)	貯蔵所							取扱所					その他 (D)	合計 (A+B+C+D)		
			屋内貯蔵所	屋外タンク貯蔵所	屋内タンク貯蔵所	地下タンク貯蔵所	簡易タンク貯蔵所	移動タンク貯蔵所	屋外貯蔵所	小計 (B)	給油取扱所	第一種販売取扱所	第二種販売取扱所	移送取扱所			一般取扱所	小計 (C)
令和元年	火災	3								0						0		3
	漏えい								3	3						0		3
	その他								2	2						0		2
令和2年	火災									0					1	1		1
	漏えい								1	1					1	1		2
	その他									0						0		0
令和3年	火災	1								0					2	2		3
	漏えい			1		1			1	3	1				1	2		5
	その他									0	1					1		1
令和4年	火災	1								0					1	1		2
	漏えい			1						1					1	1		2
	その他									0	1					1		1
令和5年	火災									0						0		0
	漏えい									0						0		0
	その他									0						0		0
火災計		5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4	0	9
漏えい計		0	0	2	0	1	0	5	0	8	1	0	0	0	3	4	0	12
その他計		0	0	0	0	0	0	2	0	2	2	0	0	0	0	2	0	4
総計		5	0	2	0	1	0	7	0	10	3	0	0	0	7	10	0	25

注： 危険物施設の別の「その他」には、危険物運搬中の事故または無許可の危険物施設など、許可を受けている危険物施設以外での事故件数を記載

## 第6章 消防の概要

### 1 消防の組織〈消防機関と人員〉

昭和23年消防組織法施行後、市町村消防の原則が確立され、昭和48年7月1日大野地区消防組合が発足したことにより、県下全域にわたり消防の常備化が実現した。消防吏員は令和6年4月1日現在で1,250名である。

また、消防団員数は令和6年4月1日現在で5,826名であるが、近年の社会経済情勢の変化の影響を受けて、団員数の減少、サラリーマン団員の増加等の課題に直面しており、消防団の充実強化を一層推進することが必要である。

### 2 消防施設

#### (1) 消防機械

消防機械の保有状況は第8表および第9表のとおりであるが、特に近年の救急需要の増加に伴い、各消防本部とも高規格救急自動車の導入を推進している。これにより、高度な救急処置を実施することができ、救命率の向上を図っている。

#### (2) 消防水利

消防水利は、消防機械とともに、火災鎮火のために重要不可欠なものである。

これについては、消防に必要な水利の確保と管理のため「消防水利の基準」が定められ、その基準に適合したものを消防水利としている。消防水利には、消火栓、防火水槽、プール等の人工水利と河川等の自然水利があり、その保有状況は第11表のとおりである。

### 3 民間防火組織

#### (1) 幼年消防クラブ

幼年消防クラブは、幼年期における防火教育の重要性、防火活動を通じての正しい社会的態度の養成の必要性などの観点からはじめられたもので、幼稚園、保育園の指導者を中心に消防機関の協力を得て幼年消防活動を行うことにより、父母兄弟や近隣住民に対する防火思想の普及も効果的に図られている。

#### (2) 少年消防クラブ

少年消防クラブは、少年のころから火災予防に関する知識を身に付け、学校や各家庭における火災防止を図るとともに、火に関する諸原理を実際に即して勉強し、学校教育としての社会科、理科および家庭科の学習の補助を目的とするものであって、昭和25年に少年消防クラブ取扱要綱が制定され、続いて昭和28年に「全国少年消防クラブ運営指導協議会」(会長：消防庁長官)が設けられ、今日に至っている。

#### (3) 女性防火クラブ

女性防火クラブは、家庭において火を使用する機会の多い女性を対象に、火災予防の知識を養うことが必要であることから、任意に結成されたものであり、消防職団員の指導のもとに各家庭の防火診断、火災の初期活動等、重要な役割を果たしている。

#### 4 表 彰

消防職員および消防団員の士気高揚を図るとともに、地域住民の消防に対する正しい認識と円滑な協力援助関係を確立するため、消防に関して功労のあった消防職団員、消防機関その他の団体または個人に対し、各種表彰を行っている。

また、昭和58年より新たに県知事の定例表彰の中で、30年以上勤続の消防団員の配偶者等も表彰することにした。

#### 5 消防の現況

第1表 消防職団員数の推移(各年4月1日現在)

区分	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46
消防職員数	150	163	203	201	231	227	262	257	268	293	328	351	354	372	381	421	461	521	594
消防団員数	11,835	10,701	8,487	8,275	8,091	7,342	7,174	7,147	7,118	6,744	6,759	6,731	6,751	6,754	6,491	6,388	6,303	6,191	6,019

47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	平成元	2	3	4
693	743	785	785	832	851	872	895	922	937	950	974	974	982	982	983	999	1,009	1,010	1,032	1,052
5,814	5,703	5,647	5,635	5,633	5,623	5,629	5,616	5,549	5,623	5,616	5,608	5,588	5,549	5,545	5,485	5,471	5,453	5,437	5,488	5,492

5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
1,090	1,101	1,119	1,141	1,162	1,169	1,183	1,186	1,190	1,188	1,190	1,193	1,192	1,190	1,189	1,184	1,183	1,180	1,192	1,196	1,189
5,497	5,519	5,502	5,533	5,523	5,518	5,497	5,499	5,483	5,460	5,436	5,439	5,442	5,406	5,411	5,411	5,480	5,560	5,656	5,688	5,661

26	27	28	29	30	令和元	2	3	4	5	6
1,188	1,206	1,206	1,226	1,238	1,235	1,246	1,245	1,252	1,248	1,250
5,720	5,797	5,781	5,809	5,825	5,824	5,814	5,874	5,858	5,849	5,826

第2表 消防機関の現況

区 分		令和5年4月(B)	令和6年4月(A)	増減(B-A)
消 防 本 部 ・ 署	消 防 本 部 数	9	9	0
	消 防 署 数	19	19	0
	出 張 所 数	26	26	0
	消 防 職 員 数	1,248	1,250	2
消 防 団	消 防 団 数	18	18	0
	分 団 数	237	236	△ 1
	消 防 団 員 数	5,849	5,826	△ 23

第3表 消防の概況

令和6年4月1日現在

区分 消防本部名	消防本部・署所				消防団					消防水利		基地局および固定局 移動局						
	設置別	消防署数	出張所数	（消防実員数）	自普通自動車数	自水槽付消防ポンプ自動車数	消防団数	分団数	消防団常備部数	団員数			普通自動車数	積載ポンプ積載車				
										計	非常勤				非	常勤		
福井市	○	4	13	365	18	3	1	54		992		1	52	9,617	830	30	15	174
大野市		1	1	55	4		1	9		450		10	20	488	315	20	3	37
勝山市		1		36	3	1	1	12		290		2	11	437	203	13	15	42
永平寺町		1		40		3	1	11		356		10	10	184	253	11	3	27
嶺北消防組合		4	1	203	6	4	2	33		706		33	6	1,619	1,241	105	4	131
鯖江・丹生消防組合		1	4	128	5	1	2	36		547		29	3	1,669	908	37	5	254
南越消防組合		3	2	145	7	4	3	32		791		10	27	2,536	690	31	7	149
敦賀美方消防組合		3	1	152	3	3	3	16		732		21	35	1,336	237	162	8	142
若狭消防組合		1	4	126	6	3	4	33		962		9	39	1,092	527	55	6	173
計	1	19	26	1,250	52	22	18	236	0	5,826	0	125	203	18,978	5,204	464	66	1,129

第4表 階級別消防職員数

令和6年4月1日現在

区分	消防職員														条 例 定 数		
	計 (A) + (B) (C)	消防吏員(実員)										その他の職員					
		うち女性 (B)	消防司令 監	消防正 監	消防 監	消防司令 長	消防司令 補	消防士 長	消防副 士長	消防士	小計 (B)	事務職員	技術職員	単純 労務 職員		小計 (C)	
消防本部名																	
福井市	373	9	1	6	26	87	57	60	71	57	365	8	8	8	8	356	
大野市	56	3			1	6	19	11	8	10	55	1	1	1	1	55	
勝山市	39	1			1	6	14	5	4	6	36	3	3	3	3	42	
永平寺町	40	2			1	5	12	4	6	12	40				0	45	
嶺北消防組合	205	7	1	2	6	47	39	44	36	28	203	2	2	2	2	218	
鯖江・丹生消防組合	129	6		1	10	35	20	22	19	21	128	1	1	1	1	140	
南越消防組合	154	5		1	10	34	32	23	22	23	145	9	9	9	9	154	
敦賀美方消防組合	153	4		1	13	24	29	27	30	28	152	1	1	1	1	156	
若狭消防組合	127	3		1	7	30	21	24	24	19	126	1	1	1	1	140	
計	1,276	40	2	12	75	274	243	220	220	204	1,250	26	26	26	26	1,306	

注1: 下段の( )は、女性職員の内数

注2: 条例定数に含まれない派遣・出向職員および短時間勤務の再任用職員がいるため、条例定数を超えている場合がある。

第5表 階級別非常勤消防団員数

令和6年4月1日現在

階級別 消防本部名	合計	団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員	条約定数
福井市	992 (46)	1 ( )	8 ( )	54 (2)	54 (2)	102 (4)	103 (5)	670 (33)	1,055
大野市	450 (91)	1 ( )	2 ( )	9 (1)	10 (2)	34 (3)	69 (6)	325 (79)	485
勝山市	290 (21)	1 ( )	2 ( )	12 ( )	12 ( )	25 (1)	33 (2)	205 (18)	299
永平寺町	356 (42)	1 ( )	2 ( )	12 (1)	11 (1)	34 ( )	34 ( )	296 (40)	412
嶺北消防組合	706 (22)	2 ( )	7 ( )	33 ( )	52 ( )	2 (2)	64 (3)	546 (17)	773
鯖江・丹生消防組合	547 (12)	2 ( )	5 ( )	33 ( )	33 ( )	33 ( )	78 (1)	396 (11)	647
南越消防組合	791 (48)	3 ( )	9 ( )	32 (2)	32 (2)	32 ( )	83 (5)	632 (39)	826
敦賀美方消防組合	732 (34)	3 ( )	4 ( )	16 ( )	16 ( )	53 (1)	88 (3)	552 (30)	769
若狭消防組合	962 (31)	4 ( )	6 ( )	33 ( )	23 ( )	54 (1)	94 ( )	748 (30)	970
計	5,826 (347)	18 (0)	45 (0)	234 (6)	243 (7)	270 (12)	646 (25)	4,370 (297)	6,236

注：下段の( )は、女性団員の内数

第6表 年齢別消防吏員および消防団員数

令和6年4月1日現在

年齢別 消防本部分名	消 防 団 員										消 防 吏 員														
	(C)のうち										団員数 (C)	(A)のうち										平均年齢 (B)			
	18歳 ～ 19歳	20歳 ～ 24歳	25歳 ～ 29歳	30歳 ～ 34歳	35歳 ～ 39歳	40歳 ～ 44歳	45歳 ～ 49歳	50歳 ～ 54歳	55歳 ～ 59歳	60歳 ～ 64歳		65歳 以上	平均年齢 (D)	18歳 ～ 19歳	20歳 ～ 24歳	25歳 ～ 29歳	30歳 ～ 34歳	35歳 ～ 39歳	40歳 ～ 44歳	45歳 ～ 49歳	50歳 ～ 54歳		55歳 ～ 59歳	60歳 ～ 64歳	65歳 以上
福井市	0	4	24	48	90	161	194	169	154	111	37	992	0	4	24	48	90	161	194	169	154	111	37	48,419	48.8
大野市	0	1	14	21	47	49	84	82	67	46	39	450	0	1	14	21	47	49	84	82	67	46	39	22,484	50.0
勝山市	0	2	7	13	40	51	61	45	29	36	6	290	0	2	7	13	40	51	61	45	29	36	6	13,774	47.5
永平寺町	8	15	17	17	21	42	62	48	38	46	42	356	8	15	17	17	21	42	62	48	38	46	42	17,396	48.9
嶺北消防組合	1	5	19	35	90	102	143	145	86	51	29	706	1	5	19	35	90	102	143	145	86	51	29	33,688	47.7
鯖江・丹生消防組合	0	4	34	43	78	124	102	106	36	14	6	547	0	4	34	43	78	124	102	106	36	14	6	24,060	44.0
南越消防組合	1	8	16	58	79	107	159	153	116	61	33	791	1	8	16	58	79	107	159	153	116	61	33	38,065	48.1
敦賀美方消防組合	0	27	54	116	169	133	109	59	31	21	13	732	0	27	54	116	169	133	109	59	31	21	13	29,738	40.6
若狭消防組合	0	12	63	147	215	189	151	97	45	32	11	962	0	12	63	147	215	189	151	97	45	32	11	39,913	41.5
計	10	78	248	498	829	958	1,065	904	602	418	216	5,826	10	78	248	498	829	958	1,065	904	602	418	216	267,537	45.9

注:18歳～19歳の欄は18歳未満含む。

第7表 在職年数別消防吏員および消防団員数

令和6年4月1日現在

年数別 消防本部名	消 防 吏 員								消 防 団 員							
	消				防				常 勤				非 常 勤			
	合 計	5 年 未 満	5 10 年 未 満	10 15 年 未 満	15 20 年 未 満	20 25 年 未 満	25 30 年 未 満	30 年 以 上	合 計	5 年 未 満	5 10 年 未 満	10 15 年 未 満	15 20 年 未 満	20 25 年 未 満	25 30 年 未 満	30 年 以 上
福 井 市	365	55	61	52	24	30	26	117	992	187	228	183	154	102	78	60
大 野 市	55	6	10	8	6	5	8	12	450	91	67	109	70	40	32	41
勝 山 市	36	5	2	4	5	3	5	12	290	51	49	53	37	44	33	23
永 平 寺 町	40	11	4	5	3	2	5	10	356	162	64	54	34	24	13	5
嶺 北 消 防 組 合	207	23	36	36	26	16	20	50	706	129	127	117	120	88	74	51
鯖 江 ・ 丹 生 消 防 組 合	128	27	17	14	14	9	23	24	547	89	116	125	86	80	32	19
南 越 消 防 組 合	145	21	30	22	12	7	23	30	791	129	179	127	120	95	77	64
敦 賀 美 方 消 防 組 合	152	20	20	32	20	19	18	23	732	226	205	143	79	47	16	16
若 狭 消 防 組 合	124	16	17	29	14	12	13	23	962	299	303	174	97	55	29	5
計	1,252	184	197	202	124	103	141	301	5,826	1,363	1,338	1,085	797	575	384	284



第8表 消防ポンプ自動車等現有数(消防本部および署)

令和6年4月1日現在

区分	消防本部・署現有													その他車両										
	普通消防ポンプ自動車	水槽付消防ポンプ自動車	はしご付消防ポンプ自動車(ポンプ付でないものを含む)			消防ポンプ自動車付	大型高所放水車	泡原液搬送車	化学消防ポンプ自動車	指揮車	照明車	積載車 <small>小型動力ポンプ付</small>	積載車 <small>小型動力ポンプ付</small>		積載車 <small>小型動力ポンプ付</small>	広報車	資器材搬送車	屈折放水塔車	水槽車	支援車	人員搬送車	防災指導車	救急自動車	救助工作車
消防本部長	17	3	2	1	1	1	1	1	1	3	5		7	6	4		1	1	1	1		11 (11)	2	8
福井市消防局				1																				
大野市消防本部	4		1						1	1					3		1					4 (4)	1	1
勝山市消防本部	3	1								1				1	1							3 (3)	1	2
永平寺町消防本部		3								1		2			1						1	3 (3)	1	
嶺北消防組合	6	4				2			1	4	5		4	0	5		1					8 (8)	3	7
鯖江・丹生消防組合	5	1								1	2			7	2		1		2			7 (7)	1	1
南越消防組合	6	4								2	3		2	6	5	1	1	1	1			8 (8)	3	
敦賀美方消防組合	4	3	1							2	1		6	1	5		1	0				6 (6)	1	8
若狭消防組合	7	3								1	1		6	5	2				1			7 (7)	1	1
計	52	22	3	1	3	2	3	1	2	14	20	0	4	23	28	1	4	3	5	1		57 (57)	14	28

注:救急自動車の( )は高規格救急自動車で内数

第9表 消防ポンプ自動車等現有数（消防団）

令和6年4月1日現在

種別 消防本部名	消防団現有			
	普通消防ポンプ自動車	水槽付消防ポンプ自動車	小型動力ポンプ	
			小型動力ポンプ付積載車	車両に積載していないもの
福井市	1		52	0
大野市	10		20	4
勝山市	2		12	0
永平寺町	10		10	0
嶺北消防組合	33		8	14
鯖江・丹生消防組合	29	4	3	0
南越消防組合	10		26	9
敦賀美方消防組合	21		35	3
若狭消防組合	9		37	32
計	125	4	203	62

第10表 化学消火薬剤備蓄状況

令和6年4月1日現在

種別	化学消火剤種別										
	計		たんぱく系		合成界面 活性剤	水成膜泡 消火薬剤	水溶性液体用泡 消火薬剤 (耐アルコール用)	粉末(kg)			
	(A)	(B)	3%型 (kg) (ア)~(イ)	6%型 (kg) (ロ)~(ハ)				第1種 粉末 (kg) (カ)	第2種 粉末 (kg) (キ)	第3種 粉末 (kg) (ク)	第4種 粉末 (kg) (ケ)
消防本部名	(kg) (ア)~(イ)	(kg) (ロ)~(ハ)	(kg) (イ)	(kg) (ロ)	(kg) (ウ)	(kg) (エ)	(kg) (オ)	(kg) (カ)	(kg) (キ)	(kg) (ク)	(kg) (ケ)
福井市	15.65	0.00	10.90	0.09	1.63	2.69	0.34				
大野市	1.79	0.00			0.60	1.19					
勝山市	0.76	0.00			0.76						
永平寺町	0.50	0.00			0.50						
嶺北消防組合	27.29	0.00	5.06		3.59	18.64					
鯖江・丹生消防組合	1.92	0.00			0.42	1.50					
南越消防組合	2.55	0.00			0.99	1.56					
敦賀美方消防組合	1.58	0.00	0.20		0.84	0.54					
若狭消防組合	1.34	0.00			1.34						
計	53.38	0.00	16.16	0.09	10.67	26.12	0.34	0.00	0.00	0.00	0.00



第12表 消防機関の出動状況

令和5年中

区分	種別	県計 (ア)~(カ)	火災 (ア)	風水害 等の 災害 (イ)	演習 訓練 (ウ)	広報 指導 (エ)	警防 調査 (オ)	火災 原因 調査 (カ)	特別 警戒 (キ)	捜索 (ク)	予防 査察 (ケ)	誤報等 (コ)	その他 (ク)
消防本部・署所	出動回数	19,016	174	69	2,518	2,486	3,226	271	1,573	15	7,003	21	1,660
	出動延人数	73,008	3,102	264	11,945	8,707	17,085	1,281	4,888	143	18,655	1,162	5,776
消防団	出動回数	4,447	97	26	1,243	294	27	0	430	0	0	21	2,309
	出動延人数	33,298	1,613	552	15,278	2,652	396	0	3,875	0	0	119	8,813

第13表 消防吏員および団員の公務による死傷者数

令和5年中

区分	種別	県計 (ア)~(キ)	火災 (ア)	風水害 等の 災害 (イ)	救急 業務 (ウ)	演習 訓練 (エ)	特別 警戒 (オ)	捜索 (カ)	その他 (キ)
消防吏員	死者	0	0	0	0	0	0	0	0
	負傷者	11	4	0	0	5	0	0	2
消防団	死者	0	0	0	0	0	0	0	0
	負傷者	9	2	0	0	6	0	0	1

第14表 火災通報施設等の現況

令和6年4月1日現在

区分	火災報知機			テレビ 監視装置 (基)	望 楼		電 話					救急指令装置		
	受信機 (基)	発信機			小計 (ウ)+(エ) (基)	24時間 監視体 制をとつ ているも の (ウ) (基)	その他 (エ) (基)	小計 (カ)+(キ)+(ク) (回線)	火災報知 専用電話 (カ) (回線)		消防機関にあるもの		救 急 指 令 専 用	消 防 指 令 装 置 と 併 用
		小 計 (ア)+(イ) (基)	公衆用 (ア) (基)						自衛用 (イ) (基)	加入電話 (キ) (回線)	消防電話 1ヶ月あた りの経費 (千円) (回線)			
消防本部名														
福井市	0				0		255	18	204	160	33			1
大野市	0			1	0		31	9	1	84	21			
勝山市	0				0		19	16			3			
永平寺町	0				0		53	44			9			1
嶺北消防組合	0				0		37	2			35			
鯖江・丹生消防組合	0				0		65	11	5	244	49	1		1
南越消防組合	0				0		55	12	2		41			
敦賀美方消防組合	0				0		50	13	4	252	33			
若狭消防組合	0			1	0		48	8	8		32			
計	0	0	0	2	0	0	613	133	224	740	256	1		3

第15表 無線通信施設等の現況

令和6年4月1日現在

種別 消防本部名	消防・救急業務用無線（デジタル方式）											携帯電話等			
	固定局			基地局および携帯基地局						移動局		その他の無線局数	衛星携帯電話保有数	救急車および救急隊	うち災害時優先電話
	局数		局「その他」の電波の数	局数		電波の数				陸上移動局数	携帯局数				
	多重	その他		基地局	携帯基地局	統制波	主運用波	活動波	防災相互波						
福井市	6			9		3	1	5		174			4	11	11
大野市				3		3	1	2		37			2	4	4
勝山市		12	12	3		3	1	2		42			1	2	2
永平寺町				3		3	1	2		27			1	3	3
嶺北消防組合				4		3	1	3		131			1	9	4
鯖江・丹生消防組合				5		3	1	2		254			3	6	6
南越消防組合				7		3	1	3		149			5	8	8
敦賀美方消防組合				8		3	1	2		142			3	6	5
若狭消防組合				6		3	1	2	1	173			1	6	6
計	6	12	12	48	0	27	9	23	1	1,129	0	0	21	55	49

第16表 幼年消防クラブの現況

令和6年4月1日現在

種別	組織別クラブ数					組織別クラブ員数					指導者数						
	計	幼稚園 保育園 単位	学校 単位	市 単位	町 単位	区 単位	その他	計	幼稚園 保育園 単位	学校 単位	市 単位	町 単位	区 単位	その他	幼稚園 保育園 単位	学校 単位	その他
消防本部名																	
福井市	2	2						33	33						11		
大野市	14	14						871	871						14		
勝山市	10	10						378	378						32		
永平寺町	1			1				119			119				63		
嶺北消防組合	44	44						3,766	3,766						44		
鯖江・丹生消防組合	38	38						1,419	1,419						92		
南越消防組合	33	33						764	764						33		
敦賀美方消防組合	36	36						2,344	2,344						36		
若狭消防組合	1	1						31	31						6		
計	179	178	0	1	0	0	9,725	9,606	0	119	0	0	0	331	0	0	0



第17表 少年消防クラブの現況

令和6年4月1日現在

種別	組織別クラブ数					組織別クラブ員数					指導者数						
	計	学校単位		市町単位	地区単位	その他	計	学校単位		市町単位	地区単位	その他	計	学校単位		その他	
		小学校	中学校					小学校	中学校					小学校	中学校		
消防本部名																	
福井市	50	50					2,409	2,409					191	191			
大野市	9	9					554	554					9	9			
勝山市	15	3		3	9		300	300			54	417	47	9			38
永平寺町	9				9							152	51				51
嶺北消防組合	26	26					1,043	1,043					26	26			
鯖江・丹生消防組合	20	20					2,306	2,306					91	91			
南越消防組合	21	21					743	743					21	21			
敦賀美方消防組合	10	10					308	308					10	10			
若狭消防組合	0						0	0					0	0			
計	160	139	0	3	18		8,286	7,663	0	0	54	569	446	357	0		89

第18表 女性防火クラブの現況および活動状況

令和6年4月1日現在

種別	合計		周囲の状況						活動状況			組織数	
	組織数 (ア)+(イ)+(ウ)+(エ)	人員 (カ)+(キ)+(ク)+(ケ)	市街地		農山村地域		漁村地域		消火活動を行わないが、炊き出し、連絡、救護等を行う	(a)	(b)		(c)
			組織数 (ア)	人員 (カ)	組織数 (イ)	人員 (キ)	組織数 (ウ)	人員 (ク)					
消防本部名													
福井市	33	803	17	313	15	433	1	57		7		26	
大野市	0	0			0	0				0			
勝山市	7	61	2	33	5	28				7			
永平寺町	1	15	1	15								1	
嶺北消防組	2	446	2	446								2	
鯖江・丹生消防組	5	806	1	138	3	296	1	372				806	
南越消防組	15	170	11	106	4	64					15		
敦賀美方消防組	5	900	2	883	1	9	2	8		3	2		
若狭消防組	9	161					2	35					
計	77	3,362	36	1,934	28	830	6	472		17	17	835	

第19表 消防表彰受賞状況

種 類		年 度										
		平26	27	28	29	30	令元	2	3	4	5	
叙 勲		23	21	22	23	21	23	21	20	23	15	
藍 綬 褒 章		3	2				3	1	1	2	1	
消 防 庁 長 官 表 彰	功 勞 章	2	1	1	1				1	1	2	
	永年勤続功労章	21	22	22	23	23	23	24	23	25	25	
	表 彰 旗											
	竿 頭 綬	1	1									
	消防団 地域 活動	消 防 団	1	1	1					1		1
		事 業 所		1			1	4		1	1	2
	少 年 消 防 ク ラ ブ	表 彰 旗										1
		表 彰 楯	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
		指 導 者										
	福 井 県 知 事 表 彰	功 勞 章	40	40	40	40	40	40	39	40	40	40
永年勤続精績章		177	132	168	149	154	137	120	155	143	149	
銀 杯		73	49	55	67	58	68	47	54	64	52	
感謝状		退 職 幹 部	16	49	23	20	17	19	20	25	14	22
		人 命 救 助 そ の 他										
		配 偶 者 等 表 彰	33	33	31	26	47	44	36	49	44	35
竿 頭 綬		46	46	47	49	52	45	49	54	74	65	
特 別 功 勞 章												

## 第7章 消防教育訓練

### 1 消防学校の概要

#### (1) 沿革

昭和34年7月16日 福井市水越町に福井県消防学校設置  
 昭和47年11月1日 福井市合谷町へ移転  
 平成8年4月1日 福井市大畑町へ再移転、現在に至る。

#### (2) 施設概要

ア 所在地等 (ア) 所在地 福井市大畑町97-21-3  
 (イ) 敷地面積 40,759.02㎡

イ 建物工作物等

建物構造および規模

・ 敷地面積 ..... 40,759.02㎡      ・ 建物延面積 ..... 8,001.62㎡

名称	規模・構造	延べ面積(㎡)	内 容
教育管理棟 宿泊施設(3階)	R C 造 3 階	3,249㎡	1階 校長室 講師控室 職員室 会議室 女性専用寮室(2室) 宿直室 2階 普通教室(60人)(40人) 談話室 図書室 視聴覚室 理化学室(各種実習室併設) 等 3階 寮室(20室) トレーニングルーム 娯楽室
体育館	鉄骨造2階建	2,106.25㎡	1階 食堂 学生ホール 和室 倉庫 2階 アリーナ
雨天訓練場	鉄骨平屋建	1,091.22㎡	訓練場(救助、ポンプ操法訓練施設) 訓練資器材庫 訓練車両庫
訓練塔(主)	S R C 造 地下1階建 地上8階建	594.84㎡	立坑訓練室 耐煙迷路室 消火設備実験室 垂直救助訓練 水平ロープ渡過 ブリッジ救出訓練施設 放水訓練室 水平救助・担架吊り下げ救出訓練施設 梯子車注水訓練室 積載梯子上救出訓練施設 梯子車進入訓練室 高所活動・人命検索訓練施設 救助袋等避難器具取扱訓練室 地下火災実験室
訓練塔(補助)	鉄骨造 地上7m	A塔 70.44㎡ B塔 32.86㎡	人命救助訓練施設 引上救助訓練施設 中高層建物防御訓練施設 斜め救助訓練施設 障害突破 垂直降下訓練施設
水難訓練用プール (兼、潜水訓練)	F R P 製	25m×5コース 水深1.5m～3.0m 容量630m³ 採水口4箇所(ポンプ車用) 機械室・便所(34.43㎡)	
その他施設			油火災消火訓練施設(耐火レンガ造) 直径3m×高さ0.5m 防火訓練壁 幅14m×高さ4m 受水槽20㎡ 煙道訓練施設 間口1.0m×1.0m 模擬火災訓練家屋(可搬式プレハブ型模擬ハウス) 山岳救助訓練施設(25m×60m)
屋外訓練場		7,800㎡(120m×65m) 1周200mグラウンド	

### 2 教育訓練

消防職団員の各種教育訓練を第1表および第2表のように実施し、人的消防力の充実向上を図るとともに、より高度の専門的知識を修得させた。  
 また、第3表のとおり消防大学校へ職員を派遣した。

第1表 令和5年度 消防本部別受講者数

区分	教育訓練の種類	項目	実施年月日	教育 実日数	延時間	消防						本部		合計				
						福井	敦賀美方	南越	若狭	大野	勝山	鯖江丹生	嶺北		永平寺	その他		
消防	初任教育(第58期)	初任教育(第58期)	R5 4.5~9.27	120	835	10	2	5	3	1	1	5	4	1	32			
			R5 12.4~12.15	10	70	2	2	2	2	1	1	3	2					
			隔年実施により未実施															
			R5 6.20~6.22	3	21	2	2	1	3	1	1	2	2	1	1	15		
			隔年実施により未実施															
			R5 11.14~11.22	7	49	2	2	2	2	1	1	3	2	2	1			
			R6 2.1~2.15	10	70	4	2	1	2	1	1	3	2	2		16		
			隔年実施により未実施															
			中止(能登半島地震)															
			火災調査科(第25期)															
職員	救助科(第47期)	救助科(第47期)	R5 10.4~11.7	23	161	2	2	2	2	1	1	3	4	1	18			
			R6 1.25~3.18	36	252	4	5	7	4	1	1	3	7	1	2	35		
			R5 8.22~9.6	12	84	2	3	1	2	2	2	2	2	2	1	13		
			(下記公開講座に記載)															
			R5 4.18~4.19	2	14	5	4	4	4	1	2	4	4	4	3	31		
			R5 5.29	1	3	3	4	3	2	1	2	2	4	4		21		
			起震車操作員教育(新規養成)															
			小計	224	1,559	36	28	28	26	9	11	30	33	9	2	212		
			初級幹部科			2	12	4	6	2	6	2	3	4	2		36	
			消防団員	指揮幹部科	現場指揮課程	R5 11.25~11.26	2	14	3	5	3	4	3	2	2	1	3	26
R5 11.28~11.29	2	10				2	4	3	6	2	2	4	3	3	29			
R5 10.28~10.29	2	12				1	3	3	4	1	1	2	2	2	1	18		
小計	8	48				10	18	11	21	12	7	11	10	9		109		
自主防災組織指導員教育																		
女性防火クラブ員教育																		
小計	2	10				3	4	4	2	2	2	5	3	5	7	31		
合計	234	1,617				49	46	43	49	21	20	46	46	23	9	352		
公開講座	公開講座	上級幹部科				R5 6.21	1	4	3	4	12	4	4	2	3	4	1	33
						R5 11.16	1	4	4	5	5	1	3	2	5	2	2	32
			R5 12.21	1	3	6	4	2	4	2	4	7	5	3	37			
			R6 3.6	1	4	4	4	4	4	4	2	2	4	4	32			
			小計	4	15	17	17	23	17	7	11	14	18	10		134		
その他	公開講座	救急科	合計	238	1,632	66	63	66	66	28	31	60	64	33	486			
			総計															

第2表 令和5年度 消防学校教育訓練実施状況

区分	教育訓練の種類	項目	入校者数	教育実日数	教育時間数	担当講師別時間数			
						学校	県	消防	専門
消防職員	初任教育(第58期)		32	120	835	540	54	196	45
	幹部教育	初級幹部科	15	10	70	21	11	17	21
		中級幹部科	隔年実施						
		上級幹部科(第16期)	15	3	21	2		13	6
	専科教育	警防科	隔年実施						
		特殊災害科(第11期)	16	7	49	6	10		33
		予防査察科(第19期)	16	10	70	11	3	53	3
		危険物科(第36期)	隔年実施						
		火災調査科	中止						
		救助科(第47期)	18	23	161	17	8	109	27
	特別教育	救急科(第31期)	35	36	252	9	5	61	177
		水難救助科(第27期)	13	12	84	3		74	7
		操法指導員教育	31	2	14	2		12	
		起震車操作員教育(新規養成)	21	1	3	3			
小計			212	224	1,559	614	91	535	319
消防団員	初級幹部科		36	2	12	10			2
	指揮幹部科	現場指揮課程	26	2	14	1		13	
		分団指揮課程	29	2	10	6			4
		消防団指導員教育(日消)	18	2	12	11	1		
	小計			109	8	48	28	1	13
その他・	自主防災組織指導員教育		7	1	4	4			
	女性防火クラブ員教育		24	1	6	5			1
	小計			31	2	10	9		1
合計			352	234	1,617	651	92	548	326
公開講座	上級幹部科		33	1	4				4
	特殊災害科		32	1	4				4
	通信指令員教育		37	1	3				3
	救急科		32	1	4				4
	公開講座合計			134	4	15			15
総合計			486	238	1,632	651	92	548	341

第3表 令和5年度消防大学校派遣者数

学 科	派遣者数	備 考
幹部科(第69期)	1	鯖江・丹生消防
幹部科(第70期)	1	南越消防
幹部科(第71期)	1	敦賀美方消防
上級幹部科(第86期)	1	消防学校
警防科(第110期)	1	嶺北消防
警防科(第111期)	1	消防学校
救助科(第85期)	1	若狭消防
救急科(第84期)	1	永平寺町消防
予防査察課(第113期)	1	福井市消防
火災調査科(第42期)	1	嶺北消防
新任教官科(第16期)	1	福井市消防
指揮隊長コース(第27回)	1	嶺北消防
高度救助・特別高度救助コース(第12回)	1	福井市消防
NBCコース(第12回)	1	福井市消防
航空隊長コース(第22回)	1	防災航空事務所
危機管理・国民保護コース(第12回)	1	福井市
査察業務マネジメントコース(第6回)	1	鯖江・丹生消防
合計	17	

# 防 災 編

---





# 第1章 災害の発生状況

## 1 令和5年中の災害発生状況

### (1) 人的被害

死者0人、重傷者5人、軽傷者27人

### (2) 住家被害

全壊1棟、半壊0棟、一部破損1棟、床上浸水16棟、床下浸水123棟

第1表 令和5年中の災害発生状況

発生年月日		災害名		落雷	大雪	融雪	大雨	大雪	計
区分				1月24日	1/26~2/6	3/12~3/13	6/28~7/13	12/22~12/23	
人的被害	負傷者	重傷	人		5				5
		軽傷	人		21			6	27
住家被害	全壊		棟				1		1
	半壊		棟						0
	一部破損		棟				1	2	3
	床上浸水		棟				16		16
	床下浸水		棟				123		123
非住家	公共建物		棟				1		1
	その他		棟				1		1
その他	田	流失・埋没	ha				20.95		20.95
		道路	箇所			1	98		99
		橋りょう	箇所			1			1
		河川	箇所	1		1	66		68
発生年月日		災害名		落雷	大雪	融雪	大雨	大雪	計
区分				1月24日	1/26~2/6	3/12~3/13	6/28~7/13	12/22~12/23	
その他	砂防	箇所				1	25		26
	水道	戸							0
その他	農業用施設		箇所				78		78
	林道		箇所				47		47
	水産業施設		箇所						0
	上下水道		箇所				1		1
	山腹施設		箇所				2		2
	法面崩壊		箇所				3		3
	ダム小放流ゲート		箇所						0
	牧場放牧地法面		箇所						0
り災世帯数		世帯					16		16
り災者数		人					40		40
農林水産業施設		千円					464,567		464,567
公共土木施設		千円	11,790			2,534,578	8,517,265		11,063,633
その他の公共施設		千円					9,360		9,360
公共施設被害市町村数		団体					5		5
その他被害		千円					4,727		4,727
被害総額		千円	11,790			2,534,578	8,995,919		11,542,287
都道府県	設置								
災害対策本部	解散								
災害対策本部設置市町							4		4
災害救助法適用市町									0
消防職員出動延人数		人		94			239	41	374
消防団員出動延人数		人					414	4	418

## 2 過去5年間の災害発生状況（平成31年～令和5年）

年月日	種類	被害状況	気象状況
2019 (令元) 8.16	台風 10号	(1)農林水産業施設被害 9,488千円	台風第10号は、日本の南海上を北西に進み、次第に進路を北に変え、15日11時過ぎに愛媛県佐田岬半島付近を通過した後、15日15時頃に広島県呉市付近に上陸し、中国地方を縦断後に日本海を北上した。 (日最大1時間降水量) 九頭竜 29.5mm 16日02時48分 (日降水量) 九頭竜 92.0mm 16日 (期間水量(15日～16日)) 九頭竜 138.0mm (日最大風速(15日)) 福井 14.8m/s(南南東)21時33分 敦賀 19.2m/s(南南東)19時07分 (日最大瞬間風速(15日)) 福井 23.9m/s(南東)19時17分 敦賀 33.5m/s(南南東)19時03分
2019 (令元) 10.12～ 10.13	台風 19号	(1)人的被害 重傷 1人 (2)公共土木施設被害 37千円 (3)その他の公共施設被害 1,099千円 (4)その他被害 25,726千円	台風第19号は、マリアナ諸島を西に進み、一時大型で猛烈な台風に発達した後、次第に進路を北に変え、日本の南を北上し、12日19時前に大型で強い勢力で伊豆半島に上陸した。その後、関東地方を通過し、13日12時に日本の東で温帯低気圧に変わった。 (日最大1時間降水量) 小浜 13.5mm 12日13時25分 今庄 12.0mm 12日15時03分 (日降水量) 小浜 113.0mm 12日 今庄 100.0mm 12日 (期間水量(12日～13日)) 小浜 127.0mm 今庄 111.0mm (日最大風速(12日)) 福井 12.5m/s(北北西)20時41分 春江 18.7m/s(北)21時01分 敦賀 20.0m/s(北西)20時06分 (日最大瞬間風速(12日)) 福井 22.3m/s(北北西)23時48分 春江 27.8m/s(北北西)20時36分 敦賀 29.9m/s(北北西)19時22分
2020 (令2) 6.10～ 6.16	大雨	(1)農林水産業施設被害 5,023千円 (2)公共土木施設被害 115,294千円	梅雨前線が日本付近に停滞した影響により14日を中心に激しい雨が降り大雨となった所があった。 (日最大1時間降水量) 越前 39.5mm 14日17時54分 春江 38.0mm 14日18時05分 福井 36.0mm 14日18時17分 敦賀 32.0mm 14日19時37分 小浜 31.5mm 13日07時49分

年月日	種類	被害状況	気象状況
			(日降水量) 春江 125.5mm 14日 越廼 111.0mm 14日 三国 108.5mm 14日 勝山 105.0mm 14日 福井 103.5mm 14日
2020 (令2) 6.27～ 6.28	大雨	(1)公共土木施設被害 43,407千円	梅雨前線の影響により28日は非常に激しい雨が降り、大雨となった所があった。 (日最大1時間降水量) 越廼 50.0mm 28日 02時13分 福井 36.5mm 28日 02時40分 美山 36.0mm 28日 03時23分 (日降水量) 越廼 97.0mm 28日 福井 78.5mm 28日 美山 57.5mm 28日
2020 (令2) 7.8	大雨	(1)住家被害 床下浸水 3棟	活発な梅雨前線の影響により大雨となった所があった。 (日最大1時間降水量) 九頭竜 29.5mm 8日 03時42分 敦賀 26.5mm 8日 05時07分 今庄 19.5mm 8日 05時30分 (日降水量) 九頭竜 80.0mm 8日 敦賀 53.0mm 8日 今庄 53.0mm 8日
2020 (令2) 7.10～ 7.14	大雨	(1)公共土木施設被害 71,287千円	梅雨前線が日本付近に停滞した影響により大雨となった所があった。 (日最大1時間降水量) 三国 21.5mm 11日 05時16分 春江 19.5mm 11日 06時39分 美山 19.0mm 11日 05時47分 (日降水量) 九頭竜 68.5mm 13日 勝山 51.0mm 13日 春江 42.5mm 11日 今庄 42.5mm 13日
2020 (令2) 9.4	地震	(1)人的被害 軽傷 13人	福井県嶺北を震源とする地震 9月4日 09時10分 M5.0 深さ7km 北緯 36度06.9分 東経 136度11.3分 震度5弱 坂井市 震度4 福井市、あわら市 震度3 鯖江市、永平寺町、越前町、越前市

年月日	種類	被害状況	気象状況
2020 (令2) 12.19～ 12.20	大雪	(1)人的被害 軽傷 2人	12月14日～20日にかけて、強い冬型の気圧配置となり、上空には強い寒気が流れ込んだ影響により奥越では大雪となった。 (日降雪量最大値) 大野 24cm 12月16日 九頭竜 40cm 12月16日 (最深積雪) 大野 45cm 12月20日 九頭竜 77cm 12月18日
2020 (令2) 12.31～ 2021 (令3) 1.1	大雪	(1)人的被害 軽傷 1人	12月31日から1月1日にかけて、強い冬型の気圧配置となり、上空には強い寒気が流れ込んだ影響により大雪となった。 (日最大降雪量) 福井 10cm 12月31日 武生 10cm 1月1日 大野 21cm 1月1日 九頭竜 36cm 1月1日 今庄 27cm 12月31日 敦賀 18cm 12月31日 小浜 12cm 12月31日 (最深積雪) 福井 17cm 12月31日 武生 18cm 1月1日 大野 63cm 1月1日 九頭竜 98cm 1月1日 今庄 35cm 1月1日 敦賀 22cm 1月1日 小浜 11cm 12月31日
2021 (令3) 1.2～ 3.7	大雪	(1)人的被害 死者 8人 重傷 17人 軽傷 77人 (2)住家被害 全壊 2棟 半壊 1棟 一部破損 192棟 床上浸水 2棟 床下浸水 14棟 (3)非住家被害 その他 12棟 (4)その他 道路 2箇所 (5)その他 河川 1箇所 (6)公共土木施設被害 589,051千円 (7)災害対策本部設置市町 福井市、大野市、勝山市、 坂井市、永平寺町	1月8日から1月9日にかけて、強い冬型の気圧配置となり、嶺北を中心に大雪となった。 (日最大降雪量) 福井 54cm 1月9日 武生 32cm 1月8日 大野 63cm 1月8日 九頭竜 52cm 2月17日 今庄 39cm 1月10日 敦賀 23cm 2月18日 小浜 4cm 1月29日、2月9日 (最深積雪) 福井 107cm 1月9日 武生 64cm 1月10日 大野 166cm 1月11日 九頭竜 187cm 1月10日 今庄 91cm 1月10日 敦賀 26cm 2月18日 小浜 4cm 1月2日、1月30日 2月9日

年月日	種 類	被 害 状 況	気 象 状 況
2021 (令3) 7.6～ 7.7	大雨	(1)その他 河川 1箇所 (2)公共土木施設被害 10,640千円	活発な梅雨前線の影響により大雨となった所があった。 (日最大1時間降水量) 越廼 36.0mm 7日05時52分 九頭竜 27.5mm 7日06時19分 大野 22.0mm 7日06時24分 (日降水量) 越廼 72.5mm 7日 九頭竜 56.0mm 7日 美山 45.5mm 7日 大飯 45.5mm 7日
2021 (令3) 7.15	大雨	(1)その他 河川 1箇所 (2)公共土木施設被害 20,643千円	上空に流れ込んだ寒気の影響により、大気が不安定となった。 (日最大1時間降水量) 武生 18.0mm 15日16時11分 美浜 9.0mm 15日19時27分 大飯 6.5mm 15日15時14分 (日降水量) 武生 18.0mm 15日 美浜 9.0mm 15日 大飯 9.0mm 15日
2021 (令3) 7.29	大雨	(1)人的被害 軽傷 1人 (2)住家被害 半壊 1棟 床上浸水 16棟 床下浸水 47棟 (3)非住家被害 その他 1棟 (4)その他 田 流失・埋没 480ha 田 冠水 47ha (5)その他 学校 2箇所 (6)その他 道路 71箇所 (7)その他 河川 41箇所 (8)その他 砂防 25箇所 (9)その他 水道 170戸 (10)農林水産業施設被害 94,219千円 (11)公共土木施設被害 1,055,177千円 (12)その他被害 4,362千円	29日は、台風第8号から変わった日本海の低気圧に向かって、暖かく湿った空気が流入し、また、東日本上空約6000メートルの氷点下6度以下の寒気が北陸地方に流れ込んだ。このため、大気の状態が非常に不安定となり、福井県では嶺北を中心に大雨となった。 (日最大1時間降水量) 福井 44.0mm 29日06時17分 越廼 34.0mm 29日08時12分 美山 25.5mm 29日01時51分 (日降水量) 福井 107.0mm 29日 越廼 91.5mm 29日 春江 60.0mm 29日
2021 (令3) 8.9	台風 9号	(1)人的被害 軽傷 1人	台風第9号は、8日午後8時過ぎに鹿児島県枕崎市付近に上陸し、9日5時過ぎに広島県呉市付近に再上陸した後、9日9時に中国地方で温帯低気圧に変わった。 (日最大1時間降水量) 美山 18.0mm 9日21時04分 小浜 15.5mm 9日5時18分 (日降水量) 武生 54.0mm 9日 美山 46.5mm 9日

年月日	種類	被害状況	気象状況
			(日最大風速(9日)) 三国 16.3m/s(南) 15時11分 福井 14.8m/s(南南西)18時20分 春江 14.4m/s(南) 17時20分 (日最大瞬間風速(9日)) 三国 30.2m/s(南) 18時16分 福井 27.2m/s(南南西)17時44分 春江 23.7m/s(南南西)18時23分 越廼 23.7m/s(南) 17時39分
2021 (令3) 8.14	大雨	(1)その他 道路 1箇所 (2)その他 河川 5箇所 (3)その他 砂防 4箇所 (4)公共土木施設被害 145,906千円	本州付近に停滞した活発な前線の影響により、大雨となった。 (日最大1時間降水量) 福井 31.0mm 14日06時47分 武生 28.0mm 14日06時53分 大飯 23.5mm 14日06時48分 (日降水量) 大飯 93.0mm 14日 武生 91.5mm 14日 小浜 86.5mm 14日
2021 (令3) 12.18~ 12.28	大雪	(1)人的被害 重傷 1人 軽傷 7人	上空に強い寒気が流れ込み、26日から27日にかけて断続的に雪が降った。 (日最大降雪量) 福井 14cm 12月25日 武生 19cm 12月26日、12月27日 大野 28cm 12月19日 九頭竜 36cm 12月27日 今庄 28cm 12月18日 敦賀 16cm 12月27日 小浜 34cm 12月26日 (最深積雪) 福井 33cm 12月27日 武生 35cm 12月27日 大野 46cm 12月28日 九頭竜 57cm 12月27日、12月28日 今庄 41cm 12月27日 敦賀 26cm 12月27日 小浜 47cm 12月27日
2022 (令和4) 1.20	大雪	(1)人的被害 軽傷 1人	日本付近は、冬型の気圧配置となっている。北陸地方の上空約5500メートルに、氷点下36度以下の強い寒気が流れ込んだ影響で大気の状態が非常に不安定となり嶺北の山地を中心に大雪となった。 (日降雪量最大値(20日)) 九頭竜 43cm 大野 43cm 今庄 30cm 武生 22cm 福井 14cm 敦賀 4cm 小浜 3cm

年月日	種 類	被 害 状 況	気 象 状 況
			(最深積雪最大値(20日)) 九頭竜 151cm 大野 99cm 今庄 72cm 武生 30cm 福井 28cm 小浜 5cm 敦賀 4cm
2022 (令和4) 2.16～ 2.17	大雪	(1)人的被害 重傷 2人 軽傷 1人 (2)公共土木施設被害 19,795千円	日本海の低気圧や寒気の影響で日本海側を中心に大雪となった。 (日降雪量最大値) 福井 18cm 2月16日 武生 17cm 2月16日 大野 56cm 2月16日 九頭竜 49cm 2月16日 今庄 19cm 2月17日 小浜 8cm 2月17日 敦賀 15cm 2月17日 (最深積雪最大値) 福井 25cm 2月17日 武生 24cm 2月17日 大野 124cm 2月17日 九頭竜 198cm 2月17日 今庄 80cm 2月17日 小浜 8cm 2月17日 敦賀 15cm 2月17日
2022 (令和4) 3.26	暴風	(1)人的被害 重傷 1人 (2)住家被害 半壊 1棟 一部破損 2棟	日本海の低気圧が発達したため、日本海側を中心に広範囲で南よりの暴風となった。 (日最大風速) 敦賀 18.2m/s(南南東)14時35分 三国 17.5m/s(南南東)15時40分 (日最大瞬間風速) 美浜 29.8m/s(東南東)14時16分 敦賀 29.7m/s(南東)14時21分
2022 (令和4) 7.3	大雨	(1)公共土木施設被害 24,305千円	気圧の谷と湿った空気の影響で、大気の状態が不安定となった。 <日最大1時間降水量> 福井 70.0mm 3日 19時36分 勝山 40.5mm 3日 20時29分 美山 35.0mm 3日 19時41分 大野 33.5mm 3日 20時17分 <日降水量> 福井 102.5mm 勝山 63.0mm 大野 53.0mm 武生 49.0mm

年月日	種類	被害状況	気象状況
2022 (令和4) 8.4~ 8.5	大雨 【福井 県災害 対策本 部設置】	(1)住家被害 全壊 8棟 半壊 70棟 一部破損 1棟 床上浸水 85棟 床下浸水 184棟 (2)非住家被害 その他 14棟 (3)農林水産業施設被害 305,000千円 (4)公共土木施設被害 6,148,801千円 (5)その他被害 2,000千円 (6)災害対策本部設置市町村 敦賀市、勝山市、大野市、鯖江市、 越前市、南越前町、越前町	8月4日から5日は、日本海から北陸地方を 通って日本の東にのびる前線がゆっくり南下 した。日本の南に中心を持つ高気圧の縁をま わる暖かく湿った空気が前線に向かって流れ 込んだ影響や、上空の寒気の影響で大気の状態 が不安定となった。4日昼前には奥越で猛烈 な雨が降り、激しい雨が同じ場所で降り続い たことから「線状降水帯」が発生した。5日明 け方から朝にかけて嶺北南部や嶺南東部に 次々と発達した積乱雲が流れ込み、断続的に 猛烈な雨が降り記録的な大雨を観測した。 <日最大1時間降水量> 今庄 74.0mm 5日 09時13分 美浜 66.0mm 5日 06時58分 九頭竜 65.5mm 4日 07時31分 勝山 56.0mm 4日 09時27分 大野 56.0mm 4日 09時17分 <期間降水量(3日~5日)> 今庄 426.0mm 武生 233.5mm 大野 219.5mm 九頭竜 206.5mm 福井 189.0mm 美山 186.0mm 勝山 182.0mm
2022 (令和4) 12.23~ 12.24	大雪	(1)人的被害 軽傷 1人	12月23日から24日にかけて、上空の強い 寒気が南下し冬型の気圧配置が強まった。 JPCZ が嶺北を南下したため、23日夜から 24 日明け方にかけて、断続的に活動が活発な雪 雲が流れ込み、奥越を中心に大雪を観測した。 (日降雪量最大値) 福井 14cm 12月23日 武生 11cm 12月23日 大野 28cm 12月23日 九頭竜 29cm 12月24日 今庄 11cm 12月24日 敦賀 2cm 12月24日 (最深積雪最大値) 福井 20cm 12月24日 武生 9cm 12月24日 大野 64cm 12月24日 九頭竜 87cm 12月24日 今庄 33cm 12月24日 敦賀 2cm 12月24日
2023 (令和5) 1.27~ 1.30	大雪	(1)人的被害 重傷 2人 軽傷 17人 (2)住家被害 一部破損 1棟	1月27日から30日にかけて冬型の気圧配置 が続くなか、同じ地域に次々と発達した雪雲 が流れ込み、28日未明には嶺南西部、28日 夜遅くには嶺南東部、29日夜にかけて嶺北で、 3時間降雪量が10-15センチを観測し、短時間 に降雪が強まった。特に、嶺南東部では、28 日昼過ぎから強い降雪が続き、夜遅くには若



年月日	種類	被害状況	気象状況																																							
			<p>狭湾から嶺南東部にかけて JPCZ が出現し降雪がさらに強まった。このため、29 日未明には山地で警報基準を上回る大雪を観測し、幹線道路では通行止めが発生した。</p> <p>(日降雪量最大値)</p> <table> <tr><td>福井</td><td>25cm</td><td>1月28日</td></tr> <tr><td>武生</td><td>26cm</td><td>1月28日</td></tr> <tr><td>大野</td><td>30cm</td><td>1月29日</td></tr> <tr><td>九頭竜</td><td>23cm</td><td>1月30日</td></tr> <tr><td>今庄</td><td>24cm</td><td>1月30日</td></tr> <tr><td>小浜</td><td>19cm</td><td>1月28日</td></tr> <tr><td>敦賀</td><td>25cm</td><td>1月28日</td></tr> </table> <p>(最深積雪最大値)</p> <table> <tr><td>福井</td><td>61cm</td><td>1月29日</td></tr> <tr><td>大野</td><td>93cm</td><td>1月30日</td></tr> <tr><td>九頭竜</td><td>139cm</td><td>1月30日</td></tr> <tr><td>今庄</td><td>59cm</td><td>1月30日</td></tr> <tr><td>小浜</td><td>32cm</td><td>1月28日</td></tr> <tr><td>敦賀</td><td>37cm</td><td>1月29日</td></tr> </table>	福井	25cm	1月28日	武生	26cm	1月28日	大野	30cm	1月29日	九頭竜	23cm	1月30日	今庄	24cm	1月30日	小浜	19cm	1月28日	敦賀	25cm	1月28日	福井	61cm	1月29日	大野	93cm	1月30日	九頭竜	139cm	1月30日	今庄	59cm	1月30日	小浜	32cm	1月28日	敦賀	37cm	1月29日
福井	25cm	1月28日																																								
武生	26cm	1月28日																																								
大野	30cm	1月29日																																								
九頭竜	23cm	1月30日																																								
今庄	24cm	1月30日																																								
小浜	19cm	1月28日																																								
敦賀	25cm	1月28日																																								
福井	61cm	1月29日																																								
大野	93cm	1月30日																																								
九頭竜	139cm	1月30日																																								
今庄	59cm	1月30日																																								
小浜	32cm	1月28日																																								
敦賀	37cm	1月29日																																								
2023 (令和5) 6.28～ 6.29	大雨	(1)公共土木施設被害 118,876 千円	<p>6 月 28 日から 29 日は、暖かく湿った空気や上空の寒気の影響で大気の状態が非常に不安定となった。このため、29 日未明から明け方にかけて嶺北南部や嶺南東部で非常に激しい雨が降った所があった。</p> <p>&lt;日最大1時間降水量&gt;</p> <table> <tr><td>今庄</td><td>59.0mm</td><td>29日</td><td>02時59分</td></tr> <tr><td>敦賀</td><td>52.5mm</td><td>29日</td><td>03時42分</td></tr> <tr><td>武生</td><td>22.5mm</td><td>29日</td><td>01時50分</td></tr> <tr><td>越廼</td><td>20.5mm</td><td>28日</td><td>23時33分</td></tr> </table> <p>&lt;期間降水量(28日～29日)&gt;</p> <table> <tr><td>今庄</td><td>147.5mm</td></tr> <tr><td>敦賀</td><td>136.5mm</td></tr> <tr><td>武生</td><td>80.5mm</td></tr> <tr><td>越廼</td><td>64.5mm</td></tr> </table>	今庄	59.0mm	29日	02時59分	敦賀	52.5mm	29日	03時42分	武生	22.5mm	29日	01時50分	越廼	20.5mm	28日	23時33分	今庄	147.5mm	敦賀	136.5mm	武生	80.5mm	越廼	64.5mm															
今庄	59.0mm	29日	02時59分																																							
敦賀	52.5mm	29日	03時42分																																							
武生	22.5mm	29日	01時50分																																							
越廼	20.5mm	28日	23時33分																																							
今庄	147.5mm																																									
敦賀	136.5mm																																									
武生	80.5mm																																									
越廼	64.5mm																																									
2023 (令和5) 7.12～ 7.13	大雨	<p>(1)住家被害 全壊 1棟 一部破損 1棟 床上浸水 16棟 床下浸水 133棟</p> <p>(2)非住家被害 その他 1棟</p> <p>(3)農林水産業施設被害 747,661 千円</p> <p>(4)公共土木施設被害 2,107,672 千円</p> <p>(5)その他の公共施設被害 7,824 千円</p> <p>(6)その他被害 6,189 千円</p>	<p>日本海にのびる梅雨前線が、12 日から 13 日にかけて北陸地方をゆっくり南下し、福井県付近に停滞した。この前線に向かって太平洋高気圧の縁を回って暖かく湿った空気が流入した。また、北陸地方の上空に寒気が流れ込んだ影響もあり、大気の状態が非常に不安定となった。特に 13 日未明から朝にかけては嶺北や嶺南東部で雷を伴って非常に激しい雨が降り、アメダス三国と越廼では日最大1時間降水量が観測史上1位の値を更新する大雨となった。この大雨の影響により、嶺北を中心に土砂災害や浸水害などが発生した。また、道路の通行止めや交通機関の運休などライフラインへの大きな影響があった。</p>																																							

年月日	種類	被害状況	気象状況
			<p>&lt;日最大1時間降水量&gt;</p> <p>越廼 69.0mm 13日 04時54分  三国 66.0mm 13日 01時19分  大野 49.0mm 13日 05時38分  福井 47.5mm 13日 04時46分  武生 44.5mm 13日 05時33分  勝山 44.0mm 13日 05時15分</p> <p>&lt;期間降水量(12日~13日)&gt;</p> <p>三国 159.5mm  越廼 142.0mm  美山 135.5mm  勝山 132.5mm  大野 131.5mm  武生 121.0mm  福井 118.5mm</p>
2023 (令和5) 12.21~ 12.22	大雪	(1)人的被害 軽傷 6人 (2)住家被害 一部破損 2棟	<p>12月21日から23日にかけては上空に強い寒気が入り冬型の気圧配置が強まった。特に21日夜から22日朝にかけては、海上からのびる発達した雪雲(JPCZ:日本海寒帯気団収束帯)により断続的に強い降雪となり、嶺北北部と奥越を中心に大雪となった。また、22日夕方から23日朝にかけては嶺北南部から嶺南東部にかけても降雪が強まり、大雪となった。</p> <p>(日降雪量最大値)</p> <p>福井 28cm 12月22日  武生 26cm 12月22日  大野 55cm 12月22日  九頭竜 53cm 12月22日  今庄 26cm 12月23日  敦賀 23cm 12月23日</p> <p>(最深積雪最大値)</p> <p>福井 38cm 12月23日  武生 21cm 12月23日  大野 61cm 12月23日  九頭竜 77cm 12月22日  今庄 41cm 12月23日  敦賀 29cm 12月23日</p>

## 第2章 令和5年の天候概況

### 1 天候の特徴

◇ 年(1月～12月)の概況

冬

1月は上旬と下旬に寒気の影響を受けて雨や雪の日が多く、中旬は高気圧に覆われて晴れ、暖かい空気に覆われて寒暖の差が大きくなった。2月は冬型の気圧配置が長続きせず、寒気の影響が少なく、嶺南を中心に気温の高い日が多くなった。

春

3月～5月は、寒気の影響を受けにくかったことや、高気圧に覆われて晴れた日が多くなったが、天気は数日の周期で変化した。

夏

6月～7月は、前線や低気圧の影響で曇りや雨の日が多くなった。また、前線の活動が活発となり、大雨となった日があった。7月下旬から8月は太平洋高気圧に覆われて晴れた日が多く、南から暖かい空気が流れ込みフェーン現象も発生した。その結果、8月は月平均気温が越廼を除いて統計開始以来1位となる記録的な高温となった。

秋

9月は、高気圧に覆われやすく晴れた日が多かったことや、暖かい空気に覆われやすかったため残暑が厳しく、月平均気温が全ての地点で統計開始以来1位となる記録的な高温となった。10月～11月は暖かい空気や寒気の影響で寒暖の差が大きくなり、低気圧や前線の影響で大雨となった日があった。

冬

12月は、冬型の気圧配置や低気圧の影響で雨や曇りの日が多く、下旬は強い寒気が流れ込んだ影響で、大雪となった所もあった。

官署	平均気温			降水量			日照時間		
	本年 (°C)	平年差 (°C)	階級区分	本年 (mm)	平年比 (%)	階級区分	本年 (h)	平年比 (%)	階級区分
福井	16.2	1.4	かなり高い	2498.0	109	平年並	1955.5	118	かなり多い
敦賀	16.9	1.3	かなり高い	2417.5	110	多い	1906.2	119	かなり多い

※平年差(比)は、平年値(1991年～2020年の30年平均値)から求めています。

◇ 梅雨入り・明け

梅雨入り		梅雨明け	
令和5年(注1)	平年	令和5年(注1)	平年
6月9日ごろ(0)	6月11日ごろ	7月21日ごろ(0)	7月23日ごろ

(注1) 梅雨の入り・明けには平均的に5日間程度の遷移期間があり、その遷移期間のおおむね中日をもって「〇〇日ごろ」と表現した。記号の意味は、(+)\*: かなり遅い、(+): 遅い、(0): 平年並、(-): 早い、(-)\*: かなり早い、の階級区分を表す。

◇ 台風

台風の年間発生数は平年より少ない17個(平年値25.1個)となり、日本への接近数は平年より少ない9個(平年値11.7個)、上陸数は1個(平年値3.0個)。北陸地方への接近数は2個(平年値2.8個)となった。

【台風発生数・上陸数】

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計	平年値
発生				1	1	1	3	6	2	2		1	17	25.1
上陸(注1)								1					1	3.0
北陸地方に接近した台風								1	1				2	2.8

(注1) 「上陸」は台風が北海道、本州、四国、九州の海岸線に達した場合を指します。

※台風の中心が新潟県、富山県、石川県、福井県のいずれかの気象官署から300km以内に入った場合を「北陸地方に接近した台風」としています。

※接近は2か月にまたがる場合があり、各月の接近数の合計と年間の接近数とは必ずしも一致しません。

2 月別気象概況

◇ 2023年 月別気象概況

1月

今期間は、はじめと終わりは冬型の気圧配置や寒気の影響で雨や雪の日が多くなった。中頃は高気圧に覆われて晴れた日もあった。また、中旬は暖かい空気に覆われやすかった一方、下旬は強い寒気の影響を受けやすかったため、気温の変動が大きくなった。

平均気温は、福井、春江で平年より高く、その他の地点では平年並となった。

降水量は、九頭竜で平年よりかなり少なく、勝山、大野、美山、今庄で平年より少なく、三国、福井、武生、敦賀で平年並となり、その他の地点では平年より多くなった。

日照時間は、敦賀で平年より少なく、三国、越廼、勝山で多く、その他の地点では平年並となった。

2月

高気圧と低気圧が交互に通過して天気は数日の周期で変化した。なお、冬型の気圧配置は長続きせず、平均気温は嶺南中心に高くなった。

平均気温は、今庄、敦賀、美浜、小浜で平年より高く、その他の地点では平年並となった。  
降水量は、春江、今庄で平年並、美山、美浜、小浜、大飯で平年よりかなり少なく、その他の地点では平年より少なくなった。

日照時間は、三国、勝山、大野で平年並、その他の地点では平年より多くなった。

### 3月

天気は数日の周期で変化したが、高気圧に覆われて晴れた日が多くなった。南から暖かい空気が流れ込んだ影響で、月の平均気温は、全ての地点で3月として最も高くなった。

平均気温は、全ての地点で平年よりかなり高くなった。

降水量は、越廼で平年並となり、その他の地点では平年より少なくなった。

日照時間は、全ての地点で平年よりかなり多くなった。

### 4月

天気は数日の周期で変化した。上旬から中旬は、暖かい空気に覆われやすく、また南からの暖かい空気が流れ込んだ影響で20日は全ての地点で夏日となった。寒気の影響で、気温の低い日もあり気温の変動が大きい月となった。

平均気温は、全ての地点で平年より高くなった。

降水量は、勝山、大野、美山、武生、小浜、大飯で平年並、その他の地点では平年より多くなった。

日照時間は、福井、勝山、大野で平年より多く、その他の地点では平年並となった。

### 5月

天気は数日の周期で変化したが、高気圧に覆われて晴れた日が多くなった。また、7日から8日と29日は前線や低気圧の影響で奥越を中心に大雨となった所があった。

平均気温は、三国、福井、今庄、敦賀、美浜で平年より高く、その他の地点では平年並となった。

降水量は、大野、大飯でかなり多く、その他の地点では平年より多くなった。

日照時間は、三国、小浜で平年並、その他の地点では平年より多くなった。

### 6月

高気圧に覆われて晴れた日もあったが、前線や低気圧の影響で曇りや雨の日が多くなった。また、前線の活動が活発となり、大雨となった日もあった。

平均気温は、三国で平年よりかなり高く、大野で平年並となり、その他の地点では平年より高くなった。

降水量は、九頭竜、美浜、小浜、大飯で平年より多く、その他の地点では平年よりかなり多くなった。

日照時間は、美浜、小浜で平年より少なく、その他の地点では平年並となった。

### 7月

上旬から中旬は、北陸付近に梅雨前線が停滞した影響で曇りや雨の日が多くなった。特に12日から13日は、前線の活動が活発となり、嶺北と嶺南東部では大雨となった。また、下旬は、太

平洋高気圧に覆われて晴れた日が続いたことや暖かい空気に覆われた影響で、日最高気温35度以上の猛暑日が続いた所があった。

平均気温は、大野で平年より高く、その他の地点では平年よりかなり高くなった。

降水量は、三国、敦賀で平年より多く、小浜で平年より少なく、その他の地点では平年並となった。

日照時間は、三国、越廼、小浜で平年より多くなり、その他の地点では平年よりかなり多くなった。

## 8月

太平洋高気圧に覆われて晴れた日が多くなった。また、南から暖かい空気が流れ込みやすく、フェーン現象も発生したため、月平均気温が越廼を除いて統計開始以来で1位の高温となった。

平均気温は、全ての地点で平年よりかなり高くなった。

降水量は、九頭竜で平年より多く、敦賀、小浜で平年並となり、福井、美山、武生で平年よりかなり少なく、その他の地点では平年より少なくなった。

日照時間は、大野で平年並となり、その他の地点では平年より多くなった。

## 9月

暖かい空気に覆われたため、全ての地点で月平均気温の値が9月として統計開始以来1位の高温となった。6日は熱帯低気圧による湿った空気や前線の影響で、また、18日には上空の寒気や湿った空気の影響で大雨となった所があり、嶺北では両日とも猛烈な雨が降った。

平均気温は、全ての地点で平年よりかなり高くなった。

降水量は、越廼、勝山、大野、小浜、大飯で平年より少なく、その他の地点では平年並となった。

日照時間は、全ての地点では平年並となった。

## 10月

天気は数日の周期で変わり、高気圧に覆われて晴れた日もあったが、前線や低気圧の影響により雨や雷雨となった日もあった。

平均気温は、三国、敦賀、美浜、小浜で平年並、その他の地点では平年より低くなった。

降水量は、三国、春江、越廼、福井、美山、勝山、武生で平年より多く、その他の地点では平年並となった。

日照時間は、勝山、今庄、小浜で平年よりかなり多く、その他の地点では平年より多くなった。

## 11月

上旬を中心に高気圧に覆われて晴れた日が多くなったが、中旬以降は低気圧の通過後に上空の寒気が入り大気の状態が不安定となり、荒れた天気となった日もあった。また、月を通して気温の変動が大きくなり、特に中旬は、この時期として強い寒気が入ったため、嶺北では大雨となった所があった。

平均気温は、三国で平年よりかなり高く、その他の地点では平年より高くなった。

降水量は、小浜で平年より少なく、敦賀、大飯で平年並、越廼、福井、武生、今庄で平年よりかなり多く、その他の地点では平年より多くなった。

日照時間は、大野で平年並、小浜で平年よりかなり多く、その他の地点では平年より多くなった。

## 1 2月

高気圧に覆われて晴れた日もあったが、冬型の気圧配置や低気圧の影響で曇りや雨又は雪の降った日が多くなった。特に下旬は冬型の気圧配置が強まり、大雪となった日があった。

平均気温は、春江、勝山、大野で平年並、小浜で平年よりかなり高く、その他の地点では平年より高くなった。

降水量は、美浜で平年より少なく、大飯、小浜で平年よりかなり少なく、武生、大野、今庄、敦賀で平年並となり、その他の地点では平年より多くなった。

日照時間は、今庄で平年並、美浜、小浜で平年よりかなり多く、その他の地点では平年より多くなった。

## 第3章 防災訓練の実施状況

### I 総合防災訓練

令和5年度福井県総合防災訓練を次のとおり実施した。

#### 1 目的

災害対策基本法および福井県地域防災計画に基づき、防災関係機関が協力して迅速・的確に応急対策が実施できるよう、訓練会場の特色を活かした実践的な防災訓練を行い、併せて住民の防災に対する意識の高揚を図ることを目的に実施した。

#### 2 日時、場所

令和5年10月7日（土）8時30分～12時00分

- 主訓練会場 三国体育館（坂井市三国町）
- サテライト会場 福井空港（坂井市春江町）  
三国北小学校（坂井市三国町）  
三国運動公園（坂井市三国町）  
三国サンセットビーチ（坂井市三国町）  
福井港（坂井市三国町）

#### 3 主催

福井県、坂井市

#### 4 想定

福井県沖を震源とする震度7の地震発生後、坂井市およびあわら市の沿岸部に最大2mの津波が到達

#### 5 参加機関 約100機関（約1,300人）

##### （1）国の行政機関

東京管区気象台福井地方気象台、総務省北陸総合通信局、近畿地方整備局福井河川国道事務所、北陸地方整備局敦賀港湾事務所、近畿地方整備局舞鶴港湾事務所、敦賀海上保安本部



**(2) 自衛隊関係**

自衛隊福井地方協力本部、陸上自衛隊第14普通科連隊、陸上自衛隊第372施設中隊、海上自衛隊舞鶴地方総監部

**(3) 警察関係**

福井県警察本部、坂井西警察署、中部管区警察局福井県情報通信部

**(4) 消防関係**

福井県消防長会、福井市消防局、嶺北消防組合消防本部、永平寺町消防本部、大野市消防本部、勝山市消防本部、鯖江・丹生消防組合消防本部、南越消防組合消防本部、敦賀・美方消防組合消防本部、若狭消防組合消防本部、(公財)福井県消防協会、嶺北消防組合坂井消防団

**(5) 医療関係**

(一社)福井県医師会、福井県看護協会、日本赤十字社福井県支部、福井県赤十字血液センター、敦賀医療センター、福井県立病院、福井県済生会病院、福井大学医学部付属病院、福井総合病院、福井勝山総合病院、市立敦賀病院、杉田玄白記念公立小浜病院、(公財)松原病院

**(6) 交通運輸関係**

福井県トラック協会、福井県倉庫協会、赤帽福井県軽自動車運送協同組合

**(7) ライフライン関係**

北陸電力(株)福井支店、北陸電力送配電(株)福井支社、(一社)福井県LPGガス協会、福井県高圧ガス地域防災協議会、(一社)日本コミュニティーガス協会近畿支部、坂井市管工業協同組合、(株)道端組、福井県石油業協同組合

**(8) 報道関係**

福井放送(株)

**(9) 各種関係機関**

西日本電信電話(株)福井支店、(株)NTTフィールドテクノ、KDDI(株)、ソフトバンク(株)、楽天モバイル(株)、(株)NTTドコモ、大塚製薬(株)、(一財)北陸電

気保安協会福井地区本部、中日本高速道路株式会社金沢支社、福井県建築工業会、(有)ダイキョウコーポレーション、(公財)福井県国際交流協会、坂井市国際交流協会、(一社)福井県タクシー協会、坂井市赤十字奉仕団

(10) 他県関係

岐阜県、富山県、石川県

(11) 地元地区関係

坂井市

## 6 主な訓練項目

- (1) 現地合同調整所運営訓練 (被害情報の収集、情報に基づく各機関との調整)
- (2) 合同救出救助訓練 (海上自衛隊、海上保安庁、消防の連携による水難救助)
- (3) 避難所運営訓練 (LINEやマイナンバーカード等を活用した避難所受付)
- (4) 広域医療搬送訓練 (救急車およびヘリによる傷病者の搬送)
- (5) 救援物資輸送訓練 (陸海空での広域物資輸送)

## 令和5年度 福井県総合防災訓練 訓練項目

### 1 福井空港（エリアA）

No.	訓練項目
1	SCU設置運営訓練
2	広域物資搬送調整訓練
3	血液緊急輸送訓練 (岐阜県→福井空港)
4	広域物資搬送訓練 (県外→福井空港→福井埠頭株)

### 2 三国北小学校（エリアB）

No.	訓練項目
5	指定避難所開設運営訓練
6	住民避難訓練、避難誘導訓練
7	福祉アセスメント訓練
8	炊出し訓練
9	停電時電源応急対応訓練
10	避難所通信構築訓練
11	外国人避難訓練、外国人避難者支援訓練
12	広域物資搬送訓練 (福井埠頭株→三国北小学校)
13	要配慮者移送支援訓練 (三国北小→健康管理センター)

※その他、体験・展示あり

### 3 三国体育館駐車場（エリアC）

No.	訓練項目
14	現地合同調整所（陸上）設置運営訓練

15	災害情報広報訓練
16	交通規制訓練
17	吊り上げ救助訓練
18	ヘリ・ドローン・オフロードバイク等による被害状況確認および情報伝達訓練
19	架橋訓練
20	道路啓開訓練
21	土砂埋没家屋救助訓練
22	水防訓練① (排水ポンプ車)
23	水防訓練② (軽量土のう積み)
24	多数傷病者対応訓練
25	列車事故救助訓練
26	中高層建物救助訓練
27	血液緊急輸送訓練 (福井空港→三国体育館駐車場)
28	ドローンによる物資搬送訓練
29	LPガス漏洩緊急出動・応急処置訓練
30	水道管復旧訓練
31	火災防ぎょ訓練
32	各種体験・展示

#### 4 三国運動公園陸上競技場 (エリアD)

No.	訓練項目
33	広域物資搬送訓練 (県外→三国運動公園陸上競技場)
34	広域医療搬送訓練

#### 5 三国運動公園健康管理センター (エリアE)

No.	訓練項目
35	福祉避難所開設運営訓練
36	要配慮者避難訓練
37	保健所運営訓練
38	広域物資搬送訓練 (福井埠頭(株)→健康管理センター)
39	要配慮者移送支援訓練 (三国北小→健康管理センター)

## 6 三国サンセットビーチ (エリアF)

No.	訓練項目
40	現地合同調整所(海上)設置運営訓練
41	複数ドローンによる被害状況確認および映像伝送訓練
42	要救助者海面救助訓練
43	船上要救助者救出訓練
44	要救助者水中検索救助訓練

## 7 福井港 (エリアG)

No.	訓練項目
45	地域内輸送拠点開設運営訓練
46	広域物資搬送訓練 (県外港→福井港→福井埠頭(株))

## 8 その他

47	石油燃料供給訓練
----	----------

# 令和5年度 福井県原子力総合防災訓練 実施結果

## 1 目的

福井県原子力防災計画および福井県広域避難計画要綱に基づき、国、県、関係市町、防災関係機関および地域住民が一体となった原子力総合防災訓練を実施し、国、地方公共団体、原子力事業者、関係機関における初動対応の確立、防災体制の確認、住民避難体制や緊急時医療措置等の災害対策の習熟、原子力災害対策に係る要員の技能の習熟および原子力防災に関する住民理解の促進を図ることを目的とする。

## 2 実施日

令和5年10月20日（金） 8：30～15：30  
10月21日（土） 8：00～15：00

## 3 対象発電所

関西電力株式会社 高浜発電所

## 4 場 所

高浜町、おおい町、小浜市、若狭町の訓練実施市町

## 5 訓練参加数

（機 関）	約100機関	約2,000人
（住 民）	避難訓練参加	619人
	屋内退避参加	5,100人

## 6 事故想定

高浜発電所1号機において、京都府北部を震源とした地震による外部電源喪失後、原子炉冷却材の漏えいが発生。さらに設備故障等により非常用炉心冷却装置による原子炉への全ての注水が不能となり、全面緊急事態となる。

## 7 参加・協力機関（順不同）

### （1）指定行政機関

内閣府、原子力規制委員会 等

### （2）指定地方行政機関

気象庁福井地方气象台、近畿地方整備局福井河川国道事務所、海上保安庁第八管区海上保安本部、敦賀海上保安部、小浜海上保安署、陸上自衛隊中部方面総監部、陸上自衛隊第10師団司令部、陸上自衛隊第14普通科連隊、陸上自衛隊第10飛行隊、陸上自衛隊第372施設中隊、陸上自衛隊水陸機動団、海上自衛隊舞鶴地方総監部、海上自衛隊第1輸送隊、海上自衛隊第23飛行隊、航空自衛隊中部航空方面隊、航空自衛隊小松救難隊、自衛隊福井地方

協力本部 等

(3) 指定公共機関

日本原子力研究開発機構 等

(4) 自治体関係

福井県、京都府、滋賀県、兵庫県、関西広域連合

福井県高浜町、おおい町、小浜市、若狭町、敦賀市、鯖江市、越前市、越前町

滋賀県高島市

京都府舞鶴市、綾部市

兵庫県宝塚市、三田市、猪名川町

(5) 警察関係

福井県警察本部、小浜警察署 等

(6) 消防関係

若狭消防組合消防本部、敦賀美方消防組合消防本部、福井市消防局等

(7) 学校関係

福井県教育委員会、高浜町教育委員会、おおい町教育委員会、小浜市教育委員会、若狭町教育委員会 等

(8) 医療機関関係

(一社)福井県医師会、(一社)福井県薬剤師会、(公社)福井県診療放射線技師会、福井赤十字病院、福井県立病院、福井大学医学部附属病院、地域医療機能推進機構若狭高浜病院、広島大学 等

(9) 福祉関係

高浜町社会福祉協議会、公立小浜病院組合、医療法人東山会、社会福祉法人友愛会、社会福祉法人ふくい福祉事業団、社会福祉法人嶺南福祉会、(独)地域医療機能推進機構 等

(10) 交通運輸関係

(公社)福井県バス協会、(一社)福井県トラック協会、中日本高速道路(株)金沢支社、西日本高速道路(株)関西支社、敦賀海陸運輸(株)、小浜貨物自動車(株) 等

(11) 漁業関係

大島漁業協同組合、若狭高浜漁業協同組合、小浜市漁業協同組合 等

(12) その他

(株)NTTドコモ北陸支社、KDD I(株)北陸総支社、ソフトバンク(株)、楽天モバイル(株)、

(株)コネクター・ジャパン、(株)サイバーエージェント、(株)AI SHIFT、

北陸地方非常通信協議会、大塚製薬(株)、(株)バロー、福井県民生活協同組合 等

(13) 原子力事業者関係

関西電力(株)、日本原子力発電(株)、日本原子力研究開発機構、関電プラント(株) 等

## 8 住民参加

○PAZ 159人

避難元		避難先		人数
高浜町	在宅	敦賀市	あいあいプラザ	9人
	外国人	高浜町	(有)かつみソーイング → 高浜小学校	19人
	一般	兵庫県宝塚市	宝塚市総合福祉センター	33人
		兵庫県三田市	三田市立駒ヶ谷運動公園体育館	50人
		兵庫県猪名川町	猪名川町文化体育館	13人
		(孤立地域からの搬送訓練)	関電音海HP (ヘリ) → 海上自衛隊舞鶴基地 → 三田市立駒ヶ谷運動公園体育館	20人
		(孤立地域からの搬送訓練)	日引漁港 (ヘリ) → 和田マリーナ → 三田市立駒ヶ谷運動公園体育館	3人
(孤立地域からの搬送訓練)	小黑飯・難波江 (高機動車) → エルどらんど → 三田市立駒ヶ谷運動公園体育館	12人		

○UPZ 460人

避難元		避難先		人数
高浜町	一般	兵庫県三田市	三田市立駒ヶ谷運動公園体育館	33人
		兵庫県猪名川町	猪名川町文化体育館	7人
		(孤立地域からの搬送訓練)	長井浜海水浴場 (LCAC) → 輸送艦おおすみ	36人
			和田マリーナ (ヘリ) → 輸送艦おおすみ	4人
おおい町	一般	敦賀市	敦賀市立体育館	177人
		(孤立地域からの搬送訓練)	大島漁港 (船舶) → 小浜漁港 → 敦賀市立体育館	12人
小浜市	一般	越前市	越前市万葉中学校	79人
		鯖江市	鯖江市鳥羽小学校	44人
		(孤立地域からの搬送訓練)	泊HP (ヘリ) → 若狭HP	3人
	福祉施設	鯖江市	アクール若狭 → みどり荘	6人
		越前市	やすらぎの郷 → 若越みどりの村	9人
若狭町	一般	越前町	越前町立城崎小学校	47人
		(孤立地域からの搬送訓練)	旧岬小学校 (ヘリ) → 敦賀港鞠山南HP	3人

PAZ・UPZ 総計	619人
------------	------

屋内退避	5,100人
------	--------

参加住民	5,719人
------	--------



## 9 訓練項目

### (1) 住民避難訓練

- ア 県内外の避難先施設への避難
  - 県内避難 448人 (PAZ: 28人、UPZ: 420人)
  - 県外避難 171人 (PAZ: 131人、UPZ: 40人)
- イ 自衛隊車両、民間バス、自家用車による住民等の陸路からの避難
  - 陸上自衛隊高機動車2台、県バス協会バス34台、自家用車57台
- ウ 自衛隊、海上保安庁等のヘリコプターおよび船舶による住民等の空路、海路からの避難
  - [空路] 陸上自衛隊ヘリ 1機、海上自衛隊ヘリ 1機、航空自衛隊ヘリ 1機、  
県防災ヘリ 1機
  - [海路] 海上自衛隊船舶 2隻、海上保安庁船舶 2隻
- エ 避難車両中継所における自衛隊車両等から民間バスへの乗継
- オ 消防団等による自家用車避難済み住民等の確認

### (2) 避難所開設運営訓練

- ア 避難所の設置運営および受入マニュアル等に基づく避難者受入の実施
- イ 県外への避難における受入訓練の実施
  - 3施設 (宝塚市総合福祉センター (兵庫県宝塚市)、三田市立駒ヶ谷運動公園体育館 (兵庫県三田市)、猪名川町文化体育館 (兵庫県猪名川町))
- ウ 避難元、避難先自治体における情報伝達の確認および福井県、兵庫県との連携
- エ 避難者の受付 (避難退域時検査受検の有無の確認も含む)
- オ 避難先施設における避難者への健康状態の確認
- カ 災害時応援協定に基づく県トラック協会による物資の調達、搬送
- キ 飲料水・飲食物の供給
- ケ 避難時における避難住民への事故状況等説明の実施

### (3) 避難行動要支援者避難訓練

- ア 児童園児の保護者への引渡し
- イ 入院患者、福祉施設入所者等の避難先施設への搬送
  - 小浜市 2施設 (アクール若狭、やすらぎの里)
- ウ 在宅の要配慮者の避難先となる福祉避難所への搬送
  - 高浜町: 敦賀市あいあいプラザ
- オ 消防、市町社協、福祉施設、原子力事業者が保有する救急車や福祉車両による搬送
  - 福祉車両 9台
- カ 放射線防護のための換気設備を使用した屋内退避
- キ 避難先施設における避難者への健康状態の確認
- ク 警察による避難車両のパトカー先導

### (4) 原子力災害医療措置訓練

- ア 福井県緊急時医療本部等の設置・運営
- イ 避難経路上における安定ヨウ素剤の緊急配布
  - (1) 一時集合場所におけるバス車内での配布
    - 配布場所および配布数 (8箇所、319人)
    - (エルどらんど、はまかぜ交流センター、おおい町総合町民センター、ふるさと交流センター、里山文

- 化交流センター、西津コミュニティセンター、加斗小学校、野木小学校)
- (2) 自家用車に対するドライブスルー方式の配布  
配布場所および配布数（４箇所、１０８人）  
（高浜町保健福祉センター、おおい町総合町民福祉センター、若狭合同庁舎、若狭町役場三方庁舎）
- ウ スクリーニングおよび簡易除染の実施  
実施場所および対象数等（２箇所、４２７人）  
（敦賀市総合運動公園、あやべ球場）  
自衛隊による車両除染の実施
- エ 発電所内で発生した被ばく患者の原子力災害拠点病院（福井県立病院、福井大学病院）への搬送※実搬送は福井県立病院のみ
- オ 原子力事業者、原子力災害医療協力機関の参画
- カ 広島大学（高度被ばく医療支援センター）との連携
- (5) 屋内退避訓練
- ア UPZ住民による自宅等での屋内退避行動（戸締、情報収集等）の実施
- イ 避難に備え、非常用持出品（保険証、常備薬等）の準備
- ウ 家屋倒壊により屋内退避できない住民による近隣の指定避難所への退避
- エ 屋内退避の意義等の理解促進活動の実施（ケーブルテレビにおいて啓発番組の放送）
- (6) 複合災害対応訓練
- ア 複合災害時における防災関係機関間の情報伝達、対応要請の確認
- イ 自衛隊、海上保安庁等による住民避難の支援
- (7) 緊急時通信連絡訓練
- ア 発電所から事故状況の通報連絡
- イ 国から県および関西広域連合、関係市町への通報連絡、避難指示等の伝達
- ウ 県、関係市町から自衛隊、海上保安庁、警察、消防、その他関係機関への通報連絡
- エ 事故発生から応急処理、復旧までの通信伝達、收受等
- オ 携帯型映像伝送装置等を利用した画像伝送
- カ 京都府警ヘリの映像伝送システムを利用した画像伝送
- キ 北陸地方非常通信協議会等による情報伝達
- (8) 災害対策本部等運営訓練
- ア 福井県庁、各市町庁舎、高浜原子力防災センターに災害対策本部等の設置・運営、情報収集・連絡体制を構築
- イ 災害対策本部等による住民に対する情報提供の実施  
（ケーブルテレビ、防災行政無線屋外拡声器、個別受信機、緊急情報メール、スマートフォンアプリ等による地域住民・立入者等への広報）
- ウ テレビ会議システム等を活用し災害対策本部と現地災害対策本部との対策会議等の実施
- (9) 原子力防災センター運営訓練
- ア 高浜原子力防災センターへの要員派遣
- イ 現地事故対策連絡会議、原子力災害合同対策協議会の開催（実施方針の決定等）
- ウ 各機能班の活動

- エ 県および市町現地災害対策本部等と各機能班との連携
- オ 住民等の避難状況の確認
- カ 防護措置方針に基づいた応急対策（避難先等の決定、避難手段の確保など）

(10) 緊急時モニタリング訓練

- ア 緊急時モニタリングセンター等の設置・運営
- イ 緊急時モニタリング実施計画、緊急時モニタリング指示書の作成
- ウ 固定観測局および電子線量計観測局を活用したUPZ内の線量率の測定
- エ モニタリングカー、サーベイメータを活用した避難範囲の特定のための線量率の測定
- オ 「緊急時モニタリング情報共有システム（ラミス）」を活用した関係機関との情報共有
- カ 固定観測局等のバックアップとしての可搬型モニタリングポストの設置および測定
- キ 環境試料の採取、受入
- ク 福井県モニタリング本部（高浜原子力防災センター）の設置・運営および後方支援
- ケ 原子力事業者間の相互応援による職員派遣および資機材の提供
- コ モニタリング要員被ばく管理および資機材等の汚染管理

(11) 自衛隊災害派遣運用訓練

- ア 高浜原子力防災センターへの連絡要員の派遣
- イ 住民の避難支援【再掲】
- ウ スクリーニング会場における車両除染の実施【再掲】

(12) 交通対策等措置訓練

- ア 主要交差点等における渋滞抑制対策の実施  
〔実施場所〕
  - 高浜町 2箇所（高浜町日置交差点、高浜町和田ビーチ交差点）
  - 小浜市 1箇所（小浜市岡津交差点）
- イ 福井県警へりくずりゅうによる高浜発電所周辺地域の上空調査
- ウ 道路管理者による道路点検の実施
- エ 福井県警察本部のオフロードバイクによる避難地域の情報収集活動
- オ 福井県警察警備艇わかさによる美浜発電所周辺の海上警備
- カ 立入制限措置
- キ 警察によるスクリーニング会場周辺道路における交通誘導

(13) 発電所事故制圧訓練

- ア 緊急時活動レベル（EAL）による通報連絡訓練
- イ 本店および発電所における緊急時対策本部設置・運営
- ウ 規制庁ERCとの連携
- エ 発電所における重大事故等発生時の対応
- オ 原子力緊急事態支援組織の参画
- カ 現地支援拠点等の支援体制の確立

Ⅲ 過去5年間の総合防災訓練等の実施状況

種別	年度	令和元	2	3	4	5
総合防災訓練	日時	令和元年11月1日(金)、2日(土)	令和2年11月14日(土)	令和3年11月13日(土)	令和4年10月8日(土)	令和5年10月7日(土)
	場所	中部縦貫道、真名川憩いの島	栗野スポーツセンター	鯖江市日野川河川敷	九頭竜川河川敷、勝山市体育館	三国体育館 他
	主催	消防庁 福井県消防協会 緊急消防援助隊中部ブロック訓練実行委員会	福井県、敦賀市	福井県、鯖江市	福井県、勝山市	福井県、坂井市
	参加機関	170	90	100	100	100
	訓練種目	75	45	50	43	48
	想定	奥越地域における大雨および地震による複合災害	大雨と地震による災害	大雨と地震による災害	大雨と地震による災害	津波を含む地震災害
	参加人員	2,000	700	1,050	1,150	1,300
	日時				令和4年10月23日(日)	
	場所				福井臨海地区石油コンビナート等特別防災区域およびその周辺海域	
	主催				福井県石油コンビナート等防災本部	
石油コンビナート等	参加機関	未開催	未開催	未開催	18	
	訓練種目				28	
	想定				地震と津波によるコンビナート災害	
	参加人員				約300	
	日時	令和元年8月30日(金)、31日(土)	令和2年8月27日(木)	令和3年10月29日(金)、30日(土)	令和4年11月4日(金)～6日(日)	令和5年10月20日(金)、21日(土)
	訓練対象施設	関西電力(株) 美浜発電所	関西電力(株) 大飯発電所、高浜発電所	関西電力(株) 美浜発電所	関西電力(株) 美浜発電所	関西電力(株) 高浜発電所
	主催	福井県	福井県	福井県	福井県	福井県
	参加機関	100	40	100	150	100
	訓練種目	13	10	13		
	想定	全交流電源喪失および原子炉冷却機能の喪失により、全面緊急事態に至り、放射性物質放出	全交流電源喪失および原子炉冷却機能の喪失により、全面緊急事態に至り、放射性物質放出	全交流電源喪失および原子炉冷却機能の喪失により、全面緊急事態に至り、放射性物質放出	全交流電源喪失および原子炉冷却機能の喪失により、全面緊急事態に至り、放射性物質放出	全交流電源喪失および原子炉冷却機能の喪失により、全面緊急事態に至り、放射性物質放出
参加人員	8,988	約50	約320	約650	約620	
原子力防災訓練	参加人員					

#### IV 市町別自主防災組織の結成状況

令和5年4月1日現在

	管内世帯数 (A)	自主防災組織 の組織数	隊員数	組織されている 地域の世帯数 (B)	組織率 (カバー率) (B/A)
福 井 市	106,722	1,143	74,661	102,325	95.9%
敦 賀 市	29,019	89	2,225	26,232	90.4%
小 浜 市	12,192	112	1,324	8,934	73.3%
大 野 市	11,578	181	6,025	11,091	95.8%
勝 山 市	7,072	117	1,189	6,988	98.8%
鯖 江 市	25,499	160	4,408	25,434	99.7%
あ わ ら 市	10,289	110	4,400	9,758	94.8%
越 前 市	31,295	239	80,337	31,295	100.0%
坂 井 市	32,963	328	4,557	25,302	76.8%
永 平 寺 町	6,378	89	3,621	6,378	100.0%
池 田 町	890	19	128	692	77.8%
南 越 前 町	3,361	72	1,049	3,296	98.1%
越 前 町	7,264	67	1,632	5,770	79.4%
美 浜 町	3,643	22	6,930	2,785	76.4%
高 浜 町	4,278	44	784	3,445	80.5%
お お い 町	3,254	46	2,353	2,353	72.3%
若 狭 町	4,951	88	1,292	4,658	94.1%
合計・ 平均	300,648	2,926	196,915	276,736	92.0%

管内世帯数：住民基本台帳法に基づく人口、世帯数調べ（令和5年4月1日現在）

隊 員 数：自主防災組織の組織編成において隊員または班員等に位置づけられている実働隊員の総数（令和5年4月1日現在）

## 第4章 防災行政無線利用状況

### 1 無線局の現況

防災行政無線局等一覧（令和6年4月1日現在）

〔固定系〕

区分	局数		設置場所	
	多重系	衛星系		
統制局	1	1	県庁	
中継局	7		越知山（越前町大谷寺） 久須夜ヶ岳（小浜市堅海） 村国山（越前市村国町） 八ツ杉（越前市別印町） 勝山（勝山市村岡町） 岳山（美浜町早瀬） 青葉山（高浜町中山）	
支部局	7	7	7 土木（福井、三国、奥越、丹南、鯖江丹生、敦賀、小浜）	
合庁局	1	1	1 合同庁舎（福井）	
ダム管等局	12		原子力センター 龍ヶ鼻ダム管※、龍ヶ鼻ダム下流連絡所※、永平寺堰堤※ 笹生川ダム管、笹生川堰堤※、浄土寺川堰堤※ 広野ダム管、広野堰堤※、榎谷堰堤※ 大津呂堰堤※、河内川堰堤※ ※水防無線局を含む	
小計	28	9		
端末局	県出先機関		13	健康福祉センター（福井、坂井、奥越、丹南、二州、若狭）、 県立病院、福井港湾、敦賀港湾、 衛生環境センター、防災航空事務所※ 坂井上水、日野川上水 ※福井空港は、併設局（防災航空隊）と共用
	市町		17	9 市：福井、敦賀、小浜、大野、勝山、鯖江、あわら、越前、坂井 8 町：永平寺、池田、南越前、越前、美浜、高浜、おおい、若狭
	消防本部		7	7 消防本部 福井、大野、勝山、永平寺、嶺北、南越、若狭 ※鯖江丹生消防・敦賀美方消防は併設局（鯖江市・敦賀市）と共用
	国・公共機関等		19	福井气象台、鯖江自衛隊、舞鶴自衛隊、敦賀海保、福井海保 日赤福井、福井県医師会、福井火力、福井石油備蓄、原電敦賀 関電美浜・高浜・大飯、ふげん、もんじゅ オフサイトセンター（敦賀、美浜、大飯、高浜）
	小計			56
可搬型地球局			3	
合計	28	68		

[移動系]

区 分		局 数	設 置 場 所
陸 上 基 地 局	全 県 移 動 260MHzデジタル	11	県庁統制局 中継局（越知山、久須夜ヶ岳、陣ヶ岡、村国山、岳山、青葉山、 八ツ杉、勝山） 土木事務所（敦賀） 笹生川ダム管
	F W A (18GHz)	1	坂井合同庁舎
	計	12	
航 空 局		6	防災航空事務所（可搬用含む）
陸 上 移 動 局	全 県 移 動 局 260MHzデジタル	車載型 46	県庁 3台 土木事務所 42台（福井6台、三国6台、奥越7台、丹南7台、鯖江丹生6台、 敦賀4台、小浜6台） 防災航空事務所
		半固定型 38	県出先機関 8台：健康福祉センター（福井、坂井、奥越、丹南、二州、若狭） 県立病院、防災航空事務所
			9市：福井、敦賀、小浜、大野、勝山、鯖江、あわら、越前、坂井
			8町：永平寺、池田、南越前、越前、美浜、高浜、おおい、若狭
			9消防本部：福井、大野、勝山、永平寺、嶺北、鯖江丹生、南越、敦賀美方、若狭
		4防災関係機関：NHK福井、福井放送、福井テレビ、FM福井	
		携帯型 70	県庁 30台、敦賀土木 20台、小浜土木 20台
	携帯型(他機関) 44	原子力センター 3台、地域医療課 41台	
	小 計 198		
	F W A (18GHz)	1	陣ヶ岡中継局
消 防 移 動 局	車載型 1	防災航空事務所	
	携帯型 10	県庁 1台、防災航空事務所 9台	
	小 計 11		
防 災 移 動 局	携帯型 5	防災航空事務所、400MHz 防災相互	
計	215		
携 帯 局(ヘリ用)		消防用 2	防災ヘリコプター
航 空 機 局		航行運航用 1	
ヘ リ サ ッ ト 局	携帯基地地球局	固定型 1	県庁局
	ヘリコプター局	ヘリ搭載型 1	防災ヘリコプター
	計	2	
合 計		238	

## 2 利用状況

### (1) 一般通話の利用状況

令和5年中

区 分	一年間の総計	一カ月当たりの平均使用回数	一局当たりの月平均使用回数
支 部 ・ 合 庁 局	218,979	18,248	(9局) 2,028
ダ ム 管 等 局	9,035	753	(11局) 68
県 出 先 機 関	4,516	376	(14局) 27
市 町	405	34	(17局) 2.0
消 防 本 部	145	12	(9局) 1.3
国 出 先 機 関	66	5.5	(5局) 1.1
公 共 機 関	43	3.6	(9局) 0.4
原 子 力 発 電 所 等	90	7.5	(10局) 0.8
合 計	233,279	19,440	(84局) 231

### (2) 一斉指令の利用状況

[指令内容別]

令和5年中

区 分	気 象 関 係				事務連絡	テスト	合 計
	警 報	注意報	情 報	計			
指 令 回 数	206	1,624	920	2,750	705	37	3,492
前年比 (%)	91	130	117	121	108	463	119

[指令種類別]

令和5年中

区 分	全 県	県出先	市 町	消 防	その他	合 計
指 令 回 数	3,167	27	303	277	0	3,774
前年比 (%)	118	245	151	154	0	122



## (3)一斉指令月別通信回数

令和5年中

区分	月												計
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
内容	気警報	8	0	0	0	49	54	36	18	0	4	29	206
	象注意報	156	106	104	110	82	90	199	189	152	180	137	1624
	関情報	93	63	70	24	46	61	127	136	24	67	141	920
	係小計	257	169	174	134	136	200	300	371	275	176	251	307
別	事務連絡	68	45	46	70	57	43	103	39	42	79	70	705
	テスト	0	0	3	1	7	4	0	1	6	0	6	37
種類	計	325	214	223	205	200	247	343	475	224	330	383	3492
	全県	315	213	216	189	191	226	297	354	211	304	354	3167
	県出先	0	0	0	0	5	5	0	2	4	4	5	27
	市町	10	4	7	9	4	18	53	113	23	11	24	27
別	消防	10	4	7	7	1	14	53	112	4	22	24	277
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	335	221	230	205	201	263	403	581	341	230	354	410	3774

備考)市町と消防へ一括して一斉指令した場合は、市町と消防の種類別において、それぞれ回数を計上

3 多重局通信用回数集計表

令和5年中

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
福井支部	1,464	1,529	1,844	1,517	1,657	1,930	1,870	1,657	1,435	1,430	1,351	1,492	19,176
三国支部・坂井合庁	2,081	2,159	2,554	2,420	2,465	2,510	2,218	1,937	1,844	1,985	2,024	1,819	26,016
奥越支部・奥越合庁	1,813	1,652	1,993	2,090	2,244	2,697	2,510	2,222	1,879	2,100	2,010	2,000	25,210
勝山中継局(注1)	140	190	259	220	194	269	278	235	261	259	275	243	2,823
丹南支部・南越合庁	3,589	3,344	3,708	3,401	3,657	3,958	3,024	2,825	3,062	3,156	3,094	2,613	39,431
鯖江丹生支部	780	1,003	1,030	877	981	820	934	767	791	717	747	535	9,982
敦賀支部・敦賀合庁	2,650	2,440	3,048	2,732	2,900	3,035	2,730	2,203	2,172	2,025	1,890	1,802	29,627
小浜支部・若狭合庁	2,836	2,883	3,237	2,928	3,201	3,571	3,329	2,755	2,700	2,654	2,543	2,329	34,966
福井合庁	2,479	2,487	2,922	2,717	2,938	3,395	2,813	2,730	2,290	2,519	2,287	2,171	31,748
原子力センター	234	295	253	225	292	369	342	260	318	324	279	263	3,454
笹生川ダム管	164	109	186	129	116	119	98	71	61	65	69	76	1,263
笹生川堰堤	0	0	0	2	4	14	2	1	3	3	9	2	40
浄土寺川堰堤	0	1	0	10	8	0	0	0	1	3	0	0	23
広野ダム管	188	241	264	245	420	296	216	236	249	192	211	202	2,960
広野堰堤	4	2	11	9	6	17	9	3	6	12	4	8	91
梶谷堰堤	4	2	9	8	10	18	22	17	7	17	13	4	131
龍ヶ鼻ダム管、永平寺堰堤	110	80	50	61	100	136	111	90	58	68	63	56	983
大津呂ダム管	0	5	4	0	27	9	0	7	5	4	4	4	69
河内川堰堤	0	0	1	1	0	10	0	0	0	2	7	0	21
計	18,536	18,422	21,373	19,592	21,220	23,173	20,506	18,016	17,142	17,535	16,880	15,619	228,014

(注1) 恐竜博物館への通信を含む

※土木事務所(支部局)と合同庁舎が隣接している局については、合算している。

## 4 端末局無線通信回数調

令和5年中

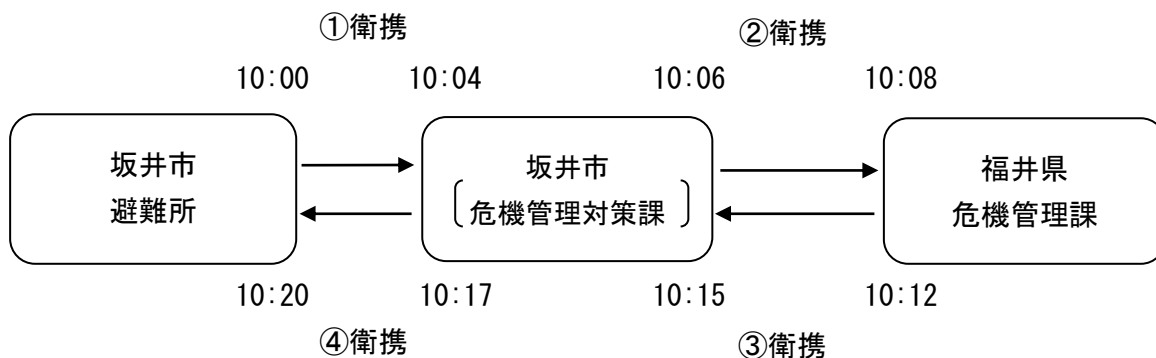
無 線 局	通信回数	無 線 局	通信回数	無 線 局	通信回数
福 井 市	24	福 井 消 防	14	福 井 気 象 台	47
敦 賀 市	19	大 野 消 防	13	鯖 江 自 衛 隊	9
小 浜 市	18	勝 山 消 防	20	舞 鶴 自 衛 隊	4
大 野 市	28	永 平 寺 消 防	13	敦 賀 海 保	4
勝 山 市	26	嶺 北 消 防	17	福 井 海 保	2
鯖 江 市	24	鯖江丹生消防	15	国 出 先 計	66
あ わ ら 市	19	南 越 消 防	12	福 井 駅	2
越 前 市	20	敦賀美方消防	16	N H K 福 井	3
坂 井 市	19	若 狭 消 防	25	福 井 テ レ ビ	3
市 計	197	消 防 計	145	福 井 放 送	3
永 平 寺 町	50	福 井 保 健	20	F M 福 井	3
池 田 町	29	若 狭 保 健	46	日 赤 福 井	2
南 越 前 町	27	二 州 保 健	88	福 井 県 医 師 会	3
越 前 町	19	丹 南 保 健	1,046	福 井 火 力	6
美 浜 町	26	坂 井 保 健	20	福 井 備 蓄	18
若 狭 町	19	奥 越 保 健	30	公 共 機 関 計	43
お お い 町	24	衛 生 環 境 セ ン タ ー	1,290	原 電 敦 賀	11
高 浜 町	14	県 立 病 院	20	関 電 美 浜	10
町 計	208	防 災 航 空 隊	19	関 電 大 飯	9
市 町 計	405	福 井 港 湾	353	関 電 高 浜	7
		敦 賀 港 湾	1,006	原 子 力 機 構 ふ げ ん	6
		福 井 空 港	423	原 子 力 機 構 も ん じ ゅ	10
		坂 井 上 水	51	敦 賀 オ フ サ イ ト	9
		日 野 川 上 水	104	美 浜 オ フ サ イ ト	12
		県 出 先 計	4,516	大 飯 オ フ サ イ ト	7
				高 浜 オ フ サ イ ト	9
				原 子 力 発 電 所 等 計	90
				合 計	5,265

※衛星回線による、端末局同士の通信回数はカウントされていない

## 5 非常通信訓練実施状況

(1) 令和5年度福井県総合防災訓練における非常通信訓練（令和5年10月6日）

・坂井市役所から福井県あて往復信

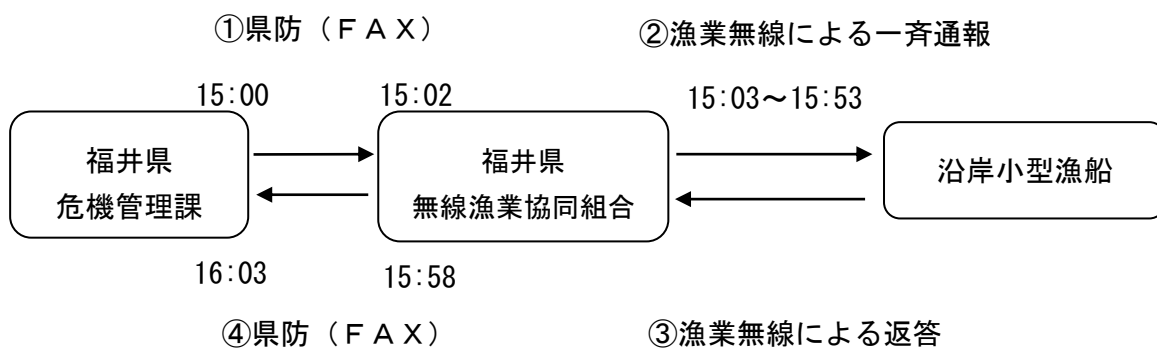


(参考)

・衛携：衛星携帯電話

(2) 原子力総合防災訓練における非常通信訓練（令和5年10月20日）

・福井県から沿岸の船舶に向けて情報発信

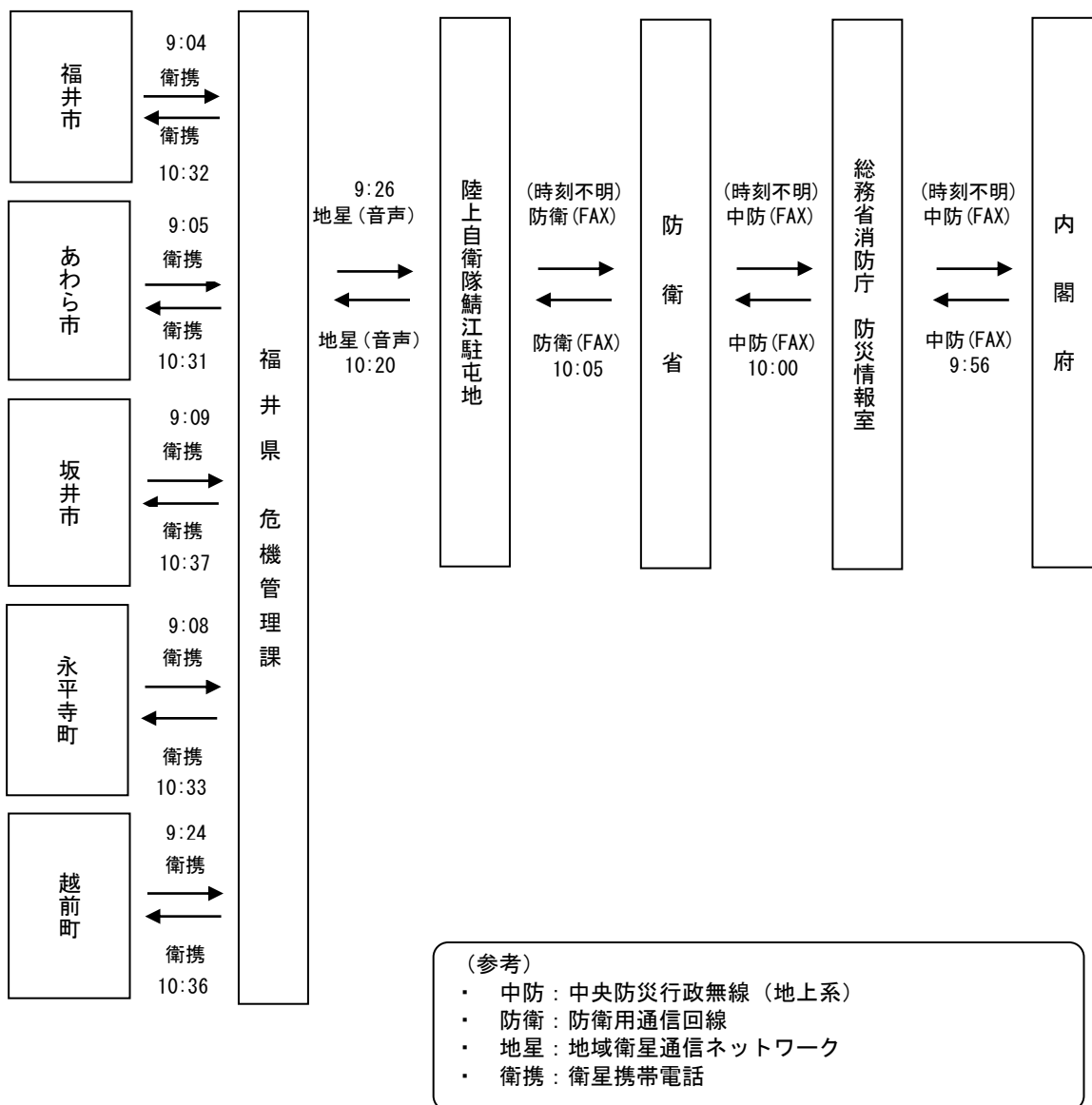


(参考)

・県防：県防災行政無線（地上系）

(3) 第86回全国非常通信訓練(令和5年11月8日)

- ・嶺北北部地方から福井県あて、福井県から内閣府へ往復信。市町～県庁間は衛星携帯電話(ワイドスターII)、県庁～陸上自衛隊間は地域衛星通信ネットワーク、陸上自衛隊～防衛省間は防衛用通信回線、防衛省～内閣府間は中央防災無線を使用。

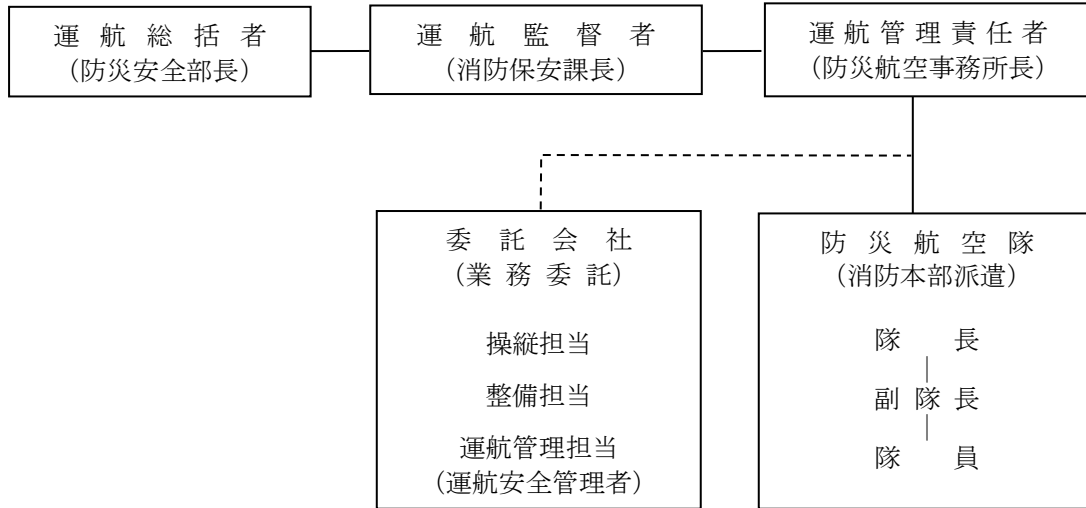


## 第5章 防災ヘリコプターの運航体制

### 1 運航基地

福井県防災航空事務所（福井空港内）

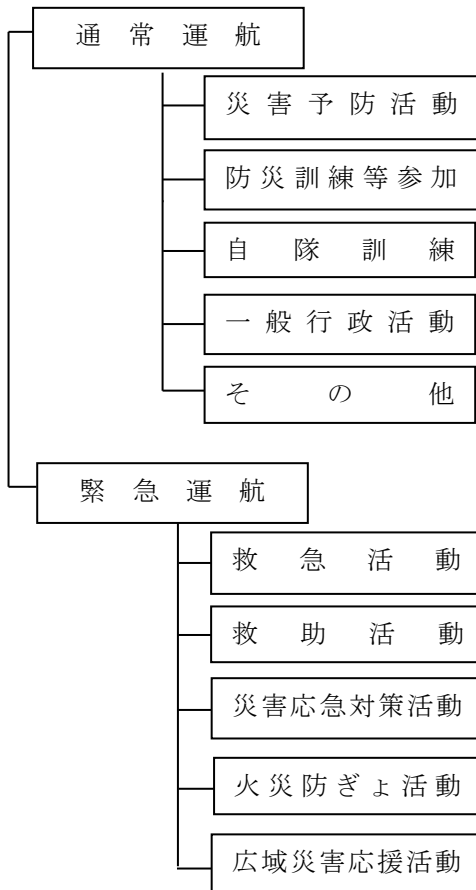
### 2 組織図



### 3 運航時間

毎日、午前8時30分から午後5時15分まで  
 （ただし、緊急運航の場合は日の出から日没まで）

### 4 活動業務



Blue Arrow 主要性能

機種	川崎BK117C-2
メーカー（製造国）	川崎重工業（日本）
エンジン最大出力	1,384SHP
エンジン基数	2基
搭乗人員	11人
最大全備重量	3,585kg
最大搭載可能重量	1,715kg
航続距離	685km
ホイスト装置	270kg
貨物吊り下げ装置	1,500kg
全長	13.03m
全高	3.95m
最大速度	278km/h
航続時間	約3.5h
着陸方式	スキッド式

第1表 福井県防災ヘリコプター運航実績表（年度別）

令和6年3月31日現在

区分	緊急運航						通常運航						合計		
	救急	救助	災害応急	火災防御	広域災害 応援	計	自隊訓練	連携訓練	防災訓練 参加	災害予防活動 危険箇所 調査	災害予防活動 災害予防 広報	一般行政		整備	その他
平成23年度	件数 25 時間 10:01	26 10:46	4 4:03	1 3:19	6 11:09	62 39:18	125 151:46		39 29:10		4 16:10	4 5:08	3 5:23	4 3:31	241 250:26
平成24年度	件数 25 時間 13:51	24 18:31		1 0:52	11 13:25	61 46:39	162 183:11		39 27:30		3 11:08	1 1:40	5 7:41	5 2:03	276 279:52
平成25年度	件数 29 時間 15:24	23 19:33	9 13:12		12 13:28	73 61:37	158 184:16		33 21:18		3 11:11	1 1:40	5 5:54	4 4:05	277 290:01
平成26年度	件数 28 時間 12:35	29 20:32			12 12:35	69 45:42	139 146:21		33 26:36	1 1:43	3 11:43	4 2:16	8 8:02	8 5:26	265 247:49
平成27年度	件数 36 時間 19:30	36 26:08			6 9:38	78 55:16	162 174:09		40 25:37			2 2:24	6 4:16	3 2:37	291 264:19
平成28年度	件数 37 時間 20:50	31 30:03			10 14:41	78 65:34	142 152:04		40 29:34			2 3:17	9 10:26	2 1:21	273 262:16
平成29年度	件数 28 時間 15:55	40 29:37		1 1:04	14 14:55	83 61:31	152 159:41		27 20:22			1 1:26	7 5:06	3 1:34	273 249:40
平成30年度	件数 21 時間 15:19	18 9:26	1 0:25	1 0:24	21 12:56	62 38:30	176 188:45		32 22:58				8 5:48	4 1:44	282 257:45
令和元年度	件数 25 時間 13:50	36 24:25	2 1:23		28 24:21	91 63:59	167 183:15		25 22:10				11 6:49	4 2:23	298 278:36
令和2年度	件数 35 時間 16:26	42 23:20	1 1:07	2 1:50	8 8:50	88 51:33	155 179:38		37 31:29				19 9:31	1 0:51	300 273:02
令和3年度	件数 27 時間 10:26	43 30:43	5 3:46	5 5:45	24 14:19	104 64:59	158 172:31		7 5:43				9 7:14	4 2:07	313 281:18
令和4年度	件数 29 時間 12:14	36 19:26	6 4:00	3 4:15	40 30:16	114 70:11	125 129:00		15 9:47				17 6:26	4 2:30	298 235:09
令和5年度	件数 31 時間 9:25	57 38:38		3 2:50	13 8:31	104 59:24	148 148:10		21 14:51				17 6:41	1 1:00	315 249:08

※年間の飛行時間は300時間が限度であるが、耐空検査を年度中に実施しているため、年度合計は300時間を超える場合がある

保 安 編

---





## 第1章 高圧ガス・液化石油ガス保安

### 概況

高圧ガスは、エネルギー、原料ガスおよび先端技術分野における特殊材料ガスなどに利用されるなど、その活用分野は広範囲である。ただし、高圧ガスは有用な反面、高圧状態であること、さらにガスの種類によって可燃性、支燃性および毒性などの化学的な特性があるため、大規模な事故や災害を巻き起こす危険性がある。

このため、高圧ガス保安法等の関係法令に基づく許可や届出義務などによる危害予防のための規制があるほか、高圧ガス事業者および高圧ガス保安協会による自主的な保安活動を促進するための各種の講習会などを通じた保安指導を実施している。

国内全体での高圧ガスの事故は、平成30年の870件をピークに減少傾向が続いていたが、令和3年、令和4年は前年比増加した。しかし、令和5年は前年比減少であった。(令和元年683件、令和2年622件、令和3年668件、令和4年733件、令和5年693件)。

なお、内訳で最も多いのが、冷凍設備がある製造事業所での事故(令和元年306件、令和2年260件、令和3年286件、令和4年314件、令和5年291件)である。

一方、高圧ガスのうち一般消費者等への販売にかかる液化石油ガス事故については、全国で平成18年に219件(前年比+114件)と急激な増加を見せた後は年によって増減の幅はあるものの、おおむね200件前後で推移し、令和5年は192件(前年比▲69件)であった。

県は、法令遵守はもとより、講習会、保安検査および立入検査などを定期または随時実施し、高圧ガス事業者等に対する指導を行なっている。特に、液化石油ガス事業者に対しては、液化石油ガス設備の点検・調査および改善などの法令遵守ならびに事故防止対策の徹底の指導などを通じ、一般消費者等の安全・安心を推進している。

第1表 市町別高圧ガス関係事業所数

令和6年3月31日現在

事業所 区分	製造事業者						販売事業者(店舗数)						貯蔵所						オートガススタンド	水素スタンド	保安機関	容器検査所											
	第1種			第2種			計	液化石油ガス			冷凍	計	第1種		第2種		計	一般					液化石油ガス	計									
	液化石油ガス	冷凍	小計	高圧法のみ	液化法のみ			小計	一般	大臣所管			知事所管	両方	大臣所管	知事所管									小計	一般	液化石油ガス	小計					
					大臣所管	知事所管																							大臣所管	知事所管			
一般	液化石油ガス	冷凍	小計	高圧法のみ	大臣所管	知事所管	両方	小計	冷凍	計	一般	液化石油ガス	小計	一般	液化石油ガス	小計																	
市町	13	20	8	41	29	0	226	255	296	109	23	3	5	6	55	69	344	522	8	4	12	18	1	19	31	10	15	25	5	1	63	7	
福井市	7	4	3	14	18	0	58	76	90	26	1	1	1	2	10	14	57	97	3	2	5	13	2	15	20	3	5	8	1	2	8	0	
敦賀市	1	2	3	6	5	0	18	23	29	8	0	0	0	4	6	10	27	45	1	0	1	3	0	3	4	2	0	2	1	0	6	0	
小浜市	0	2	0	2	3	0	24	27	29	5	0	0	3	3	14	20	33	58	2	0	2	1	0	1	3	1	0	1	1	0	12	0	
大野市	0	3	1	4	2	0	37	39	43	2	0	0	0	0	15	15	20	37	0	1	1	4	0	4	5	0	3	3	1	0	12	0	
勝山市	3	7	0	10	14	0	44	58	68	6	1	0	2	1	23	26	53	85	2	0	2	6	0	6	8	1	7	8	0	0	22	1	
鯖江市	3	1	1	5	9	0	35	44	49	1	0	0	0	0	9	9	20	30	0	0	0	2	2	4	4	2	2	4	1	0	7	0	
あわら市	16	7	1	24	6	0	94	100	124	22	7	0	1	2	26	29	67	118	7	3	10	8	0	8	18	10	5	15	0	0	23	0	
越前市	10	12	3	25	16	0	83	99	124	11	1	0	4	1	39	44	58	113	6	3	9	12	1	13	22	4	13	17	0	0	40	1	
坂井市	53	58	20	131	102	0	619	721	852	190	33	4	16	19	197	236	679	1105	29	13	42	67	6	73	115	33	50	83	10	3	193	9	
市計	0	1	1	2	3	0	14	17	19	1	0	0	0	0	4	4	17	22	0	0	0	1	0	1	1	1	0	1	0	0	3	1	
永平寺町	1	0	0	1	0	0	2	2	3	0	0	0	0	0	1	1	2	3	0	0	0	2	0	2	2	0	0	0	0	0	1	0	
池田町	1	0	0	1	0	0	2	2	3	0	0	0	0	0	1	1	2	3	0	0	0	2	0	2	2	0	0	0	0	0	1	0	
南越前町	1	0	6	7	0	0	5	5	12	0	0	0	0	0	3	3	6	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	
越前町	3	3	0	6	8	0	15	23	29	2	0	0	0	1	20	21	12	35	0	0	0	1	0	1	1	1	0	3	3	0	0	18	0
美浜町	0	0	1	1	2	0	5	7	8	0	0	0	0	0	2	2	6	8	2	0	2	7	0	7	9	1	0	1	0	0	2	0	
高浜町	0	1	0	1	6	0	13	19	20	3	0	0	1	0	1	2	6	11	9	0	9	8	0	8	17	1	0	1	0	1	0	1	0
おおい町	1	0	0	1	2	0	4	6	7	1	1	0	2	1	0	3	4	8	2	0	2	3	0	3	5	1	0	1	0	0	1	0	
若狭町	1	3	1	5	2	0	26	28	33	0	0	0	1	0	7	8	11	19	0	1	1	1	0	1	2	1	3	4	0	0	3	0	
町計	7	8	9	24	23	0	84	107	131	7	1	0	4	2	38	44	64	115	13	1	14	23	0	23	37	5	6	11	1	0	32	1	
県計	60	66	29	155	125	0	703	828	983	197	34	4	20	21	235	280	743	1220	42	14	56	90	6	96	152	38	56	94	11	3	225	10	

第2表 令和5年度高圧ガス保安法申請等状況

申請等種別		件数
製造	製造許可	1
	製造事業届	24
	製造変更許可	19
	完成検査(変更含む)	19
	保安検査	24
販売	販売事業届	8
貯蔵	貯蔵所設置許可	2
	貯蔵所設置届	5
	貯蔵所変更許可	4
	完成検査(変更含む)	6
消費	特定高圧ガス消費届	0
容器	容器検査所登録	0
	容器検査所登録更新	0
	ガス種類又は圧力の変更	0
計		112

第3表 令和5年度液化石油ガス法申請等状況

申請等種別	件数
販売事業登録	1
販売事業者登録簿謄本交付	3
販売事業者登録簿閲覧	0
販売事業者認定	0
保安機関認定	1
保安機関認定更新	80
一般消費者等増加認定	1
貯蔵施設等設置許可	1
貯蔵施設等設置変更許可	0
貯蔵施設等完成検査(変更含む)	1
充てん設備許可	0
充てん設備変更許可	1
充てん設備完成検査(変更含む)	1
充てん設備保安検査	2
計	92

第4表 令和5年度高圧ガス製造保安責任者試験実施状況

種類	受験者区分	出願者数	受験者数	合格者数	合格率
		(人)	(人)	(人)	
			(A)	(B)	(B/A)
乙種化学	全科目受検者	20	17	4	23.5%
	科目免除者	5	5	5	100.0%
	計	25	22	9	40.9%
乙種機械	全科目受検者	23	19	6	31.6%
	科目免除者	2	1	1	100.0%
	計	25	20	7	35.0%
丙種化学 (液石丙化)	全科目受検者	32	28	5	17.9%
	科目免除者	19	19	18	94.7%
	計	51	47	23	48.9%
丙種化学 (特別丙化)	全科目受検者	40	33	14	42.4%
	科目免除者	23	23	22	95.7%
	計	63	56	36	64.3%
第二種 冷凍機械	全科目受検者	15	12	6	50.0%
	科目免除者	3	3	2	66.7%
	計	18	15	8	53.3%
第三種 冷凍機械	全科目受検者	50	42	15	35.7%
	科目免除者	8	7	5	71.4%
	計	58	49	20	40.8%
計	全科目受検者	180	151	50	33.1%
	科目免除者	60	58	53	91.4%
	計	240	209	103	49.3%

第5表 令和5年度高压ガス販売主任者試験実施状況

種類	受験者 区分	出願者数	受験者数	合格者数	合格率
		(人)	(人)	(人)	(B/A)
第一種 販売 主任者	全科目 受験者	19	18	8	44.4%
	科目 免除者	4	4	4	100.0%
	計	23	22	12	54.5%
第二種 販売 主任者	全科目 受験者	32	28	7	25.0%
	科目 免除者	32	31	26	83.9%
	計	64	59	33	55.9%
計	全科目 受験者	51	46	15	32.6%
	科目 免除者	36	35	30	85.7%
	計	87	81	45	55.6%

第6表 令和5年度液化石油ガス設備士試験実施状況

出願者	筆記試験 受験者	筆記試験 合格者	筆記試験 合格率	技能試験 受験者			技能試験 合格者	合格率
				全科目	筆記免除	計		
(人)	(人)	(人)		(人)	(人)	(人)	(人)	
	(A)	(B)	(B/A)			(C)	(D)	(D/C)
9	8	3	37.5%	3	1	4	4	100.0%

第7表 令和5年度高压ガス関係免状交付状況

免状の種 類	製造保安責任者						販売主任者	
	乙種化学	乙種機械	丙種化学 (液石丙化)	丙種化学 (特別丙化)	第二種 冷凍機械	第三種 冷凍機械	第一種 販売	第二種 販売
交付数 (件)	9	7	20	36	7	20	14	33
再交付数 (件)	2			1	1	1		2
書換数 (件)								1
計	11	7	20	37	8	21	14	36

第8表 令和5年度液化石油ガス関係免状交付状況

交付数(件)	再交付数(件)	書換数(件)	計
20	0	9	29

第9表 令和5年高圧ガス事故発生状況

ガスの種類	事故発生日	事故発生市町	事故の概況	人的被害			原因
				死者	重傷	軽傷	
酸素	R5.4.6	福井市	酸素の1.5m <sup>3</sup> 容器に調整器を取り付ける際、パッキンが入らず大ききの似たゴムパッキンにシリコングリスを塗布して取り付け、容器バルブを開いたところ、酸素が吹き出し火花が散った。バルブを閉めると数秒後に消えた。現場を確認したところ圧力調整器に穴が開いていた。作業員1名が左手の甲に火傷を負った。	0	0	1	油脂類厳禁の酸素ガス消費設備に誤ってシリコングリス(油脂類)を使用したため。
液化石油ガス	R5.6.23	越前町	バルクローリーへの払い出し作業を行った後、充填所内で容器への充填作業を行っていた作業員がローリーホース付近で何らかの音を聞いた。現場を確認したところローリーホースに一部亀裂が入っている事が判明した。	0	0	0	バルクローリーへの払い出し後のローリーホース内の液が温度上昇により液封状態となり、ホース劣化部に亀裂が入り裂けたため。
アセチレン・酸素	R5.7.13	大野市	大雨による増水でアセチレンガス6本、酸素ガス8本の容器が流された。	0	0	0	大雨による増水
酸素	R5.8.29	敦賀市	巡回点検時に、空気分離装置保冷槽下部より冷気が出ていることから、液酸素漏れと推定し空気分離装置を停止した。内部機器、配管系統での漏えいチェックを実施。液酸素ポンプから主凝縮器系統の保冷槽貫通部にある、スタブエンドつば部に亀裂を確認した。	0	0	0	熱収縮による応力が保冷槽貫通部に集中した事で、スタブエンドつば部に亀裂をもたらした。

酸素	R5.11.10	鯖江市	液化酸素製造設備の周囲を清掃していたところ、LGC充填架台の安全弁放出管を誤って踏んでしまったため、放出管と一緒に安全弁が引っ張られ、安全弁と安全弁元弁のろう付け部分が破断して酸素ガスが噴出した。	0	0	0	誤って安全弁放出管を踏んだことが起点となり、放出管と一緒に安全弁が引っ張られたこと 原因で、安全弁と安全弁元弁のろう付け部分が破断した。
アセチレン・酸素	R5.12.11	大野市	大雨による川の増水により、仮締切(土嚢)が全て流され、ボンベも流出した。	0	0	0	大雨による増水

第10表 令和5年液化石油ガス事故発生状況

事故発生日	事故発生市町	事故の概況	人的被害			原因
			死者	重傷	軽傷	
R5.3.10	若狭町	ガス使用機器が破損し、漏えいしたガスが引火、爆発した。	0	0	1	消費者の機器取扱いミス、事業者の点検の不備
R5.3.16	あわら市	消費者発注の工事業者が埋設ガス管を破損しガスが漏えいした。	0	0	0	消費者からガス事業者 に工事を行う旨の 事前通報がなかつた。
R5.7.16	越前市	ガス管破損により漏えいしたガスが、コンロ使用時に引火し、消費者が重傷を負った。	0	1	0	事業者のガス管取り付けの不備
R5.10.28	福井市	過度な外的圧力により可とう式埋設配管が変形しガスが漏えい、そこに落雷があり発火した。	0	0	0	過度な外的圧力による可とう式埋設配管の変形
R5.12.18	坂井市	消費者発注の工事業者が埋設ガス管を破損しガスが漏えいした。	0	0	0	消費者からガス事業者 に工事を行う旨の 事前通報がなかつた。



## 第2章 火薬類保安

### 概況

火薬類は、土木、採石、鉱山等の事業に使用されているほか、身近なものではがらん具煙火にいたるまで様々な種類があり、多岐にわたって利用されている。

しかし、その取扱いによっては大事故につながる恐れがあり、製造から消費にいたるまで厳しく規制を行うなど、安全性の確保が強く要求されている。

本県においては、県公安委員会との密接な連携のもとに立入検査による法の厳格かつ適切な運用を図るとともに、取り扱う者自らによる自主保安体制づくりが、事故予防上重要であることから、危害予防週間を通じ保安意識の啓蒙と普及に努めている。

また、許認可については、県では消防保安課の他、奥越農林総合事務所、嶺南振興局で行っているが、煙火および空包の許可については、平成8年度から県内各市町（消防本部）で行っている。

第1表 火薬類関係事業所等数

令和6年3月31日現在

(単位：件)

販売業者	火薬・爆薬および火工品	8
	競技用紙雷管	28
	合計	36
火薬庫	1級火薬庫	13
	2級	0
	3級	2
	煙火	5
	実包	1
	合計	21
庫外貯蔵所	販売業者所有	13
	その他所有	9
	合計	22

第2表 銃砲関係事業所数

業 種	事業所数
販 売	1
製造（修理・改造のみ）および販売	3
計	4

第3表 火薬類（爆薬）の消費量の推移

(単位：t)

業種 年度	鉱山	石灰石	土木	採(砕)石	その他	合計
平成29	9	3	694	86	1	793
30	12	4	803	152	0	971
令和元	1	0	156	83	0	240
2	1	0	46	159	0	206
3	0	0	85	104	0	189
4	0	0	145	69	0	214
5	0	0	48	77	0	125

第4表 火薬類取扱および丙種火薬類製造保安責任者試験実施状況

種 別	出願者数(人)	受験者数(人) (A)	合格者(人) (B)	合格率(%) (B/A)
甲 種	48	42	24	57.1
乙 種	6	6	2	33.3
丙 種	0	0	0	0.0
計	54	48	26	54.2

会場：9月3日（日）福井県自治会館

第5表 令和5年度火薬類保安講習関係講習会実施状況

講 習 会 名	回 数(回)	受講者数(人)
火薬類取扱者再教育・保安教育講習会	8	280
火薬類取扱保安責任者養成講習会	1	13
煙火消費保安講習会	1	104

## 第6表 令和5年度火薬類許可申請等の状況

### (1) 県許可申請等

区 分	種 別		件 数 (件)
消防保安課	譲 受	火工品のみ	0
		25kg 以下	2
		上 記 以 外	16
	譲 渡		2
	火 薬 庫 設 置		0
	火 薬 庫 変 更		0
	火薬庫完成検査 (設置)		0
	" (変更)		0
	火 薬 庫 保 安 検 査		9
	免 状 交 付		26
	免 状 再 交 付		5
	販 売 営 業		1
	計		61
奥越農林 総合事務所	譲 受	火工品のみ	0
		25kg 以下	0
		上 記 以 外	13
	譲 渡		4
計		17	
嶺南振興局 企画振興室 若狭	譲 受	火工品のみ	0
		25kg 以下	0
		上 記 以 外	3
	譲 渡		0
計		3	
嶺南振興局 企画振興室 二州	譲 受	火工品のみ	1
		25kg 以下	0
		上 記 以 外	3
	譲 渡		0
計		4	
合 計		85	

### (2) 市町許可申請等

消防本部名	区 分	種 別			件 数
		煙火消費	空包譲受	空包譲渡	
福 井 市		15	0	0	15
大 野 市		3	0	0	3
勝 山 市		4	0	0	4
永 平 寺 町		1	0	0	1
嶺 北 消 防 組 合		5	0	0	5
鯖 江 ・ 丹 生 消 防 組 合		5	0	0	5
南 越 消 防 組 合		12	0	0	12
敦 賀 美 方 消 防 組 合		6	0	0	6
若 狭 消 防 組 合		9	0	0	9
計		60	0	0	60

第7表 令和5年度事故発生状況

発生日	発生場所	区分	状況	被害	原因
なし					

